

上田市文化財調査報告書35集

# 林 之 郷

林之郷遺跡緊急発掘調査報告書

1989年3月

上田市教育委員会  
上小地方事務所

上田市文化財調査報告書35集

# 林 之 郷

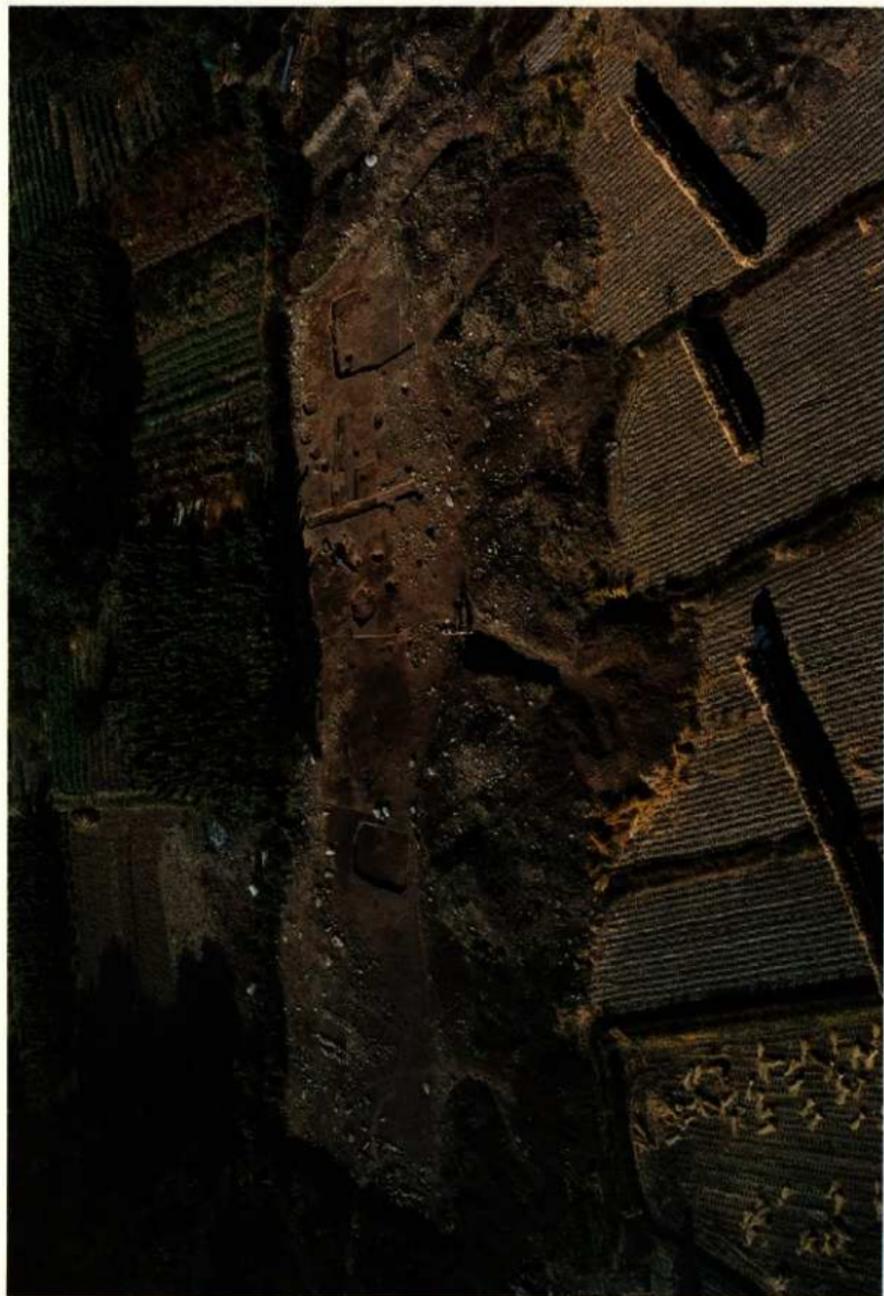
林之郷遺跡緊急発掘調査報告書

1989年3月

上田市教育委員会  
上小地方事務所

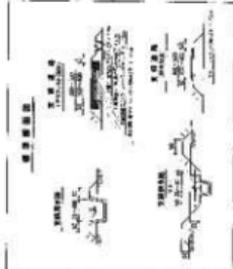
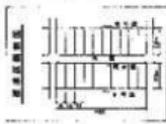
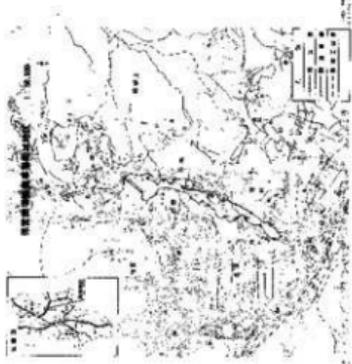
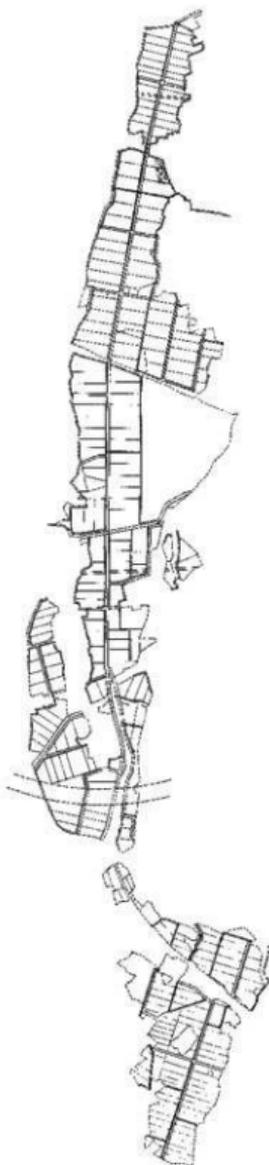


P. I 林之瀬遺跡 A 区透景



P. L. 2 林之鄉遺跡C区遺景

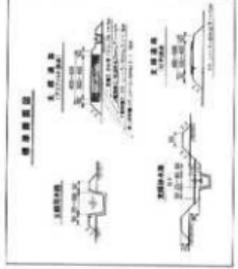
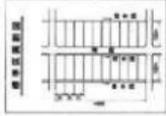
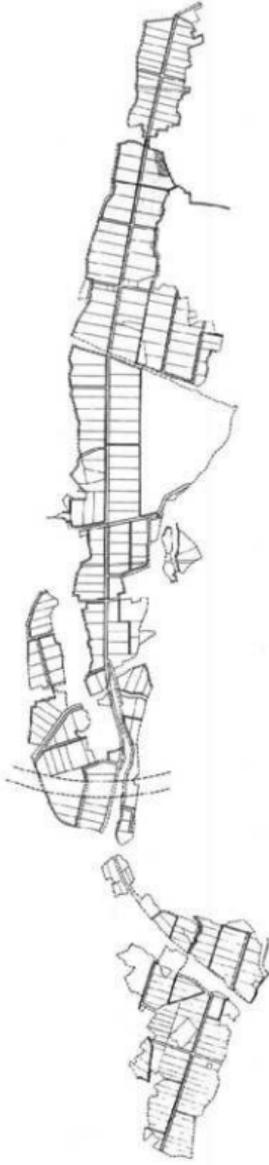
県営団場整備事業殿城地区計画平面図



A 區		B 區		C 區	
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42
43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54
55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66
67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78
79	80	81	82	83	84
85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96
97	98	99	100	101	102
103	104	105	106	107	108
109	110	111	112	113	114
115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126
127	128	129	130	131	132
133	134	135	136	137	138
139	140	141	142	143	144
145	146	147	148	149	150
151	152	153	154	155	156
157	158	159	160	161	162
163	164	165	166	167	168
169	170	171	172	173	174
175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186
187	188	189	190	191	192
193	194	195	196	197	198
199	200	201	202	203	204
205	206	207	208	209	210
211	212	213	214	215	216
217	218	219	220	221	222
223	224	225	226	227	228
229	230	231	232	233	234
235	236	237	238	239	240
241	242	243	244	245	246
247	248	249	250	251	252
253	254	255	256	257	258
259	260	261	262	263	264
265	266	267	268	269	270
271	272	273	274	275	276
277	278	279	280	281	282
283	284	285	286	287	288
289	290	291	292	293	294
295	296	297	298	299	300

第1図 殿城地区住居整備計画図

# 県営農場整備事業殿城地区計画平面図



凡 例	
	敷地境界
	敷地内道路
	敷地外道路
農作物表示記号	
	稲作 (水田)
	稲作 (旱田)
	雑穀
	果樹
	畜産
	その他

第1図 殿城地区農場整備計画図

昭和二十一年一月一日現在

## 序

上田市の北東部に位置する殿城地区には、古くから私たちの祖先が暮らし、数々の遺跡や古墳、城館跡、社寺等の文化財が現在に伝えられ、往時を偲ばせています。

このたび、この殿城地区にもほ場整備が始まり、また新たな歴史をこの土地に刻むこととなりました。このことは同時に、現在の私たちの祖先の足跡を根底から消し去ることであり、一概にそのどちらを選択するか、単純な議論で済まされる問題ではありません。現在の私たちは過去と未来に対して責任を迫らなければならないからです。

現在、各種の開発行為に際しては、この点を十分に検討し、遺跡の保護と開発をどのように並存させていくべきか常々苦慮している次第ですが、この度のは場整備については、次善の策として、「記念保存」という方策を選択しました。無論、この方策は万全ではありません。埋没している文化財をたとえどのような方法と理由であれ、白日のもとに晒すことは破壊行為であり、発掘調査といえどもその難を免れないからです。

このような責務を負って、調査団の顧問の先生方や調査員、作業員の皆さんには夏の猛暑のなか、たいへんな御尽力をいただき、林之郷遺跡が平安時代の集落遺跡であることが解明でき、上田市の歴史に新たな一頁を加えることができました。

林之郷遺跡の大部は未だ土の下に眠り、今回の調査でその余てが明らかとなったわけではありません。将来の調査、研究によってその余貌が明らかになると思われます。今回の調査がその一助となれば幸いです。

最後となりましたが、この度の調査では地元のは場整備実行委員会の皆さん、林之郷自治会の皆さんには終始絶大な御協力を賜り、殊に、調査対象地区となった地権者の方々には秋の実りを断念して頂くという無理なお願ひに対して、深い御理解と御協力を頂きました。ここに記して衷心より御礼申し上げる次第です。

平成元年3月25日

上田市教育委員会

教育長 赤羽 登

## 例 言

- 1 本書は長野県上田市人字林之郷における県営ほ場整備事業及びふれあい農園整備プロジェクト事業竣城地区に伴う、昭和63年度林之郷遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、上田市教育委員会が上田市教育委員会教育長赤羽奈を調査団長として、林之郷遺跡発掘調査団を編成し、調査を委託して実施した。なお、事務局は上田市教育委員会社会教育課においた。
- 3 発掘調査は遺物整理、報告書刊行まで含めて1988年(昭和63年)8月2日から1989年(平成元年)3月25日まで実施した。この間の調査は調査主任川上元の指導の下、主に中沢徳士があたり、調査補助員・作業員の協力をいただいた。
- 4 遺構の実測は倉沢正幸・中沢・河上純一・川崎康子が行い、トレースを中沢・河上・大原宏枝・青木国江が行った。
- 5 遺物の実測は、猪熊啓司・倉沢・中沢・河上・大原が行い、トレースを猪熊・倉沢・中沢・河上・大原・青木が行った。
- 6 本文の執筆は川上・猪熊・倉沢・中沢が行い、文責は目次に記した。なお、遺物の観察は実測者が行い、執筆者が確認した。
- 7 版組は主に中沢・河上が行い、大原・青木がこれを補佐した。
- 8 遺構の写真撮影は中沢が、遺物の写真撮影は中沢・河上が行った。
- 9 本調査の基準点及び標高の測量は有限会社写真測図研究所に、航空写真の撮影は株式会社富永調査事務所に業務委託して実施した。
- 10 遺物の復元作業は清水関二が行った。
- 11 本遺跡の資料は上田市教育委員会の責任下、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。
- 12 本書の編集作業は、事務局(上田市教育委員会社会教育課)が担当した。
- 13 本調査にあたり下記の皆さんにご協力、ご助言を賜った。記して感謝する次第である。

(地権者等) 酒井潤太郎、酒井澄幸、春原新三郎、春原春太郎、春原為平、渡辺一雄、渡辺盛長、春原穂積、酒井喜六、上原スギ、長沢準、春原通兄、春原貞治、荒井なみ江、滝沢勇、春原武雄、佐野宏、中村壽雄林之郷自治会長ほか自治会の皆さん、柳沢信ほ場整備実行委員会委員長、荒井甲子次ほか委員会の皆さん

小林秀夫、児玉卓文、百瀬長秀、倉田芳郎、太田喜美子、堀田雄二、保坂富雄、宮下信子、上小地方事務所土地改良第一、二課、上田市農村整備課、上田市農村環境改善センター

(順不同、敬称略)

14 本調査にかかわる林之郷遺跡発掘調査団の調査組織は次のとおりである。

顧問	五十嵐 幹 雄	(日本考古学協会員、上田市文化財保護審議会委員)
"	岩 佐 今朝人	(日本考古学協会員、上田小県誌考古編纂副主任)
団 長	赤 羽 寮	(上田市教育委員会委員長)
副 団 長	塩 入 恒	(上田市教育委員会教育次長) 昭和63年9月30日退任
"	中 島 孝 一	(上田市教育委員会教育次長) 昭和63年10月1日着任
調査主任	川 上 元	(日本考古学協会員、上田市立博物館庶務学芸係長)
調 査 員	塩 入 秀 敏	(日本考古学協会員、上田女子短期大学助教諭)
"	猪 熊 啓 司	(上小考古学会員、長野県長野高等学校教諭)
"	倉 沢 正 幸	(上田市立信濃国分寺資料館学芸員)
調査担当者	中 沢 徳 士	(上田市教育委員会社会教育課学芸員)
調 査 員	塩 崎 幸 次	(上田市教育委員会社会教育課嘱託)
事務局 長	清 水 万 伴	(上田市教育委員会社会教育課長)
事務局 次 長	富 田 篤	(上田市教育委員会社会教育課文化係長)
事務局 員	中 沢 徳 士	(上田市教育委員会教育課文化係)

15 発掘・整理作業に参加、協力していただいた方々

稲垣美麻(調査補助員)、井部定雄、河上純一、杏掛西蔵、小泉好武、小島唯夫、小山倍子、坂口興昌、清水関二、沼田亀治、林正治、堀内今朝次、長浜峰吉、関茂樹、岩下真、柳沢仁美、川崎康子、山崎美津子、春原慎、池志保、春原昇、春原ます子、江原義典、山崎好明、池田隆徳、白倉忠雄、村瀬白治男、松沢忠明、堀内節子、中沢利子、青木国江、大原宏枝

(順不同、敬称略)

## 凡 例

### 遺 構

- 1 竪穴住居址（SB-）、土塙（SK-）、ピット（P-）、溝址（SD-）、竪穴住居址の柱穴（P）の番号はランダムに付した。
- 2 遺構の版組は北を基準に行ったが、紙面の都合により例外もある。
- 3 遺構の縮尺は原図1/20を使用し、縮尺 1/3を基本とした。なお、竪穴住居址竈については原図1/10を使用し、縮尺 1/3を基本とした。
- 4 遺構が時代の新しい遺構によって、あるいは複乱等によって破壊を受け、プランが明確でない場合は古い遺構を破線で示した。
- 5 竪穴住居址の主軸方位は、国家座標の北と竈を通る住居址の中軸線とのなす角度で示してある。
- 6 土塙、ピット、柱穴の規模は、（長軸×短軸、深さ）で示した。
- 7 遺構断面図の標高は、すべてm単位で示してある。
- 8 竪穴住居址の床面積の計測にはプランメーターを用いた。
- 9 遺構の層序説明は本文中に記した。
- 10 挿図中におけるスクリーントーンは以下のものを示した。

 = 遺構断面図

 = 焼土

### 遺 物

- 1 遺物は縮尺 1/3とした。
- 2 土器の実測方法は4分割法を用い、右側 1/2に断面及び内面を、左側 1/2に外面を記録した。
- 3 黒色処理のある遺物はスクリーントーン  で表した。
- 4 篋削りの方向は  $\rightarrow$  で示した。
- 5 法量の単位はすべてcmであり、明確でない場合は〈 〉で示した。
- 6 出土遺物一覧表の器質は、胎土を「胎」、焼成を「焼」、色調を「色」と記載した。なお色調は農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修「新版 標準上色帖」1988年 を用いて判別した。
- 7 遺物番号は実測図版番号及び写真図版番号と一致している。

# 本文目次

序			
例言			
凡例			
第一章 序説	……1		
第1節 調査に至る経過	……1 (中沢)	13 第14号住居址	……69 (中沢)
第2節 調査の方法	……3 (＃)	14 第15号住居址	……70 (＃)
第3節 調査口誌	……4 (＃)	15 第16号住居址	……71 (猪熊)
		16 第17号住居址	……72 (＃)
第二章 遺跡の環境	……5	第2節 掘立柱建物址	……88
第1節 自然的環境	……5 (川上)	1 第1号掘立柱建物址	……88 (倉沢)
第2節 歴史的環境	……8 (＃)	2 第2号掘立柱建物址	……88 (＃)
第3節 遺跡の基本層序	……10 (中沢)	3 第3号掘立柱建物址	……92 (猪熊)
第三章 調査の結果	……11	第3節 土壌	……93
第1節 竪穴住居址	……11	1 A区の土壌	……93 (中沢)
1 第1号住居址	……11 (中沢)	2 C区の土壌	……95 (猪熊)
2 第2号住居址	……15 (＃)	第4節 溝址	……102
3 第3号住居址	……21 (倉沢)	1 第1号溝址	……102 (猪熊)
4 第4号住居址	……24 (中沢)	2 第2号溝址	……102 (＃)
5 第5号住居址	……29 (＃)	第5節 ビット	……103
6 第6号住居址	……33 (＃)		(中沢・猪熊)
7 第7号住居址	……34 (＃)	第6節 遺構外出土遺物	……114
8 第8号住居址	……38 (＃)	第四章 調査のまとめ	……129 (川上)
9 第9号住居址	……42 (＃)	図版	……103
10 第10号住居址	……52 (＃)	あとがき	……167 (中沢)
11 第11号住居址	……53 (猪熊)		
12 第13号住居址	……62 (中沢)		

# 挿 図 目 次

第1図	殿城地区は場整備計画図	第41図	第11号住居址出土遺物実測図(4)…58
第2図	林之郷遺跡の周辺遺跡分布図……6	第42図	第13号住居址実測図 ……63
第3図	土層様式図 ……10	第43図	第13号住居址竈実測図 ……63
第4図	第1号住居址実測図 ……12	第44図	第13号住居址出土遺物実測図(1)…66
第5図	第1号住居址出土遺物実測図……13	第45図	第13号住居址出土遺物実測図(2)…67
第6図	第2号住居址実測図 ……15	第46図	第13号住居址出土遺物実測図(3)…68
第7図	第2号住居址竈実測図 ……16	第47図	第14号住居址実測図 ……69
第8図	第2号住居址出土遺物実測図(1)…17	第48図	第15号住居址出土遺物実測図……70
第9図	第2号住居址出土遺物実測図(2)…18	第49図	第15号住居址実測図 ……71
第10図	第3号住居址実測図 ……20	第50図	第16・17号住居址実測図 ……74
第11図	第3号住居址竈実測図 ……22	第51図	第16・17号住居址竈実測図 ……74
第12図	第3号住居址出土遺物実測図(1)…22	第52図	第16号住居址出土遺物実測図(1)…79
第13図	第3号住居址出土遺物実測図(2)…23	第53図	第16号住居址出土遺物実測図(2)…80
第14図	第4号住居址実測図 ……25	第54図	第16号住居址出土遺物実測図(3)…81
第15図	第4号住居址竈実測図 ……26	第55図	第16号住居址出土遺物実測図(4)…82
第16図	第4号住居址出土遺物実測図(1)…26	第56図	第16号住居址出土遺物実測図(5)…83
第17図	第4号住居址出土遺物実測図(2)…27	第57図	第17号住居址出土遺物実測図(1)…86
第18図	第5号住居址実測図 ……29	第58図	第17号住居址出土遺物実測図(2)…87
第19図	第5号住居址竈実測図 ……30	第59図	第1号掘立柱建物址実測図 ……89,90
第20図	第5号住居址出土遺物実測図……31	第60図	第2号掘立柱建物址実測図 ……91
第21図	第6号住居址実測図 ……33	第61図	第3号掘立柱建物址実測図 ……92
第22図	第6号住居址出土遺物実測図……34	第62図	A区土塙実測図 ……94
第23図	第7号住居址実測図 ……35	第63図	C区土塙実測図(1) ……96
第24図	第7号住居址竈実測図 ……36	第64図	C区土塙実測図(2) ……96
第25図	第7号住居址出土遺物実測図(1)…36	第65図	第15号土塙出土遺物実測図(1)…100
第26図	第7号住居址出土遺物実測図(2)…37	第66図	第15号土塙出土遺物実測図(2)…101
第27図	第8号住居址実測図 ……39	第67図	第1号溝址実測図 ……102
第28図	第8号住居址出土遺物実測図……41	第68図	第2号溝址実測図 ……103
第29図	第9号住居址実測図 ……43,44	第69図	A区ビット実測図(1) ……106
第30図	第9号住居址竈実測図 ……45	第70図	A区ビット実測図(2) ……107
第31図	第9号住居址出土遺物実測図(1)…48	第71図	A区ビット実測図(3) ……108
第32図	第9号住居址出土遺物実測図(2)…49	第72図	A区ビット実測図(4) ……109
第33図	第9号住居址出土遺物実測図(3)…50	第73図	C区ビット実測図(1) ……109
第34図	第10号住居址実測図 ……51	第74図	C区ビット実測図(2) ……110
第35図	第10号住居址出土遺物実測図……51	第75図	C区ビット実測図(3) ……111
第36図	第11号住居址実測図 ……53	第76図	A区ビット出土遺物実測図(1)…112
第37図	第11号住居址竈実測図 ……54	第77図	A区ビット出土遺物実測図(2)…113
第38図	第11号住居址出土遺物実測図(1)…55	第78図	C区ビット出土遺物実測図 ……113
第39図	第11号住居址出土遺物実測図(2)…56	第79図	A区グリッド出土遺物実測図……114
第40図	第11号住居址出土遺物実測図(3)…57	第80図	C区グリッド出土遺物実測図(1)…115

第81図	C区グリッド出土遺物実測図(2)	116	第88図	C区グリッド出土遺物実測図(9)	123
第82図	C区グリッド出土遺物実測図(3)	117	第89図	C区グリッド出土遺物実測図(10)	125
第83図	C区グリッド出土遺物実測図(4)	118	第90図	C区グリッド出土遺物実測図(11)	126
第84図	C区グリッド出土遺物実測図(5)	119	第91図	C区グリッド出土遺物実測図(12)	127
第85図	C区グリッド出土遺物実測図(6)	120	第92図	C区グリッド出土遺物実測図(13)	128
第86図	C区グリッド出土遺物実測図(7)	121	第93図	A区遺構全体図	131, 132
第87図	C区グリッド出土遺物実測図(8)	122	第94図	C区遺構全体図	133

## 表 目 次

第1表	林之郷遺跡と周辺遺跡一覧表	7	第32表	第16号住居址出土遺物一覧表(4)	78
第2表	第1号住居址出土遺物一覧表(1)	12	第33表	第16号住居址出土遺物一覧表(5)	79
第3表	第1号住居址出土遺物一覧表(2)	14	第34表	第17号住居址出土遺物一覧表(1)	84
第4表	第2号住居址出土遺物一覧表(1)	18	第35表	第17号住居址出土遺物一覧表(2)	85
第5表	第2号住居址出土遺物一覧表(2)	19	第36表	第15号土壇出土遺物一覧表(1)	97
第6表	第3号住居址出土遺物一覧表(1)	23	第37表	第15号土壇出土遺物一覧表(2)	98
第7表	第3号住居址出土遺物一覧表(2)	24	第38表	第15号土壇出土遺物一覧表(3)	99
第8表	第4号住居址出土遺物一覧表(1)	27	第39表	第15号土壇出土遺物一覧表(4)	100
第9表	第4号住居址出土遺物一覧表(2)	28	第40表	ビット一覧表(1)	104
第10表	第5号住居址出土遺物一覧表	32	第41表	ビット一覧表(2)	105
第11表	第6号住居址出土遺物一覧表	34	第42表	A区ビット出土遺物一覧表(1)	111
第12表	第7号住居址出土遺物一覧表	38	第43表	A区ビット出土遺物一覧表(2)	112
第13表	第8号住居址出土遺物一覧表(1)	40	第44表	C区ビット出土遺物一覧表	113
第14表	第8号住居址出土遺物一覧表(2)	42	第45表	A区グリッド出土遺物一覧表	114
第15表	第9号住居址出土遺物一覧表(1)	46	第46表	C区グリッド出土遺物一覧表(1)	115
第16表	第9号住居址出土遺物一覧表(2)	47	第47表	C区グリッド出土遺物一覧表(2)	115
第17表	第9号住居址出土遺物一覧表(3)	48	第48表	C区グリッド出土遺物一覧表(3)	115
第18表	第10号住居址出土遺物一覧表	52	第49表	C区グリッド出土遺物一覧表(4)	116
第19表	第11号住居址出土遺物一覧表(1)	58	第50表	C区グリッド出土遺物一覧表(5)	118
第20表	第11号住居址出土遺物一覧表(2)	59	第51表	C区グリッド出土遺物一覧表(6)	119
第21表	第11号住居址出土遺物一覧表(3)	60	第52表	C区グリッド出土遺物一覧表(7)	120
第22表	第11号住居址出土遺物一覧表(4)	61	第53表	C区グリッド出土遺物一覧表(8)	121
第23表	第11号住居址出土遺物一覧表(5)	62	第54表	C区グリッド出土遺物一覧表(9)	122
第24表	第13号住居址出土遺物一覧表(1)	64	第55表	C区グリッド出土遺物一覧表(10)	123
第25表	第13号住居址出土遺物一覧表(2)	65	第56表	C区グリッド出土遺物一覧表(11)	124
第26表	第13号住居址出土遺物一覧表(3)	66	第57表	C区グリッド出土遺物一覧表(12)	126
第27表	第15号住居址出土遺物一覧表	70	第58表	C区グリッド出土遺物一覧表(13)	126
第28表	第16号住居址出土土坏の法量比率	73	第59表	C区グリッド出土遺物一覧表(14)	127
第29表	第16号住居址出土遺物一覧表(1)	75	第60表	C区グリッド出土遺物一覧表(15)	127
第30表	第16号住居址出土遺物一覧表(2)	76	第61表	C区グリッド出土遺物一覧表(16)	127
第31表	第16号住居址出土遺物一覧表(3)	77			

## 写 真 图 版 目 次

卷頭図版 1	林之郷遺跡A区遠景	
卷頭図版 2	林之郷遺跡C区全景	
図 版 1	林之郷遺跡付近航空写真	137
図 版 2	A区遠景、第1号住居址	138
図 版 3	第1号住居址出土遺物	139
図 版 4	第2号住居址・竈	140
図 版 5	第2号住居址出土遺物	141
図 版 6	第3号住居址・竈	142
図 版 7	第3号住居址出土遺物	143
図 版 8	第4号住居址・竈・出土遺物	144
図 版 9	第5号住居址・出土遺物	145
図 版 10	第6号住居址・出土遺物、第7号住居址	146
図 版 11	第7号住居址出土遺物、A区遠景	147
図 版 12	第8号住居址・出土遺物	148
図 版 13	第9号住居址・竈	149
図 版 14	第9号住居址出土遺物 (1)	150
図 版 15	第9号住居址出土遺物 (2)	151
図 版 16	第10号住居址・出土遺物、調査風景	152
図 版 17	第11号住居址・竈	153
図 版 18	第11号住居址出土遺物 (1)	154
図 版 19	第11号住居址出土遺物 (2)、C区遠景	155
図 版 20	第13号住居址・出土遺物 (1)	156
図 版 21	第13号住居址出土遺物 (2)	157
図 版 22	第15号住居址・出土遺物	158
図 版 23	第16・17号住居址・竈	159
図 版 24	第16号住居址出土遺物 (1)	160
図 版 25	第16号住居址出土遺物 (2)	161
図 版 26	第17号住居址出土遺物	162
図 版 27	第1号、第2号孤立柱建物址	163
図 版 28	ピット出土遺物	164
図 版 29	グリッド出土遺物、A区遠景	165
図 版 30	現地説明会、作業員記念写真	166

# 第一章 序 説

## 第1節 調査に至る経過

昭和62年6月23日付け農村発第80号で、上田市農政部農村整備課から「県営ほ場整備事業殿城地区における埋蔵文化財発掘調査について（協議）」として上田市殿城地区のは場整備事業を昭和63年度新規採択事業として計画している旨の協議があった。これによれば、上田市上青木地区から赤坂地区に及ぶ神川第二段丘上の水田、畑地等130haを総事業費1,820,000千円をもって営農の近代化と作物生産性の向上を図るため、ほ場整備を実施するというものである。

この事業区内には林之郷遺跡をはじめとする周知の埋蔵文化財包蔵地9ヶ所が存在しており、その総面積が86,000㎡に及び、かつてない調査量が予想された。上田市教育委員会事務局（以下市教委という）では昭和63年6月29日付け上教社発第100号で、事業の実施に当たっては埋蔵文化財の保護について十分な配慮と各事業年度ごとの遺跡保護協議を持つよう回答した。この後、昭和63年度事業に係る林之郷遺跡の保護協議を9月14日、11月6日の2回にわたって長野県教育委員会文化課、長野県上小地方事務所（事業主体者）、上田市農村整備課、市教委及び地元研究者である塩人秀敏氏を交えて開催し、その結果、調査面積1,800㎡以上を総事業費10,000千円（農政部局側負担額2,750千円、文化財保護部局側負担額＝農家負担分2,750千円）で発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図ることとなった。

ところが、昭和62年度も押詰まった昭和63年3月5日、事業主体者である上小地方事務所から62上小土改第162号で、新たに「ふれあい農園整備プロジェクト事業」が同地区で県営ほ場整備事業と併せて28haにわたって実施する旨の協議があった。これによれば、遺跡の事業に係る面積は61,250㎡に及び、約100,000千円にのぼる調査が必要とされた。この事業量は上田市では未曾有の調査量であり、市教委としては、これだけの調査への対応は「不可能」であるとの回答をせざるを得なかった。

この後、上小地方事務所、市教委で事業への対応策をそれぞれ検討し、昭和63年6月10日、再度文化課指導主事を交えて保護協議を開催した。この席上で上小地方事務所から事業の縮小案が提示され、一方市教委では至急遺跡の試掘調査を実施し、この結果をもとに改めて協議を行う旨の確認がされた。

市教委では7月6日から9日にわたって事業地区内に6本のトレンチを設定した試掘調査を実施した。この結果、平安時代前期を中心とした遺物包含層が地表から30～40cmのレベルで存在すること、遺跡の範囲は当初予想されたものよりやや狭いことが判明した。

7月21日、第4回目の保護協議を行い、ようやく下記の計画を以て昭和63年度のは場整備事業に係る遺跡の保護協議が成立したのである。

発掘調査地	上田市大字林之郷字金井、字狐塚
遺跡名	林之郷遺跡
発掘調査の目的及び概要	開発事業、県営ふれあい農園整備事業殿城地区に先立ち、 2,200㎡以上を発掘調査して記録保存をはかる。 調査報告書は昭和164年3月25日までに刊行するものとする
調査に要する経費	12,200,000円
発掘調査の主体者	上田市教育委員会
経費の負担割合	上小地方事務所 9,211,000円 (75.5%) 上田市教育委員会 2,989,000円 (24.5%)

この計画にしたいが、市教委では上小地方事務所から調査の事業委託を受託するとともに、新たに林之郷遺跡発掘調査団を編成し、調査団長である赤羽察氏（上田市教育委員会教育長）に事業委託して調査を実施することとした。7月28日、調査団会議を開催し、各調査員に委嘱書が交付され、調査の予定、方法等について検討を加えた。

これと並行して7月26日には調査に係る地元説明会を柳沢は場整備実行委員長以下関係者の参加を得て開催した。席上、地権者からは、予想されたこととはいえ、水田・畑の作付けの途中で耕作を中断することに対して若干の反発があり、会議はやや紛糾した。しかし、は場整備の工期から逆算すると、8月には調査に着手しないと間に合わなくなる可能性があること、埋蔵文化財をここで記録に残しておかないと将来に遺憾を残すことを説明し、御承諾を願った。このことは、開発側、文化財保護側の調整を早期から段取り、万全の態勢で調査に臨むべき点、反省材料として銘記せねばならない。

最終的には地元の皆さんに御承諾をいただき、8月2日には作業員を対象とした調査の説明会を園分寺資料館で行い、同日発掘機材の搬入、テントの設置をし、翌3日には撤入式を挙行し、本格的に調査に着手した。

調査の概要とその結果は別章に掲げるとおりであるが、概ね順調に進捗し、10月中旬には現場調査をはは完了、漸次上田市農村環境改善センターにおいて整理作業、報告書作製へと作業を進め、平成元年3月25日、調査報告書を刊行して調査を終了した。

## 第2節 調査の方法

遺跡名は長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている名称「林之郷遺跡」とした。また、記録の便宜を図るため、遺跡記号としてHAYASHI-NO-GOUのHNGを組合わせて与えた。各種の記録や遺物の注記等はこの記号を用いている。さらに、各地区にアルファベット順に地区名を与え、例えばA地区の地区記号はHNG-Aとした。なお、当初A・B・Cの3地区を設定して調査を開始したが、途中でA地区とB地区が繋がったため、B地区を廃止してA、B地区合わせてA地区とした。

この調査地区の設定については、予め試掘ピットを掘り、おおよその範囲は把握していたものの、ピットの密度が極めて粗かったため、本発掘に際しては改めてトレンチ調査を行い、遺跡の性格と土層の把握をし、併せて面的調査の範囲＝調査区の設定を行った。

面的調査については、表土、耕作土の排除はすべてバックホーを用い、その後の作業は人手によった。なお、面的調査に際しては、グリッドを設定し、遺物の取上げ、遺構測量に利用した。このグリッド杭の設定については、国家座標のメッシュに従い、遺跡周辺の三角点の座標値からA地区西側に引張り、この点を基準点として30×30mの大グリッドを設定し、この中をさらに3×3mのメッシュに区切って、グリッドを設定した。すなわち、大グリッド内に100の小グリッドが設定される訳である。

なお、基準点の座標値はX=42,942.000、Y=-18,240.000であり、上田地区は国家座標第Ⅷ量系に属している。

## 第3節 調査日誌

昭和63年

- |             |   |
|-------------|---|
| 8月2日(火)曇り   | 午後1:00～作業説明会の後、国分寺資料館から発掘機材を現地へ搬入。テント設置   |
| 8月3日(水)曇時々雨 | 午前9:00鍬入式。重機による試掘トレンチT r-1-6設定をし、平面調査区を決定する。  |
| 8月5日(金)晴れ   | A地区遺構検出作業、B地区表土剥ぎ・遺構検出作業、SB-01検出  |
| 8月8日(月)曇時々晴 | B地区表土剥ぎ・遺構検出作業。宇狐塚地籍の重機による試掘トレンチ設定、C地区として平面発掘するとする。<br>国分寺資料館夏休み考古学教室で小学生20名ほど来訪。A地区の遺物収集を行う。 |

8月12日(金) 曇り	業者に委託した国家座標が調査区西側に取付けられる。これに合わせてグリッドの設定(3m×3m)を行う。
8月17日(水) 曇後雨	A、B地区グリッド杭打ち。C地区遺構検出。
8月18日(木) 晴れ	B地区遺構(SB-01~04)掘上げ開始。
8月22日(月) 晴れ	B地区南辺に黒色の落込みがあり、遺構が延びている可能性があるためこれを拡張し、A地区と繋げることにする。
8月25日(木) 曇後雨	A地区南側へ調査区を拡張。
8月27日(土) 晴れ	SB-02、03竈堀上げ。SB-04完掘。
8月29日(月) 晴れ	C地区遺構検出。未だに遺構のプランが把握できない、A地区では引続き重機による調査区の拡張を行う。
8月30日(火) 晴れ	重機による表土剥ぎすべて完了。
8月31日(水) 晴れ	C地区遺構検出。重機の入りにより崩れた畦畔の石積を直す。
9月1日(木) 晴れ	A地区南拡張区遺構検出。SB-01、02床面精査。
9月3日(土) 曇時々晴	SB-03覆土内から未焼成の須恵器辺(底部?)出土
9月5日(月) 曇時々雨	SB-04~08掘上げ
9月7日(水) 曇時々晴	昨日来の雨でA地区水没し、この排水作業にかかる。C地区SB-11から緑釉陶器の坏・甕片出土
9月13日(火) 晴れ	SB-06床面に繊維質の炭化物ひろがる。C地区はサブトレンチを設定し遺構検出に努めるが明確なプランは掴めない。
9月18日(日) 晴れ	第1号掘立柱建物址ビット掘り上げ。木口から簡易遺り方による遺構平面図(1/20)作成に掛かる。
9月21日(水) 晴れ	昨日来の雨で再びA地区水没、この排水に一日かかる。
9月26日(月) 曇り	24~25日の雨で再びA地区水没、この排水に一日かかる。
9月27日(火) 曇後雨	C地区遺構検出作業、A地区遺構実測
9月30日(金) 曇後雨	C地区遺構掘上、A地区全体清掃
10月2日(日) 晴れ	A、C地区遺構掘上作業、遺構実測
10月4日(火) 晴れ	C地区遺構清掃、写真撮影、遺構実測
10月5日(水) 曇後雨	発掘機材のうち主だったものを撤収、テントも外す。

以後、遺構実測と遺構の細部掘上げを若干の調査員・作業員で行い、10月17日遺跡全景写真を佛宮永調査事務所へ委託して実施し、全ての現場調査を終了した。

こののち、上田市農村環境改善センターにおいて整理・報告書製作作業を実施し、平成元年3月25日、調査報告書を刊行してすべての調査を終了した。

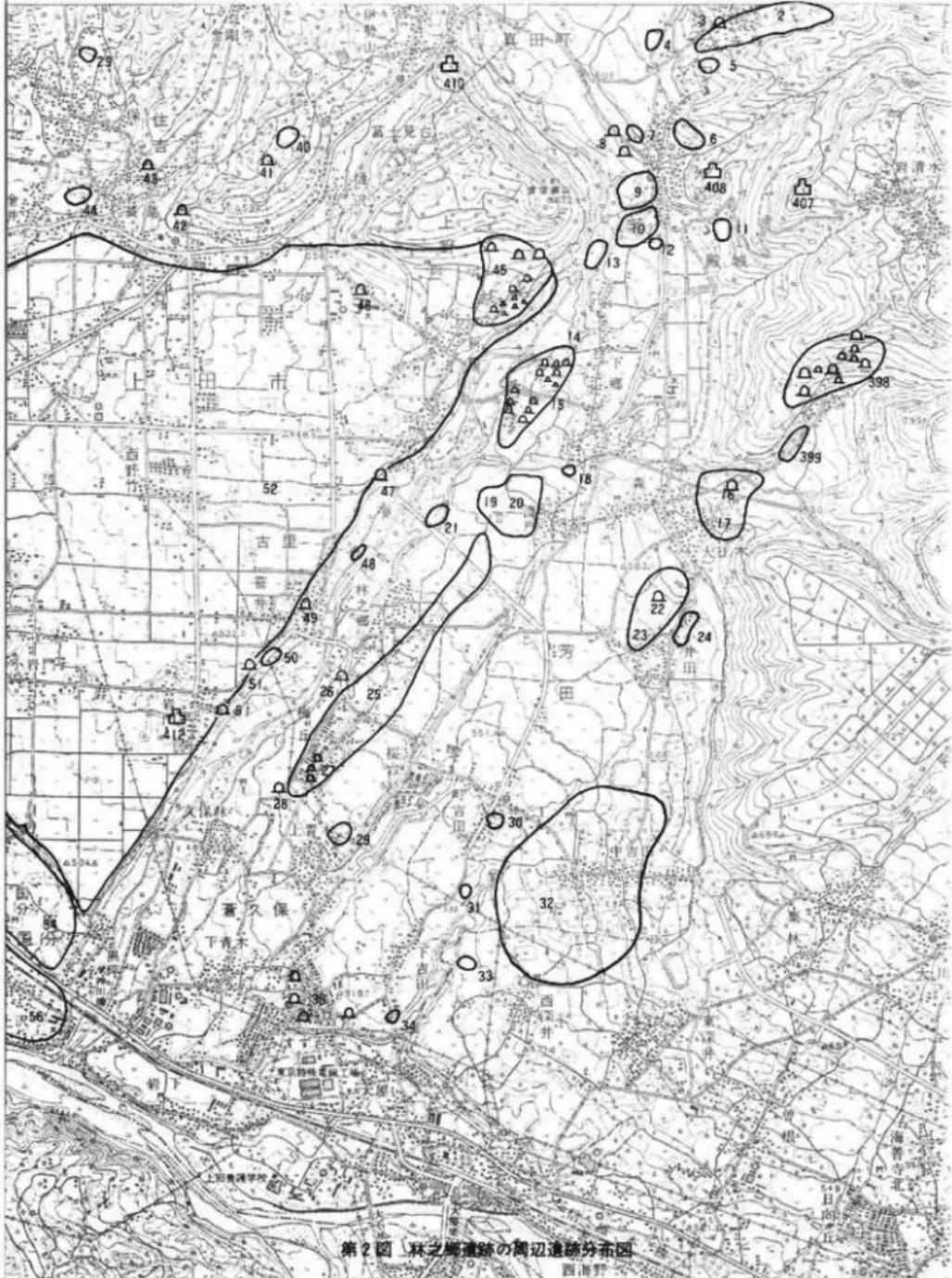
## 第二章 遺跡の環境

### 第1節 自然的環境

林之郷遺跡の位置する地域は、地形的にみると大きくは千曲川右岸に展開する上田盆地の東側にあたる。ここはとくに上田盆地の北東部にそびえる四阿山(2332m)に源をもつ神川によって形成された一大扇状地形を呈した地域である。神川左岸の神川扇状地では、第1段丘面・第2段丘面・第3段丘面および赤坂集落の谷口扇状地などから構成されている。第1段丘面では標高約580mの大口ノ木集落付近を頂点として半径4kmの規模で南に広がり、その扇端部は500mの等高線をもって段丘崖として終わっている。またこの押出しが第2段丘にもおよび、新しい扇状地をつくっている。現在の神川は回春して下刻し、この面よりかなり低いところを流れているが、長い年月のうちに流路が次第に西に偏したため、このように南北方向に見事な三段の段丘を形成しているといえるのである。

第1段丘面は現河床面より約20～30mの比高をもち、森・大口ノ木・小井田・町吉田などの各集落が立地する広い面で、通称吉田面と呼ばれている。この面の地質は神川の運んだ厚い砂礫層からなり、地表面は1～2mほどの厚さをもつローム層に覆われている。古くから周辺の神明川や瀬沢川から、この面に水を取り入れたり、また吉田堰(兼女堰)の開削などによる開拓が行われたため、現在立派な水田地帯となっている。しかし、昭和62年度この面の大字芳田字沢口上に所在する沢口上遺跡の発掘調査を実施した地域では、水便の悪さのため、下流の水田地帯へ田用水を公平に配分する用水堰の分配施設としての「沢口」が字名になったとみられ、水に苦心をしたかつての歴史をみた。近年この面の段丘崖に沿って、桜台・みすず台などの住宅団地もでき、また浅間山麓広域農道などの開通に伴って、様相が一変しつつある。

第2段丘面は今回発掘調査を実施した林之郷遺跡の位置する面で、第1段丘より約10～12m低く形成されている。この面も比較的広く林之郷や上青木など五つの集落があり、林之郷面と呼ばれている。地質も第1段丘面に比べて、あまりローム質の強くない土層で比較的通水性もよく、またいくつかの用水堰に恵まれているため、現在同様に広い水田地帯になっている。この面もまた宅地化の波が押しよせてきていることもいえない。調査を行った林之郷集落周辺では、住宅のある部分がやや高い微高地となっており、集落東側即ち第1段丘崖下で低くなる。いわゆる後背湿地の様相を呈していることがわかる。遺跡の主体部は、したがってこの若干高い部分の集落の中で、さらに一帯に広がっていることが分布調査で確認されている。また、第3段丘面は全体的には神川氾濫原としての比較的狭い平坦面としてとらえられている。この段丘面に包括されている久保林集落のあるところは、2～3m高い微段丘を形成して安全な平坦地となっている。この面は久保林面と呼ばれているところであるが、やはり近年宅地化が急速に進行しており、か



番号	遺跡名	時代	備考	番号	遺跡名	時代	備考
2	石矢遺跡	縄弥平		30	荒神田遺跡	平	
3	赤坂將軍塚古墳	古	市指定史跡	31	沢口上遺跡	弥~平	1987年度調査
4	托田遺跡	縄・平		32	中吉田遺跡	縄弥平	
5	北原敷遺跡	縄・平		33	今井遺跡	平	
6	城山遺跡	縄		34	いなご坂遺跡	縄	
7	上組遺跡	平		35	吉田原古墳群	古	
8	天沢古墳	古		39	中道遺跡	縄・弥	
9	宿組遺跡	平		40	上野東遺跡	縄	
10	平沢遺跡	平		41	陣馬塚古墳	古	
11	下充口遺跡	縄		42	玄馬塚古墳	古	
12	下樋口遺跡	平		43	熱帯寺古墳	古	
13	石坪遺跡	弥		44	熱帯寺遺跡	縄	
14	神林遺跡	縄弥平		45	七ツ塚古墳群	古	市指定史跡
15	下郷古墳群	古		46	塚田塚古墳	古	
16	大日の木古墳	古		47	野竹塚古墳	古	
17	大日の木遺跡	縄弥平		48	篠井久保遺跡	弥・平	
18	北の平遺跡	平		49	笠井塚古墳	古	
19, 20	八千原・堂下遺跡	縄~平		50	掛の宮遺跡	縄・古	
21	太田遺跡	平		51	掛の宮古墳	古	
22	柴崎古墳	古		52	染原台糸原水田跡遺跡	弥~平	'84/'85 調査
23	井口田遺跡	縄弥平		54	国分遺跡群	弥~平	
24	尾無遺跡	縄・平		56	国分周辺遺跡群	縄~平	
25	林之郷遺跡	縄~平		398	永沢古墳群	古	
26	日ノ井古墳	古		399	永沢遺跡	縄・平	
27	高寺古墳群	古		407	天沢氏支城跡	近	
28	生地場古墳	古		410	伊勢崎城跡	近	
29	中村川遺跡	縄		412	岩門城跡	近	

(縄…縄文 弥…弥生 古…古墳 弥…奈良 平…平安 近…近世)

第1表 林之郷遺跡と周辺遺跡一覧表 (番号は長野県遺跡番号による)

つての景観が変貌している。

一方、神川右岸の築堤面では2.5m内外の急崖となっており、わずかにベンチ状に第2・第3段丘が形成されているだけである。これは前述のとおり、神川の流路が下刻と同時に漸次西偏したため、東側の左岸では見事な段丘となるのに対して、右岸では浸食され段丘が形成されにくいといえる。

## 第2節 歴史的環境

上田市域の東側にあたる一帯の歴史的環境を見てみると、とくに考古学的遺跡では烏帽子岳西南麓に分布する遺跡として把握され、各段丘からは縄文期から奈良・平安時代に属すいくつかの遺物・遺構が確認されている。

今回調査を実施した第2段丘面の考古遺跡から既観すると、まず一連の林之郷遺跡群のなかに包括される遺跡としては、蒼久保・林之郷・漆戸地籍にまたがる茅御堂・境田・貝戸・池田・狐塚・松ノ木・下ノ畑などの各遺跡がある。また、この遺跡群の北側にも林之郷地籍の太田、漆戸地籍の堂下・ヤチ原・北の平などの遺跡が知られ、南側では蒼久保地籍の中村Ⅱ遺跡が分布調査等によって確認されている。このうちとくに太田・茅御堂の両遺跡は、昭和49年広域農道開削に伴う事前の発掘調査が行われ、太田遺跡からは古墳時代鬼高期の住居址4軒、同期の高床状遺構、また平安時代国分期の住居址4軒とこれらに伴う豊富な遺物を検出した。また茅御堂遺跡からも古墳時代五領期・和泉期・鬼高期の各住居址および集石遺構・堅穴遺構とそれぞれに伴う遺物が検出され、この地域の様相がかなり明らかにされたのである。堂下遺跡からは縄文中期加曾利Ⅰ式土器・後期の堀之内式土器片・打製石斧・石棒・土偶さらに弥生後期の箱清水式土器片、土師器などが発見された。また、ヤチ原遺跡からはやはり縄文中期の土器片・磨製石斧・石棒が出土し、北ノ平遺跡からは若下の後半期の土師器が採集された。古墳は遺跡群の中の南側、蒼久保字中村に高寺古墳1・2・3号墳が、およそ30m前後の間隔で南北に並んでいる。いずれもほとんど破壊された古墳で、正確な規模は不明であるが、3号墳の残存状態等から直径約5m・高さ約1mほどの比較的小規模な終末期古墳とみられる。同様な規模の生地場古墳が、高寺古墳のわずかに西南部の墓地内にある。また、林之郷字塚田の段丘端部にも口ノ井古墳がある。この古墳も墓地内にあり、墳丘が破壊され石室が露出しているが、直径約9mほどの円墳とみられる。なお、対岸の第2段丘面にあたる笹井地籍にも、笹井塚古墳・掛ノ宮塚古墳また第1段丘面の社宮寺古墳等の小規模な終末期古墳があり注意される。このうちとくに笹井塚古墳からは、かつて直刀2本と刀子などが発見されている。

第1段丘面では、小井田集落を中心として縄文中期加曾利Ⅰ式土器・石鏃・打製石斧・凹石・砥石・弥生後期箱清水式土器および土師器・須恵器など豊富な遺物を出土する井戸遺跡、縄文中期土器・土師器などを出土する尾無遺跡、平安期とみられる土師器を出土する或田遺跡などが

ある。また、中吉田集落一帯に広がる中吉田遺跡群は、この面における最も豊富な資料を提供している遺跡として知られる。この遺跡群の中心は次郎淵と無量寺の両遺跡で、前者からは縄文中期勝坂式土器片、弥生後期箱清水式土器片、土師器・須恵器などが採集され、さらに子持勾玉も検出されており、注意される遺跡である。後者からは縄文中期加曾利E式土器、弥生後期土器、土師器・須恵器が採集されている。ここからは加曾利E期に比定される台付有孔鐔付土器も発見されており、本遺跡もとくに注意されている。

さらにこの遺跡群の西側に、いずれも後半期の土師器・須恵器を出土する荒神田遺跡、沢口上遺跡、今井遺跡が確認されている。このうち、昨年調査を実施した沢口上遺跡からは、奈良時代前半とみられるカマドを作る住居址や溝址・土塀・ピットなどの遺構が検出された。また、この段丘面の古墳分布をみると、南側段丘壁のみならず台地のほぼ中央部にあるF青木吉田原古墳が現存するのみである。この古墳の墳丘は東西15m、南北13m、高さ4mの円墳で、石室内部は玄室と羨道の区分が明確ないわゆる両袖式で、石室の総長6.6mを計る横穴式石室をもっており、市指定史跡となっている。このほか周辺には、旗針塚古墳・寺沢古墳・尾無古墳など、古墳時代後期に属すいくつかの古墳がかつて存在したが、団地の造成等で破壊されてしまった。このうち、尾無古墳からは直刀・鉄鏃などが出土したという記録がある。

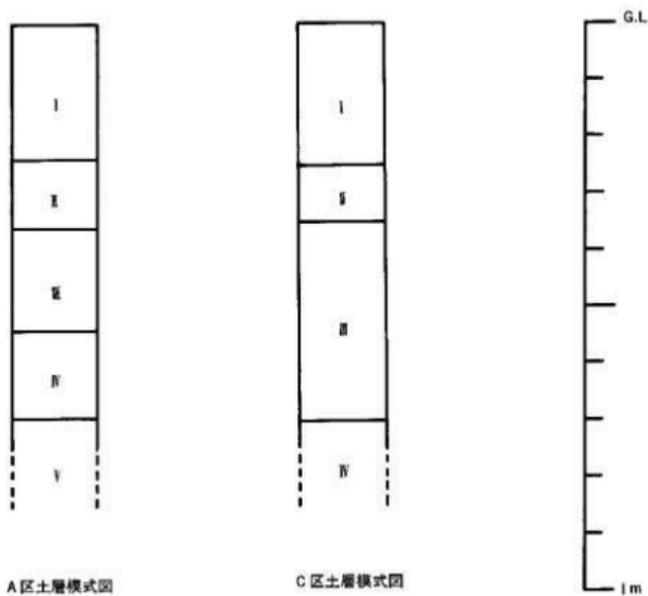
このように、神川扇状地周辺にはいくつかの考古遺跡が存在していることが知られ、林之郷遺跡はこうした考古的環境のなかにあるのである。

### 第3節 遺跡の基本層序

林之郷遺跡の基本的な土層は第3図に示したとおりである。

A区の土層は上から、I層の水田耕作土が厚さ20～30cmを測り、II層の鉄分を含む溶脱土が10cm前後を測り、その下に黒褐色の遺物包含層が15～20cmの厚さで存在する。なお、遺跡の東側、後背湿地にかかる箇所ではII層の直下は礫層となっている。III層が主たる遺構検出面となった黄茶色の砂質土で、弱い粘性を持つ。IV層は50～60cmから頭・拳人の腰を多量に含む黄茶色土である。

C区の土層もA区のそれと基本的には同じであるが、過去に桑園となり、耕作が深く及んだため、遺構の破壊が著しく、III層の遺物包含層がA区と比べると厚くなっている。



第 3 图 土层模式图

## 第三章 調査の結果

### 第1節 竪穴住居址

#### 1 第1号住居址

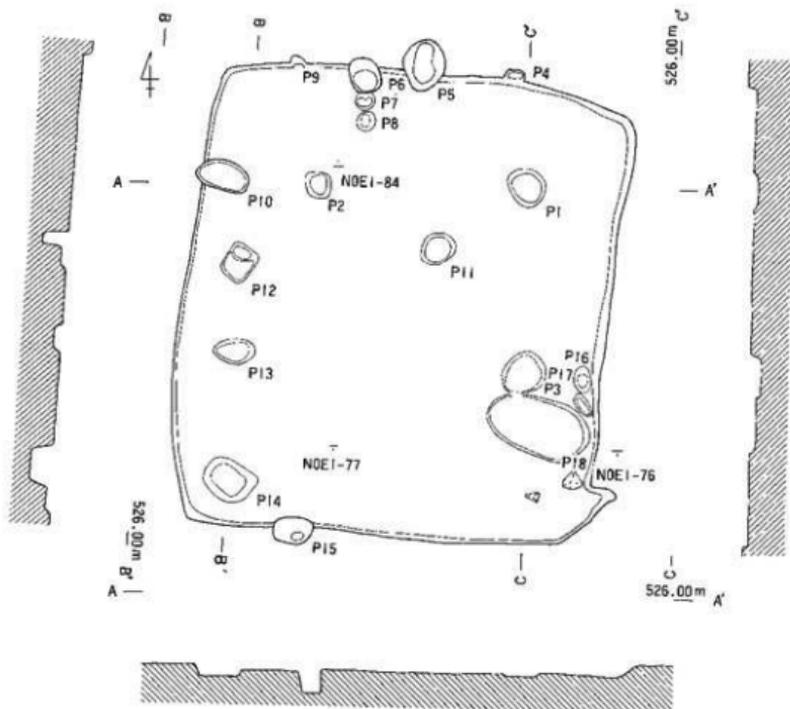
##### 遺構(第4図)

第1号住居址は、A区N0E1-76,77,84,85,96,97グリッドにかけて検出された。南北5.0m東西4.5mの隅丸方形を呈し、床面積は24.3㎡、主軸はN-13°-Eを指す。壁高は5-13cmを残し、周溝は検出されなかった。ピットは住居址内において11個確認され、主柱穴はP1(44cm×36cm深さ5cm)、P2(27cm×28cm深さ25cm)、P3(49cm×42cm深さ11cm)と思われ、P12(32cm×37cm深さ6cm)、P13(45cm×28cm深さ5cm)、P14(54cm×41cm深さ22cm)は、あるいは壁に沿うように建てられた支柱穴ではないかと考えられる。その他のP4(21cm×15cm深さ5cm)、P5(55cm×45cm深さ4cm)、P6(38cm×30cm深さ7cm)、P7(19cm×18cm深さ4cm)、P8(21cm×20cm深さ8cm)、P9(17cm×12cm深さ0cm)、P10(57cm×32cm深さ7cm)、P11(28cm×12cm深さ5cm)、P15(42cm×28cm深さ22cm)、P16(28cm×18cm深さ8cm)、P17(28cm×12cm深さ5cm)についてはその性格が不明である。なお、P18(111cm×62cm深さ7cm)は貯蔵穴かとも思われる。覆土は1層で、若干の礫を含む黒色土層である。

竈は東壁最南端に位置するが、すでに壊滅状態であり、支脚と火床が残存するのみで、検出面の上層及び覆土から、竈の芯材に使用されたとと思われる被熱した花崗岩が出土している。また竈周辺の覆土からは灯明皿が3点、羽釜片が出土している。

##### 遺物(第5図・第2・3表)

本住居址から出土した遺物は出土量が少なく、器種が判明したのは、土師質の皿3点、土師器坏4点、羽釜上部1点、羽釜もしくは鍋の底部1点等である。1-3の皿は同一の規格意図の下に作製された灯明皿かと思われ、3には芯材の煤けた痕跡が確認される。1には確認されないが、いずれもほぼ同一の底部粘土板に粘土帯を積み上げて作製したものであろう。4、5、6、7もまたスケールが近似値を示す土師器坏である。以上の土器はいずれも製作過程において轆轤を使用している。8は羽釜で、鐙の部分の接合が不完全であったためか、剥がれるように欠損している。9は8と同一の器質を有し、あるいは8の底部にあたるものかと思われる。

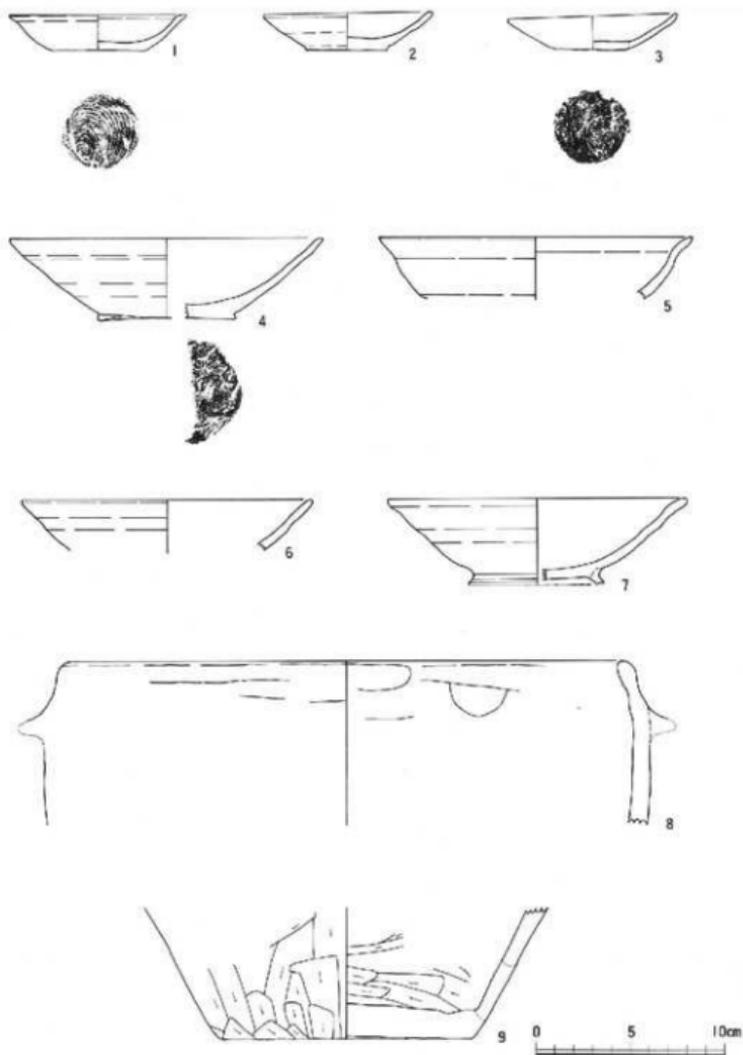


第4図 第1号住居址実測図



番号	器種 種類	位置	法 量	器 質	成 形 ・ 形 態	形 形 技 法	
						外	内
1	皿	覆土	口径 9.4 器高 2.5 底径 1.9 底部光存 体部~口縁 部 1/2	胎: 0.2~0.4 の砂粒 含有 焼: 良 色: 外7.5YR6/6褐色 内7.5YR6/4に いっせ色	底部から内側気味に 「上がり、口縁で包く外 反する。	口縁部傾位の「他 で」 体部傾縁による 「他で」 底部回転糸切り	口縁部傾位の「他 で」 体部傾縁による 「他で」
備考	2、3とはほぼ同様の規格の下に作製か、縦横右回転。						

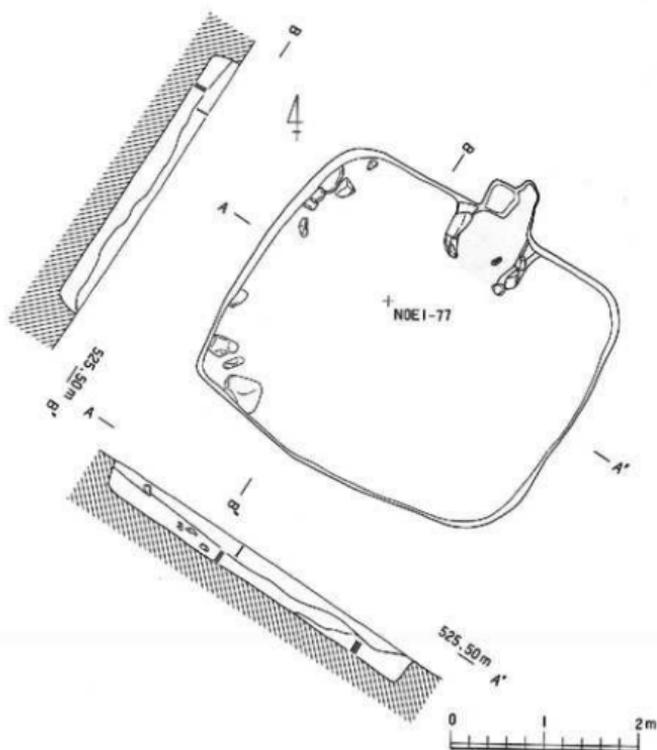
第2表 第1号住居址出土遺物一覧表(1)



第5图 第1号住居址出土物实测图

番号	器種 種類	位置	法 則	器 質	成 形・形 態	整 形 技 法	
						外	内
2	土 師	甕	口径 9.0 器高 4.2 底径 2.1 口縁部・部 欠損	胎: 0.1~0.4 の赤褐色 砂粒含有 焼: 良 色: 外内5YR7/4にぶ い棕色	粘土帯積み上げ、底部 及び体部中に接合痕 が明瞭に残る。	口縁部横位の「撫 で」、体部縦軸に よる「撫で」、底 部回転糸切りの後 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」、 体部縦軸による 「撫で」
備考 1, 3 とほぼ同様の規格の下に作製か。輪軸右回転。							
3	土 師	覆土	口径 9.0 器高 3.8 底径 1.9 完形	胎: 細砂粒含有 焼: 良 堅緻 色: 外5YR5/6明赤褐色 内2.5YR3/4 暗赤褐色	粘土帯積み上げ、底部 に接合痕が明瞭に残 る。	口縁部横位の「撫 で」、体部縦軸に よる「撫で」、底 部回転糸切りの後 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」、 体部縦軸による 「撫で」
備考 1, 2 とほぼ同様の規格の下に作製か。輪軸右回転。							
4	土 師	甕	口径16.6 器高 4.3 底径 7.3 口縁 1/8 体部 1/3 底部 1/2	胎: 0.4 の褐色含有 砂粒含有 焼: 良 色: 外7.5YR7/6棕色 内7.5YR7/4 にぶい棕色	輪軸成形。	口縁部横位の「撫 で」、体部縦軸に よる「撫で」の 後、不定方向の 「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫 で」、体部・底部 輪軸による「撫 で」
備考 輪軸右回転。							
5	土 師	覆土	口径16.7 器高 3.3 口縁-体部 1/4	胎: 0.1~0.2 の茶色 粗砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR5/6褐色 内7.5YR5/4にぶ い棕色	輪軸成形 体部内押し、口縁部で 強く外反する。	口縁部横位の「撫 で」、 体部縦軸による 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」、 体部縦軸による 「撫で」
備考							
6	土 師	覆土	口径15.4 器高 2.2 口縁部1/4	胎: 0.1未満の細砂粒 含有 焼: 良 堅緻 色: 外7.5YR6/4にぶい 棕色 内5YR3/4 赤褐色		口縁部横位の「撫 で」、 体部縦軸による 「撫で」の後「第 撫で」	口縁部輪軸による 「撫で」、 体部縦軸による 「撫で」
備考							
7	土 師	覆土	口径15.8 器高 4.6 口縁部 2/3 底部 1/2	胎: 0.1~0.4 の粗砂 粒・礫含有 焼: 良 色: 外5YR5/8褐色 内5YR6/4にぶい 暗赤褐色	底部からやや内寄気味 に強く開き、口縁で外 反する。 付け高台	口縁部横位の「撫 で」、 体部縦軸による 「撫で」 高台部横位の「撫 で」	口縁部横位の「撫 で」、 体部縦軸による 「撫で」
備考 底部整形技法不明。輪軸右回転。							
8	土 師	甕	口径29.1 器高 8.7 口縁部 1/8 胴部 1/20	胎: 細砂粒含有 焼: 不良 色: 外2.5YR4/8赤褐色 内2.5YR4/6赤褐色	口縁部やや内寄する。	「撫で」	刷毛状工具による 「撫で」
備考 9 と同一個体か。							
9	土 師	甕	器高 7.0 底径13.4 胴部 1/8 底部充存	胎: 0.2~0.6 の礫含 有 焼: 不良 色: 外2.5YR4/8赤褐色 内2.5YR4/6赤褐色	平底 粘土帯積み上げ	胴部中位(右)上~左 下、胴部下位縦、 胴部と底部の接合 部(左)上~右下へそ れぞれ「撫で」	横位の「撫で」
備考 8 と同一個体か。							

第3表 第1号住居址出土遺物一覧表(2)



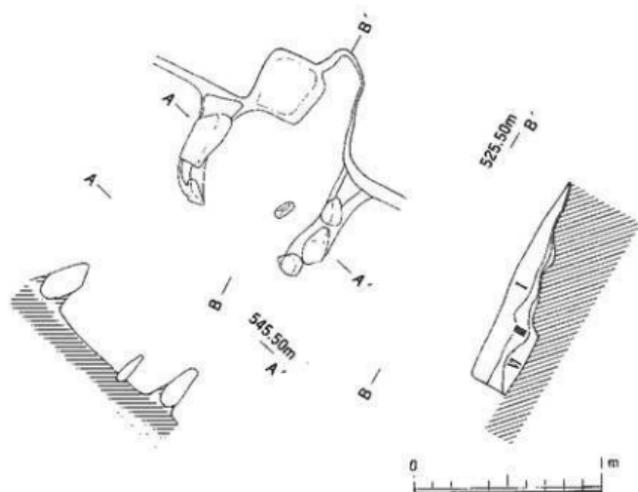
第6図 第2号住居址実測図

## 2 第2号住居址

### 遺構(第6・7図)

第2号住居址はA区N0E1-76,77,84,85 グリッドにかけて検出された。南北3.3m、東西4.7mの隅丸方形を呈し、床面積は10.2㎡、主軸はN-31°-Eを指す。壁高は29-31cmを残し、周溝、柱穴は検出されなかった。床は縦楕に叩き締められていた。住居址覆土は3層に分層され、I層が暗黄褐色土層、II層が礫を含む黒褐色土層、III層が黄黒褐色土層であった。

竈は北壁中央に位置し、比較的良く旧状をとどめているものと考えられる。両袖は明黄褐色の粘土で芯に石材を使用している。上部は石材が露出していた。支脚は竈内の東寄りに、長さ34cmの角柱状の河原石が埋め込まれた状態で検出された。なお、煙道の一部が当住居址廃絶後のピツ



第7図 第2号住居址竈実測図

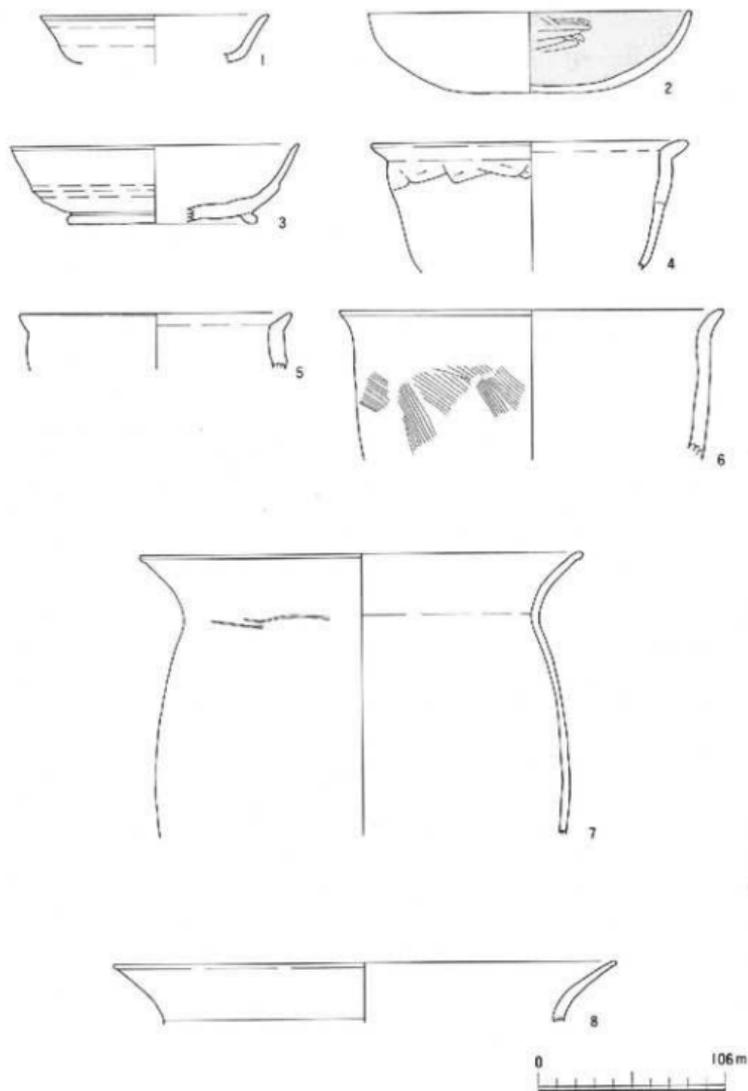
トにより破壊されている。土層堆積はI層が暗黄褐色土層、II層が焼土層、III層が若干の焼土を含む黒褐色土層、IV層が焼土、炭化物を多量に含む黒色土層であった。

#### 遺物 (第8・9図、第4・5表)

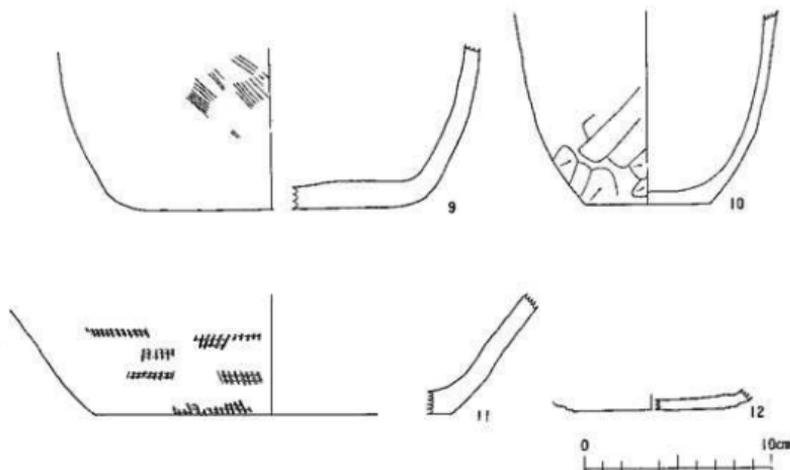
本住居址から出土した遺物量は比較的少ないが、図上復元可能な資料が15点出土している。このうち竈内からは2、3の坏、5、7、10の甕が出土し、床面から6の甕(椀)が出土している。

2、3の坏はいずれも内面黒色処理がほどこされ、2は丁寧な研磨痕が見られる。3も研磨痕が僅かに見られるものの、磨耗が著しく、図示するに至らなかった。5、7は比較的小型の甕で、5は口縁から胴部にかけてすぼまっている。10はごく薄い器厚の長胴甕で、胴部に緩やかな張りをもつ。6は器種が明らかでない。

その他、1、4、14の須恵器は不完全な還元焼成である。11、12、15の器種は明確ではない。



第8图 第2号住居址出土遗物实测图(1)



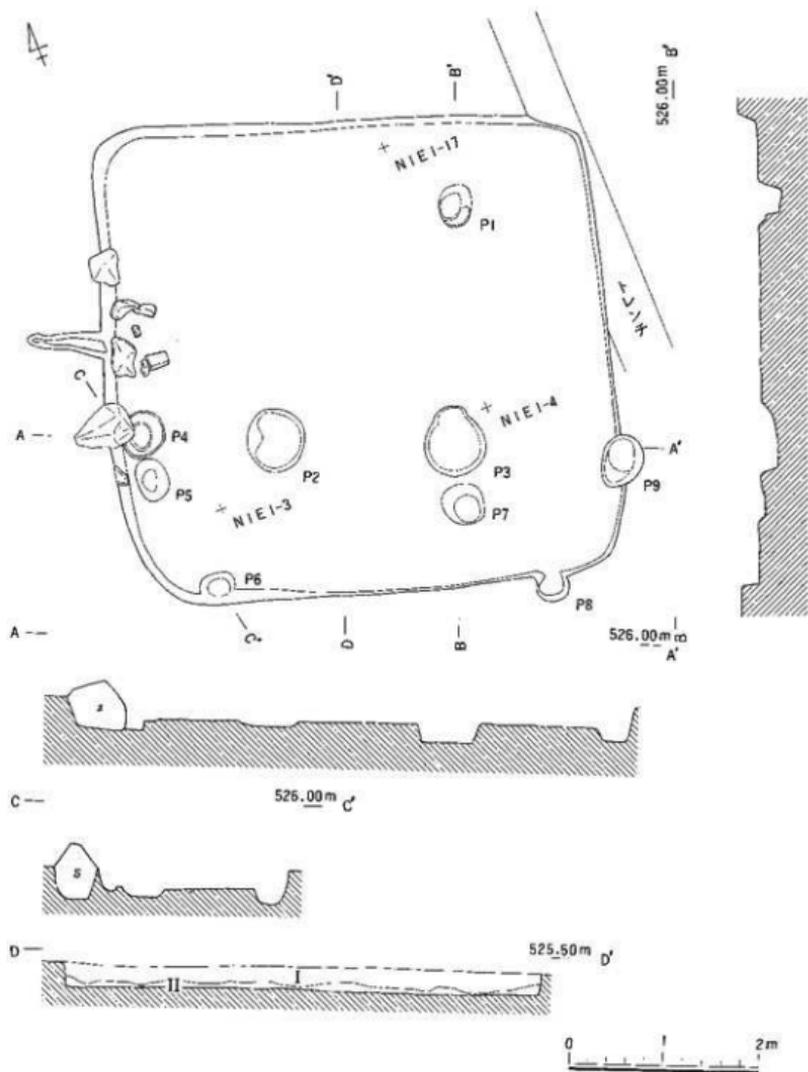
第9図 第2号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種類	位置	法	景	器質	成形・形態	整 形 技 法	
							外	内
1	須恵	覆土	口径12.1 残高 2.5 体部~口縁部 1/5残	胎: 黒色・白色の細砂 粒含有 焼: 良 色: 外5RP5/1茶灰色 内5PB7/1明青灰色	底部から内背気味に立上り、体部中位から根く外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部輪軸による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部輪軸による「撫で」	
備考								
2	土師	甕	口径17.4 器高 4.4 底径 7.0 底部~口縁部 1/3	胎: 0.1~0.4 の礫・粗砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR6/6橙色 内黒色		口縁部横位の「撫で」 体部~底部「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部横位の「磨き」	
備考								
3	須恵	覆土	口径15.3 器高 4.2 底径 4.0 口縁 1/6 底部 1/2	胎: 0.1~0.2 の赤色 白色砂粒含有 焼: 良 色: 外N7/灰白色 内7.5YR7/3にぶい橙色	輪軸成形。 付け高台。 体部中位に段を有する。	口縁部横位の「撫で」 体部輪軸による「撫で」 底部整形技法不明	口縁部横位の「撫で」 体部輪軸による「撫で」	
備考								
4	土師	甕	口径17.0 残高 6.8 口縁~胴部 1/3	胎: 0.1の砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR5/6明赤褐色 内7.5YR6/4にぶい橙色	粘土帯積み上げ。 口縁部で外反する。	「撫で」 頸部「磨削」	「撫で」	
備考								
5	土師	甕	口径14.4 残高 3.0 口縁部 1/8	胎: 微砂粒含有 焼: 良 色: 外7.5YR6/4にぶい橙色 内7.5YR6/4にぶい橙色	口縁部で外反する。	「撫で」	「撫で」	
備考								

第4表 第2号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
備考							
6	甕 土師	甕	口径20.4 残高 8.0 口縁部~胴部 3/4	胎: 0.1~0.4 の赤色 砂粒、細雲母含有 焼: 良 色: 外5YR7/4に ぶい 橙色 内5YR7/3 にぶい橙色	直立する胴部から短く 外反する口縁へ至る。	口縁部横位の「撫 で」 胴部刷毛状工具に よる「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 胴部「撫で」
備考							
7	甕 土師	甕	口径23.5 残高15.1 口縁部~胴部 1/2	胎: 微砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR6/6橙 色 内5YR7/6橙 色	粘土層積み上げ。 緩やかに歪る胴部から 「くの字」状に外反す る口縁に至る。	口縁部横位の「撫 で」 胴部「撫で」	口部部「撫で」 胴部「撫で」
備考							
8	甕 (葎) 土師	甕上	口径26.6 残高 3.7 口縁部 1/8	胎: 細砂粒多く含有 焼: 良 色: 外5YR4/4にぶい赤 褐色 内5YR5/4 にぶい赤褐色	粘土層積み上げ。	筒状工具による横 位の「撫で」	筒状工具による横 位の「撫で」
備考							
9	須 土師	須十 及 甕	残高 8.4 口径 9.6 胴部 1/6 底部 1/2	胎: 0.1~0.4 の赤褐 色砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR5/3にぶい赤 褐色 内5YR6/3 にぶい橙色		刷毛状工具による 「撫で」及び「篋 撫で」	刷毛状工具による 「撫で」及び「篋 撫で」
備考							
10	甕 土師	甕土	残高10.3 口径 6.6 底部~胴部 3/4	胎: 雲母、石英、赤色 砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR7/4にぶい 橙色 内5YR5/4 にぶい赤褐色		「篋切り」 底部手持ち「篋切 り」	「篋撫で」
備考							
11	甕 土師	甕土	残高 5.7 口径18.9 底部~胴部 下位 1/8	胎: 石英、赤褐色砂粒 含有 焼: 不良 色: 外10R5/2灰赤色 内10R1/3赤灰色	平底から胴き気味に胴 部に至る。	胴部格子目状の 「叩き」 底部「篋切り」	「篋撫で」
備考							
12	(坏) 土師	甕上	残高 1.0 口径 4.1 底部 1/2	胎: 白色砂粒含有 焼: 良 色: 外2.5Y7/2 灰黄色 内N7/ 灰白色		底部「篋切り」 体形と底部の接合 仕上げは撫	
備考							

第5表 第2号住居址出土遺物一覧表(2)



第10图 第3号住居址实测图

### 3 第3号住居址

#### 遺構(第10図・11図)

第3号住居址は、A区N1E0-3,4,5,16,17,18,22,23,24 にかけて検出された。主軸はN-18°-Eを指し、平面形態は隅丸方形を呈す。規模は南北5.1m、東西5.3mで、床面積は24.3㎡である。壁高は18~20cmを測り、遺存状態は良好であった。覆土は2層で、第1層が締まりの良い黒褐色粘質土層、第2層がやや砂質の暗褐色粘質土層であった。

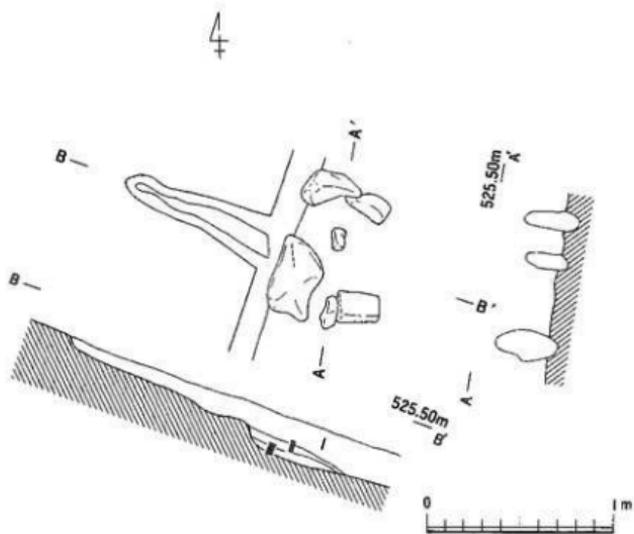
ピットは、住居址内において合計9個検出され、このうち主柱穴と考えられるのは、P1(46cm×34cm、深さ26cm)、P2(67cm×60cm、深さ6cm)、P3(75cm×65cm、深さ20cm)の3個である。その他の柱穴は、P4(44cm×51cm、深さ12cm)、P5(46cm×33cm、深さ11cm)、P6(28cm×38cm、深さ18cm)、P7(44cm×43cm、深さ5cm)、P8(35cm×35cm、深さ11cm)、P9(57cm×43cm、深さ19cm)の6個の柱穴である。この中で、住居址南側の壁中に埋り込まれたP6、P8と、東側の壁中に埋り込まれたP9は、住居址の内側に傾斜して埋り込まれており、柱が垂木的に傾斜して埋め込まれ、補助的に上屋を支えた柱穴と想定される。

竈は、西壁中央部に検出され、主軸は、N-73°-Wを指す。規模は全長1.7m、焚口の幅0.35m、煙道部は細長く、壁外に0.85m程のびている。煙道部の深さは5cm~7cmで、深く遺存していた。竈は、左右両袖の芯材に用いた河原石と、支脚石をとどめていたが、竈を構築していた粘土はほぼ全体が、破壊されていた。わずかに袖部を形成する河原石の内側下部に粘土を貼った痕跡が認められた。また、袖部の東南隅の石は、直方体に面取りされた砂石で、火熱を受けていた。支脚石は、全長23cmの棒状の安山岩で、直立した状態で検出された。

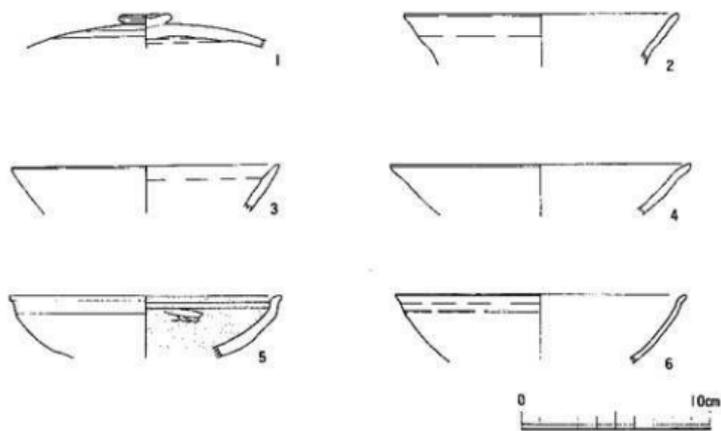
竈の地積土層は3層で、第1層が木炭、灰、焼土を含む黒褐色土層、第2層が木炭、灰、焼土を多量に含む暗赤褐色土層、第3層は赤褐色の焼土層となっていた。なお、第2層の暗赤褐色土層中より土師器製の小破片が出土している。竈の床面は、55cm×40cm程の四角な範囲で火熱を受けており、赤色の火床となっていた。

#### 遺物(第12・13図、第6・7表)

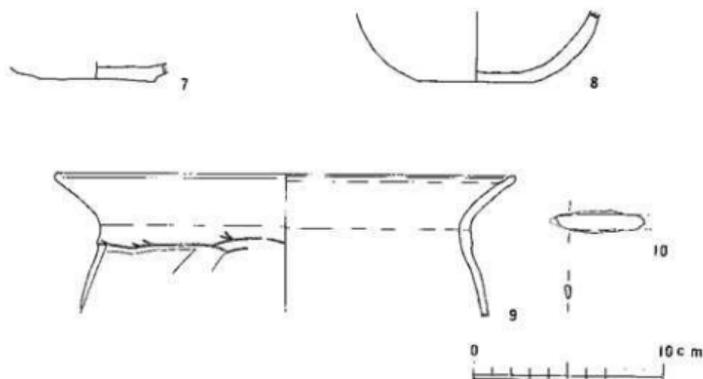
図示した9点は、すべて覆土中からの出土で、床着遺物は出土しなかった。1は須恵器蓋で、つまみ部は皿状の環状つまみで、中心部がやや盛り上がっている。6の土師器は、焼成が極めて甘い土器片である。また、7の須恵器片は未焼成で、内外とも灰白色を呈している。8は須恵器環で、底部は篋切りがなされている。これらの出土遺物から本住居址は、8世紀前半のものとして推定される。なお、竈内から出土した土師器製の小破片は、図示するに至らなかった。



第11图 第3号住居址勘察测图



第12图 第3号住居址出土遗物实测图(1)



第13図 第3号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	位置	法	量	質	成形・形態	器形		
							外	内	
1	須恵	遺土	杯み径 2.8 残高 1.9 杯み部充塞 大弁部 1/2 残	胎: 細砂粒含有 焼: 良 色: 外内N8/灰白色	胎: 細砂粒含有 焼: 良 色: 外内N8/灰白色	杯み部は皿状を呈し、中心部がやや盛上がる。付け杯み。	杯み部「皿で」 大弁部「回転寛削り」。	襷縁による「撫で」	
備考									
2	須恵	覆土	口径14.6 残高 2.7 口縁部 1/4	胎: 0.1の茶褐色砂粒含有 焼: やや不良 色: 外内2.5Y1/8 灰白色	胎: 0.1の茶褐色砂粒含有 焼: やや不良 色: 外内2.5Y1/8 灰白色	口縁部やや外反する。	撫で。	「撫で」	
備考									
3	須恵	覆土	口径14.2 残高 2.5 口縁部1/9	胎: 細砂粒含有 焼: 良、堅緻 色: 外内N7/灰白色	胎: 細砂粒含有 焼: 良、堅緻 色: 外内N7/灰白色	直立した口縁部	襷縁による「撫で」	襷縁による「撫で」	
備考									
4	須恵	覆土	口径16.0 残高 2.7 口縁部1/8	胎: 黒色細砂粒含有 焼: 良 色: 外N4/灰色 内N6/灰色	胎: 黒色細砂粒含有 焼: 良 色: 外N4/灰色 内N6/灰色	底部方向から直線的に立上がり口縁部で外反する。	襷縁による「撫で」	襷縁による「撫で」	
備考 外側に僅かに自然輪がかかっている。									
5	上 部	覆土	口径14.4 残高 3.3 口縁-体部 1/6	胎: 0.1の粗砂粒含有 焼: 良 色: 外7.5YR7/4に近い 褐色 内黒色	胎: 0.1の粗砂粒含有 焼: 良 色: 外7.5YR7/4に近い 褐色 内黒色	口縁部で短く立上がり僅かに外反する。	口縁部位置の「撫で」体部底部状下具による「撫で」	口唇部位置の「撫で」体部「磨き」	
備考 口縁部に僅かな歪みがある。									

第6表 第3号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器 種 類	位置	法 量	器 質	成 形 ・ 形 態	整 部 技 法	
						外	内
6	土 師	覆土	口径15.4 残高 3.6 口径部～床 面 1/6	胎：精選されている。 細砂粒含有 焼：不良 色：外7.5YR6/4に近い 棕色 内5YR3/4 暗赤褐色	口径部切く外反する。	柄位の「撫で」	底位の「撫で」
備考							
7	皿 (坏)	覆土	底径 6.1 残高 1.0 底部完存	胎：0.1～0.2 の暗灰 色砂粒含有 焼：未焼成 色：外内N8/灰白色		刷毛状工具による 「撫で」	「撫で」
備考							
8	土 師	覆土	残高 4.1 底径 6.2 底部～胴部 1/3	胎：0.1～0.6 の砂塵 粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/3に近い 棕色 内5YR7/4 に近い棕色	底部から内傾しながら 立上がる。	体部置状工具による 「撫で」 底部 「刮切り」	「撫で」
備考							
9	土 師	覆土	口径24.1 残高 7.5 口径部～胴 部上位 3/8	胎：0.2～0.4 の砂粒 を強かに含有 焼：良 色：外内7.5YR6/7棕色	粘土を染み上げ 口径部「くの字」状に 外反する。	口径部柄位の「撫 で」、胴部上位 「刮切り」の置状 位の「撫で」	柄位の「撫で」 胴部上位置状工具 による「撫で」
備考							
10	刀子 鉄製品	覆土	最大長 4.6 最大幅 0.9 最大厚 0.3 重量 5.0g				
備考							

第7表 第3号住居址出土遺物一覧表(2)

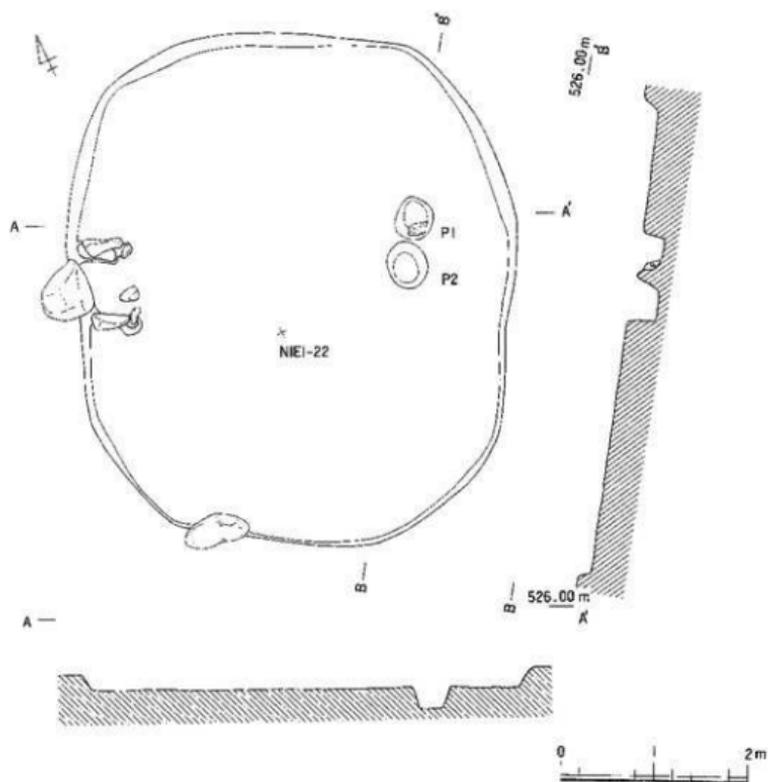
#### 4 第4号住居址

遺 構 (第14・15図)

第4号住居址はA×N1E1-22,23,38,39 グリッドにかけて検出された。平面形態はほぼ隅丸方形を呈し、規模は南北 5.4m東西 4.7m、床面積は19.9㎡、壁高13～20cmを測る。遺存状況は悪い。主軸方位はN-64°-Wを指す。覆土は一層で、黒褐色土層である。

床はほぼ水平であるが、北部は4cm程低くなっており、頭大から40～50cmの石が多く床に入り込んでいた。

柱穴は2個検出されており、P1(43cm×38cm深さ23cm)、P2(50cm×42cm深さ25cm)のうちP1が主柱穴と思われる。

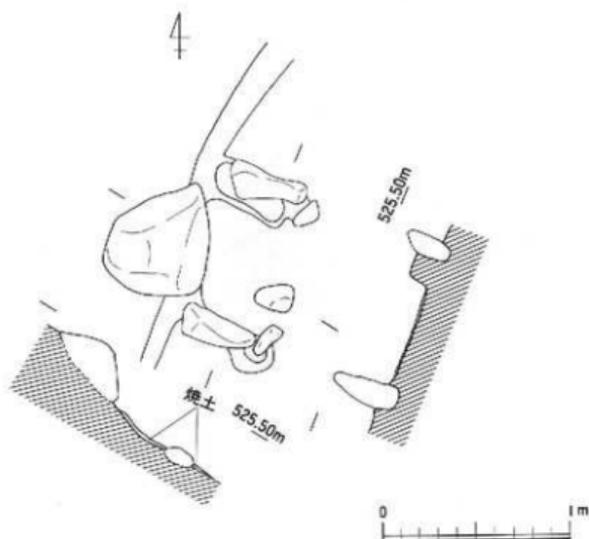


第14図 第4号住居址実測図

竈は西壁中央に位置し、煙道部及び燃焼室の一部が50cm程度の石によって破壊を受けていたものの、その他は田状を比較的良好に保っている。向袖には砂岩質の石を用いており、火床部は床面をそのまま使用している。規模は焚口幅 0.6mで、支脚は存在していなかった。竈内の土層堆積は覆土と同じ黒褐色土で、火床部には焼土が1~2cmの厚さで堆積していた。

遺物(第16・17図、第8・9表)

覆土内より1~6の坏、7、8、10の甕、9の坏が出上している。遺物はいずれも破片で、図

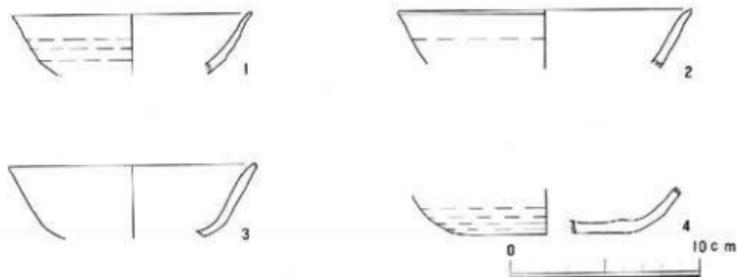


第15図 第4号住居址竈実測図

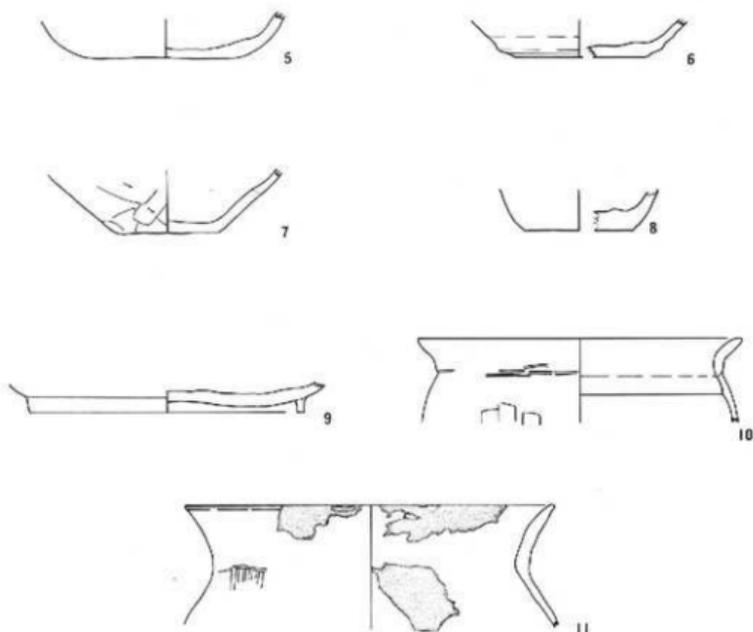
上復元となっている。7、8については、底部が被熱しているため甕とした。1、3、9はいずれも不完全な還元焰で焼成されており、竈内が完全に密封されない竈で焼成されたものと思われる。

竈内からは11の甕が出土しており、内面には漆が付着している。

この他、叩き目のある須恵器甕が2個体出土しているが図示するに至らなかった。



第16図 第4号住居址出土遺物実測図(1)



第17図 第4号住居址出土遺物実測図(2)

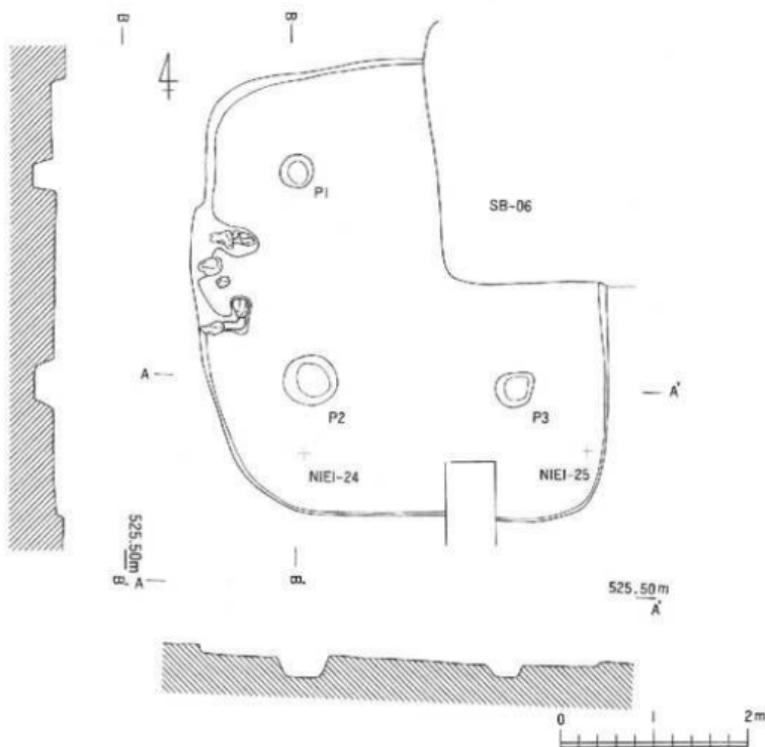


番号	器種類	位置	数量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	杯	須恵 覆土	口径12.5 器高 3.2 口縁部 1/5	胎: 0.1-0.2 の赤色 粗砂粒含有 焼: 良 色: 外2.5YR6/1赤灰色 内2.5YR6/3におい 棕色	体部緩やかに内傾し、 口縁部で短く外反す る。	口唇部傾位の「撫 で」 口縁部轆轤による 「撫で」	口唇部傾位の「撫 で」 口縁部轆轤による 「撫で」
備考	轆轤右固転。						
2	杯	須恵 覆土	口径15.6 残高 3.1 口縁部 1/4	胎: 白色・黒色粗砂粒 含有 焼: 良 色: 外6.5/灰白色 内6/灰色	体部外傾し、口縁部で 僅かに外反する。	口唇部傾位の「撫 で」 口縁部轆轤による 「撫で」	口唇部傾位の「撫 で」 口縁部轆轤による 「撫で」
備考							

第8表 第4号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	位置	法	解	器	質	成形・形態	整形	長	尺
3	環	覆土	口径13.1 残高3.9 口縁部1/8	胎: 0.1未満の赤褐色 砂粒含有 焼: 良 色: 外2.5Y7/2 灰褐色 内口縁部10Y7/1灰 白色、体部5YR5/3 にふい赤褐色	体部下位内付し、口縁 部外傾する。		口縁部後位の「造 で」、体部縁端に よる「造で」、	口縁部後位の「造 で」 体部縁端による 「造で」、の他、最 毛状の口縁による斜 位の調整		
備考										
4	環	覆土	残高2.1 底径8.0 底部1/4	胎: 三色砂粒含有 焼: 良 色: 外N5/灰色 内N6/灰色	輪縁成形。		体部縁端による 「造で」底面縁切 りの後、「造形	外部一底部縁端に よる「造で」		
備考										
5	環	覆土	残高2.8 底径8.8 底部1/4	胎: 赤褐色砂粒含有 焼: 良 色: 外内N8/灰白色	輪縁成形。		「造で」 底面「造形」	「造で」		
備考										
6	環	覆土	残高1.9 底径7.0 底部1/5	胎: 0.1-0.2の粗砂 粒含有 焼: 良 色: 外内N7/灰白色	輪縁成形。		体部縁端による 「造で」 底部部立の「造切 り」	縁端による「造 で」		
備考										
7	上 部	覆土	残高3.1 底径5.4 底部〜頸部 2/3	胎: 白色・黒色細砂粒 含有 焼: 良 色: 外7.5YR5/3にふい 黒色 内7.5YR7/1 明褐色	粘土層積み上げ、 平底の底部から直線的 に立上がる。		胴部「造形」	「造で」		
備考										
8	上 部	覆土	残高2.2 底径5.6 底部1/3	胎: 0.1-0.4の石英 ・赤褐色砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR5/4にふい 赤褐色 内7.5YK 5/1褐色			刷毛調整	「造で」		
備考										
9	環	覆土	残高1.4 口径14.4 底部1/4	胎: 粗砂粒・粗砂粒含 有 焼: 良 色: 外内2.5YR6/3 にふい棕色	付け高台 深みが著しい。		底部「造形」 「造で」	縁端による「造 り」の後「造形」 による不定方向の 「造で」。		
備考										
10	七 部	覆土	口径17.2 残高4.5 口縁部〜胴 部上位1/8	胎: 粗砂粒含有 焼: 良 色: 外2.5Y4/1 黄灰色 内5YR6/3にふい 棕色	縦やかに垂りを持つ胴 部から「くの字」状に 外反する口縁部に至 る。		胴部後位の「造形」 の後の「造で」、 胴部上位後位の 「造形」	胴部「造形」口 縁部・胴部「造 で」		
備考										
11	上 部	覆	口径19.4 残高6.6 口縁部〜胴 部1/8	胎: 白雲母・粗砂粒含 有 焼: 良 色: 外2.5YR7/6褐色 内10R6/8赤褐色	口縁部後位の「くの字」 状に外反する。		縁端による「造 で」	縁端による「造 で」		
備考										

第9表 第4号住居址出土遺物一覽表(2)



第18図 第5号住居址実測図

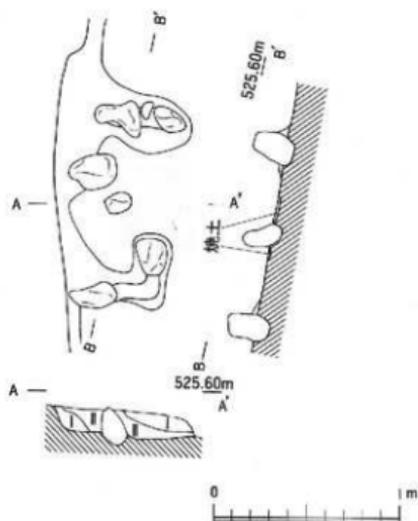
## 5 第5号住居址

遺構（第18、19図）

第5号住居址はA区N1E1-24,25,26,36,37,44,45グリッドにおいて検出された。規模は南北4.8m、東西4.3m、床面積13.1㎡を測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は7～15cmを測る。南東1/4程度を第6号住居址に、また南壁を試堀トレンチにそれぞれ切られているもの、遺存状態は良好である。主軸方位はN-90°-Wを指す。覆土は1層で、砂質の黒褐色である。

床はほぼ水平で、所々に黄茶色の叩き締めた貼床が検出されている。ピットは3個検出されており、P1（36cm×35cm深さ23cm）、P2（53cm×57cm深さ21cm）、P3（39cm×36cm深さ13cm）いずれも主柱穴である。

竈は西壁中央に位置する。西壁を僅かに掘り込んで作り、両袖の遺存状況は比較的良好である。芯材に河原石を用い、これを軸に周囲に粘土を張付けて作っており、天井部及び両袖上部は削平

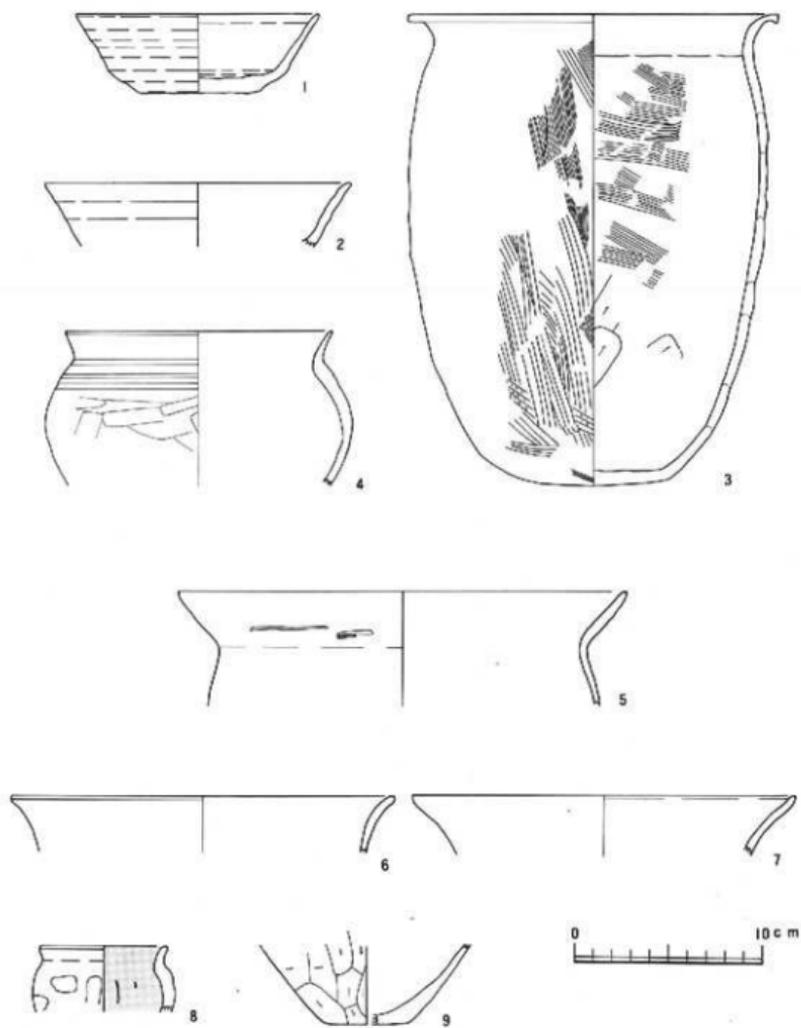


第19図 第5号住居址竈実測図

され、芯材が露出していた。支脚は13cm×10cm×19cmのやはり河原石を用いている。土層堆積はI層が焼土混じりの黒色土、II層が焼土混じりの暗赤褐色土となっている。

遺物 (第20図、第10表)

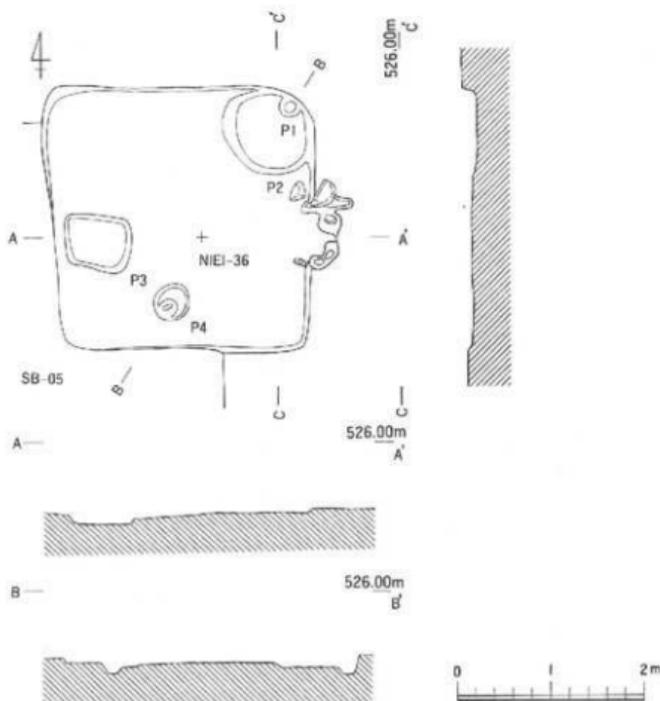
竈内から3、4、5、7、8の土師器甕のほか、土師器の小形(台付)甕が出土している。3の甕は胴部上位から口縁部にかけて1/4周が竈の西に出土したほかは、竈内から出土している。7は胴が球形を呈する。覆土からは、1、2の須恵器坏、6の土師器甕(壺)のほか、内面を黒色研磨した土師器坏、叩き目を有する須恵器甕2種、高台付の須恵器坏等が出土しているものの、総じて出土量は少なかった。



第20图 第5号住居址出土遗物实测图

番号	器種類	位置	径	量	器質	成形・形態	整形技法	
							外	内
1	灰土	覆土	口径12.8 器高4.3 底径5.2 口縁部1/3 底部完全	胎: 0.1未満の黒色砂 粒、石灰含有 焼: 良 色: 外内N6/灰色	底部と腰部の間に僅やかな稜を有し、口縁部外反する。	口縁部横位の「撫で」、腰部縁域による「撫で」、底部停止の「荒切り」。	口縁部横位の「撫で」、腰部縁域による「撫で」。	
備考								
2	灰土	覆土	口径14.7 残高3.4 口縁1/10	胎: 0.2の粗砂粒含有 焼: やや不良 色: 外内2.5Y7/8 灰白色	口縁部外反する。	「撫で」。	「撫で」。	
備考								
3	灰土	覆土	口径19.6 器高23.5 口縁部1/2 ほかほぼ完全	胎: 0.1~0.9の粗砂粒、炭含有 焼: 良 色: 外7.5YR7/3に濃い棕色 内7.5YR8/2 灰白色	九葉の肩部から内彎気味に胴部に向かって開き、胴部上位で最も膨らみ、大きく外反する。口縁に立る。	口縁部~胴部「撫で」、胴部肩毛状工具による「撫で」。	口縁部「撫で」、胴部上位肩毛状工具による「撫で」、胴部下位~底部「荒削り」。	
備考								
4	灰土	覆土	口径14.2 残高8.3 口縁部1/12 胴部1/8	胎: 0.1~0.2の石灰 粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内5YR8/4淡棕色	粘土質積み上げ、胴部中に強い張りを持ち、口縁部で「く」の字状に外反する。	口縁部横位の「撫で」、胴部上位「荒削り」、胴部中位「荒削り」。	「撫で」。	
備考								
5	灰土	覆土	口径23.8 残高6.1 口縁部一同部1/6	胎: 粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内5YR8/4淡棕色	口縁部で「く」の字状に外反する。	「荒削り」の後「撫で」。	「撫で」。	
備考								
6	灰土	覆土	口径20.4 器高3.0 口縁部1/8	胎: 石灰・炭母粒含有 焼: 良 色: 外5YR6/4に濃い棕色 内2.5YR7/5 淡棕色		横位の「撫で」。	横位の「撫で」。	
備考								
7	灰土	覆土	口径20.2 残高3.1 口縁部1/8	胎: 粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内5YR5/4に濃い赤褐色	口縁部外反しながら口唇部で短く内彎する。	横位の「撫で」。	横位の「撫で」。	
備考								
8	灰土	覆土	口径5.8 残高3.5 口縁部~胴部1/2	胎: 粗砂粒含有 焼: 不良(軟) 色: 外5YR3/4暗赤褐色 内黒色	非常に小形、口縁部鋭く「く」の字状に外反する。	横位の「撫で」。	横位の「撫で」。	
備考 内面は破壊している。								
9	灰土	覆土	残高4.1 底径4.4 底部1/4	胎: 0.1以下の粗砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR5/4に濃い赤褐色 内5YR6/6 褐色	底部から僅かに内彎しながら立上がる。	「荒削り」。	「荒削り」の後「撫で」。	
備考								

第10表 第5号住居址出土遺物一覧表



第21図 第6号住居址実測図

## 6 第6号住居址

遺 構 (第21図)

第6号住居址はA区N1E1-35, 36, 45, 46 にかけて、第5号住居址を切る状態で検出された。平面形態は正方形に近い隅丸方形を呈し、主軸はN-90°-Eを指す。規模は南北2.8m、東西2.6mで床面積は8.7㎡で、ごく小規模の住居址である。壁高0~5cmを測り、床面の高さは第5号住居址より僅かに低い。床面直上には繊維質の炭化物が敷き詰められたように検出されている。

ピットは住居址内において4個検出された。このうち柱穴と思われるのはP1(23cm×23cm深さ13cm)、P4(41cm×37cm深さ12cm)である。P2(103cm×89cm深さ6cm)、P3(58cm×71cm深さ8cm)の用途は不明である。

竈は東壁中央に検出されたものの、遺存状態は非常に悪く、主体部はほぼ崩壊状態であった。両袖にあたる箇所には、芯に用いた石材の抜けた跡がピット状に残っており、プラン検出面から

はその芯材と考えられる被熱した石が散見された。



第22図 第6号住居址出土遺物実測図

遺物 (第22図、第11表)

当住居址出土遺物で図示できたのは2点のみである。他には叩き目を有する須恵器焼片2種と須恵器坏、蓋、土師器甕等が出土しているものの、出土量はごく少なかった。

番号	器種 種類	位置	法	量	器質	成形・形態	整形技法	
							外	内
1	坏 須恵	覆土	口径14.4 残高2.1 口縁部1/3	胎: 0.1~0.2の粗砂 粒含有 施: 良 色: 外内N7/灰白色	口縁部僅かに外反する。	口唇部横位の「溝 で」 縦轆による「溝 で」。	口唇部横位の「溝 で」。 縦轆による「溝 で」。	
備考								
2	(坏) 須恵	覆土	残高1.1 底径5.6 底部1/4	胎: 白色粗砂粒含有 施: 良 色: 外10Y1/7灰白色 内7.5Y6/1灰色		縦轆による「溝 で」 底部「回転 筒切り」の後部状 工具による「溝 で」。	縦轆による「溝 で」。	
備考								

第11表 第6号住居址出土遺物一覧表

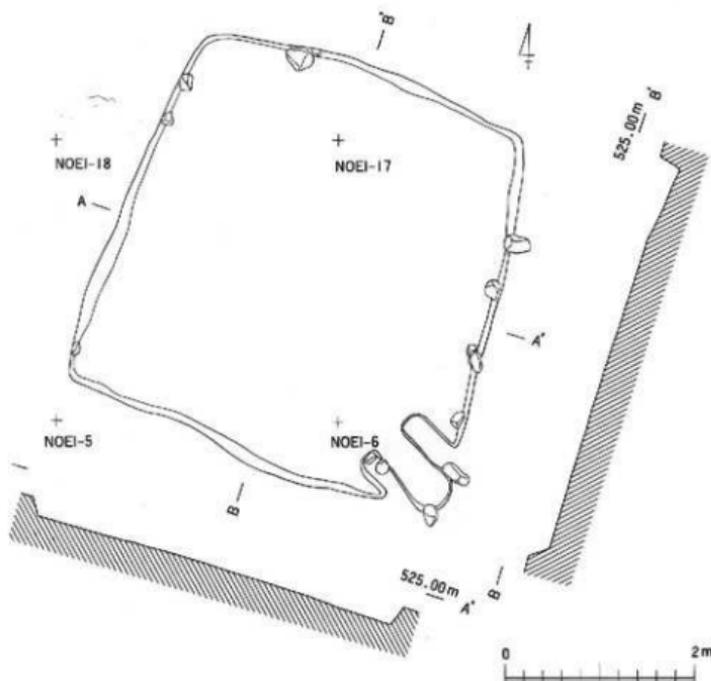
7 第7号住居址

遺構 (第23・24図)

第7号住居址はA区N0E1-5,6,7,16,17,24,25 グリッドにかけて検出された。南北4.5m 東西4.1mの隅丸方形を呈し、床面積16.8㎡を測る。主軸方向はN-20°-Eを指し、壁高は25cm前後を測り、壁溝・柱穴は認められなかった。

覆土は暗褐色の単一土層で、頭~拳大の礫を多量に含んでおり、床にも頭~拳大の礫及び砂が多く検出されている。

竈は住居址の南東隅に検出されたが、ほぼ崩壊状態にあり、両袖の構築プラン、火床部等は明確ではないが、周辺に構材と思われる石が数点散在していた。主軸はS-40°-Eを指し、全長0.9m、焚口の幅0.32m、煙道部は焚口と同幅で壁外にのび、煙出口はやや膨らみを持つ。堆積

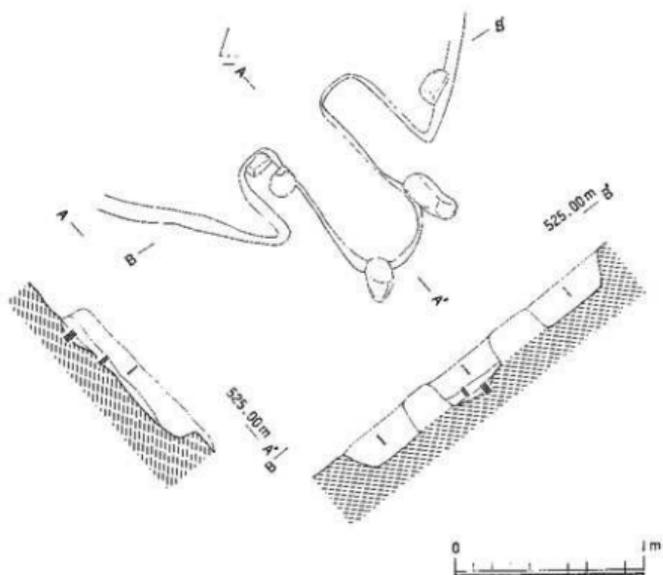


第23図 第7号住居址実測図

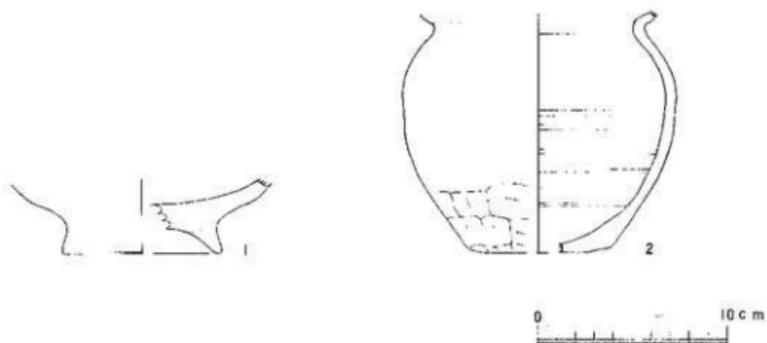
土層は3層で、第I層が焼土・炭化物を含む暗黒褐色土層、第II層が3～5cmの礫と炭化物を含む暗褐色土層、第III層が焼土層である。なお、竈内からは図示した3の上師器の鍋と思われるものと、4の羽釜の破片が出土しているほか、支脚が倒置した状態で出土している。

#### 遺物 (第25・26図、第12表)

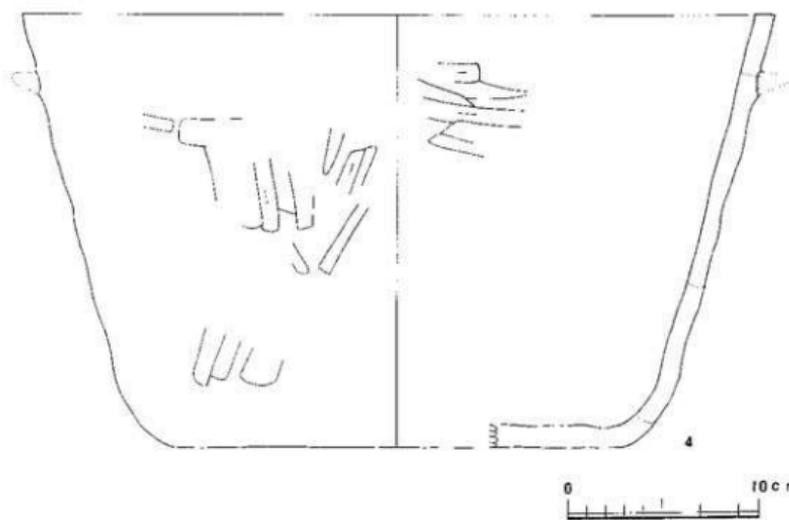
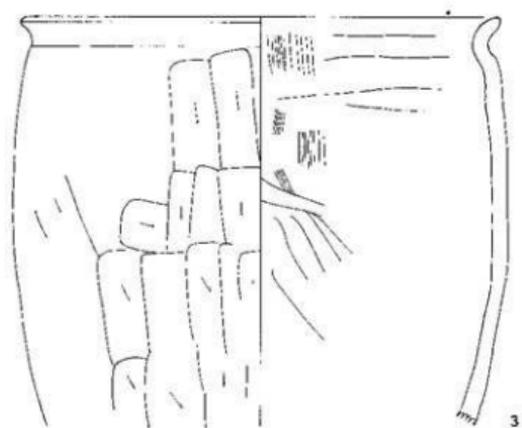
本住居址から出土した遺物は少なく、図示できたのは4点のみである。1は高台付の坏で、高台高が1.6cmと高い。2の球形胴の小形甕で、胴部内面には幅1cm前後の篦状工具による回転の削りが丁寧に施されている。3は法量の大きな土師質の土器で、鍋もしくは甕と思われる。4の羽釜も法量が大きく、底部は平底で底径も23.8cmと他の遺跡の出土例と比して大型である。銜部は接合部から欠損している。



第24图 第7号住居址窟穴实测图



第25图 第7号住居址出土遗物实测图(1)



第26图 第7号住居址出土遺物実測図(2)

番号	部 種 類	位置	法 量	詳 質	成 形・形 態	整 形 技 法	
						外	内
1	土 罎	竈	残高 4.0 底径 8.4 底部～腰部 4/5	胎：細砂粒含有 焼：やや不良 色：外7.5YR6/4に 近い 褐色 内7.5YR6/3 に近い棕色	付け高台	横位の「池で」	剥落のため判別不可
備考							
2	土 罎	覆土	残高12.9 底径 7.4 底部～胴部 1/4	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外2.5Y7/4 淡赤色 内2.5YR7/6 棕色	口縁部「くの字」状に 外反する。	胴部下位「彫削り」 底部「鏡切り」 胴部上位「池 で」	胴部下位縁端によ り「池で」胴部 上位「池で」
備考							
3	土 罎	竈	口径25.2 残高21.8 口縁部～胴 部 1/7	胎：粗砂粒、黒雲母含有 焼：良 色：外10R4/8赤色 内10R5/6赤色	口縁部の短く外反する 長割の器形を呈し、最 大径を胴部上位に有す る。	口縁部横位の「池 で」胴部縦位・新 位の「彫削り」	口縁部「掘で」胴 部「彫削り」の後 「池で」一部「刷 毛調整」
備考							
4	土 罎	竈	口径39.6 残高23.1 底径23.8 口縁部1/20 胴部～底部 1/3	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR5/6明赤褐 色 内5YR5/6明赤 褐色	粘土質積み上げ 平底の底部から倒いて 直立し、口縁に平る。	胴部「彫削り」の 後「池で」、口縁部 「池で」	胴部「彫削り」の 後「池で」口縁部 「池で」
備考							

第12表 第7号住居址出土遺物一覧表

## 8 第8号住居址

### 遺 構 (第27図)

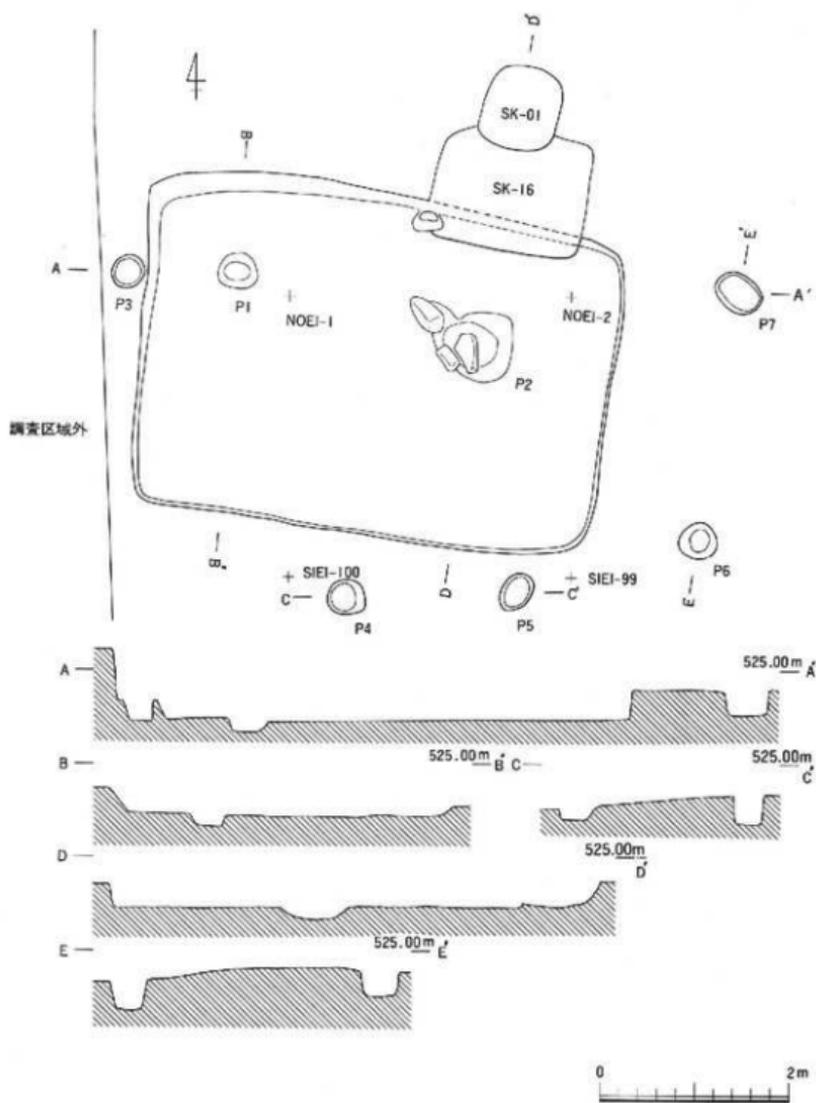
第8号住居址はA区N0E1-1,2,3,18,19,20にかけて検出された。本住居址は南北3.3m東西5.0mの東西に長い隅丸長方形を呈し、床面積15.8㎡を測り、主軸方向はN-9°-Eを指す。壁高は22～30cmを測る。

覆土は2層で、I層が礫を含む暗茶褐色土層、II層が明茶褐色土層である。

床面は南西隅方向に向かって僅かに低くなっているものの概ね水平である。

主柱穴は住居址内に1個、P1(38cm×43cm深さ15cm)を検出したほか、住居址外、壁に沿ってP3(36cm×35cm深さ23cm)、P4(36cm×40cm深さ16cm)、P5(44cm×30cm深さ30cm)、P6(38cm×40cm深さ32cm)、P7(51cm×39cm深さ29cm)が検出され、あるいは本住居址に関わる柱穴かとも思われる。他にP2(74cm×85cm深さ13cm)が検出されている。

竈は第16号土壇によって破壊されており、火床部と西袖の一部が僅かに残っていた。また被熱



第27图 第8号住居址实测图

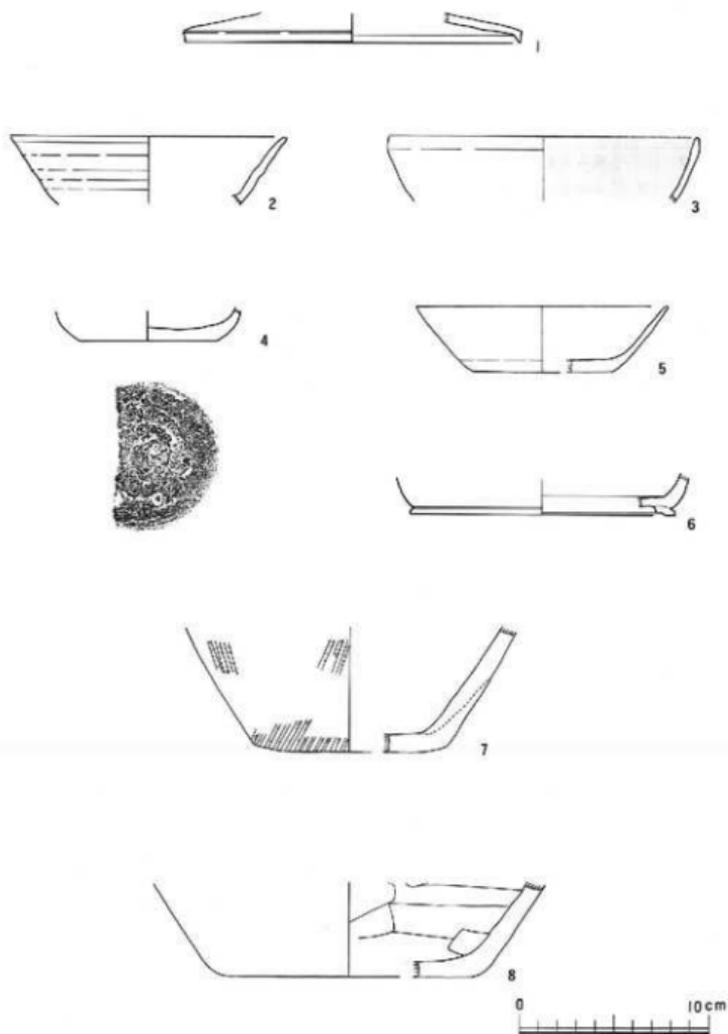
した石材がP2の上に不規則に重なり合っており、第16号土壌を掘った際に放り出された甕の構材であろうと推定される。

### 遺物 (第28図、第13・14表)

図示した遺物8点いずれも覆土中からの出土である。3の坏内面は精緻な磨きを施してある。5の坏は不完全な還元焼成で、色調は『にぶい橙色』を呈している。6の器形は明確でないが、甕であろう。7の甕の内面には爪を立てて押付けた跡が4ヶ所見られるほか、「叩き」が底部にまで及んでいる。なお、2と4の坏は接合部がないため、別に図示したが、器質から類推すると1個体となろう。

番号	器種	位置	法	量	器質	成形・形態	整形	
							外	内
1	甕	覆土	残高 1.3 底径 17.8 天井部～胴部 1/5	胎: 0.1～0.2の粗砂 粒含有 焼: 良 色: 外N4/灰色 内N6/灰色		天井部「筋削り」の跡、輪縁による「撫で」 胴部横位の「撫で」	輪縁による「撫で」 胴部横位の「撫で」	
備考	坏	覆土	口径 14.6 残高 3.6 口縁部～底部 1/8	胎: 細砂粒含有 焼: 良 色: 外N6/灰色 内 7.5R5/2赤灰色	体部に緩やかな線縞を有し直線的に立上がり口唇部で僅かに外反する。	輪縁による「撫で」 口唇部横位の「撫で」	輪縁による「撫で」 口唇部横位の「撫で」	
備考	外面に火跡ある。4と同一個体か。							
3	坏	覆土	口径 15.4 残高 3.5 口縁部 1/12	胎: 0.2の粗砂粒含有 焼: 良 色: 外5YR7/4にぶい 橙色 内黒色	底部方向から内筒気味に立上がり、口縁部で強く更に立上がる。	「撫で」	「磨き」	
備考	坏	覆土	残高 1.6 底径 7.2 口縁部 1/2	胎: 白色泥砂粒含有 焼: 良 色: 外5PB6/1青灰色 内5P5/1紫灰色		底部部止の箇所切り、更に粘土を塗って「撫で」	輪縁による「撫で」	
備考	火跡ある。2と同一個体か。							
5	坏	覆土	口径 13.4 残高 3.5 底径 7.4 底部～口縁部 1/4	胎: 0.1～0.2の石英 粗砂粒含有 焼: 不良 色: 外5YR7/4にぶい 橙色 内5YR6/4 にぶい橙色	平蓋の底部から口縁部に向かって外傾する。	底部乎持ち「筋削り」体部輪縁による「撫で」	輪縁による「撫で」	
備考	不完全な還元焼成、蓋部に火跡ある。							
6	(甕)	覆土	残高 2.2 底径 14.1 高台部縁辺 1/4	胎: 0.2以上の黒・白色粗砂粒含有 焼: 良 色: 内外N8/0灰白色	代け高台	輪縁による「撫で」	輪縁による「撫で」	
備考								

第13表 第8号住居址出土遺物一覧表(1)



第28图 第8号住居址出土遗物实测图

番号	器種 種類	位置	法 量	器 質	成 形・形 態	壁 形 状	
						外	内
7	甕 須 意	覆土	残高 6.5 底径10.2 底部～胴部 下位 1/4	胎：黒色細砂粒含有 焼：良 色：外7.5Y6/1 灰色 内N5/灰色	粘上帯積み上げ	胴部「叩き」の後 筒位の「窪で」	縁輪による「窪 で」
備考	底部の一部に叩き目、胴部下位内面に爪痕ある。						
8	甕 須 意	覆土	残高 4.9 底径12.8 底部座か 体部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外N8/灰白色 内N7/灰白色		「窪で」	「差別り」
備考							

第14表 第8号住居址出土遺物一覧表(2)

## 9 第9号住居跡

### 遺 構 (第29・30図)

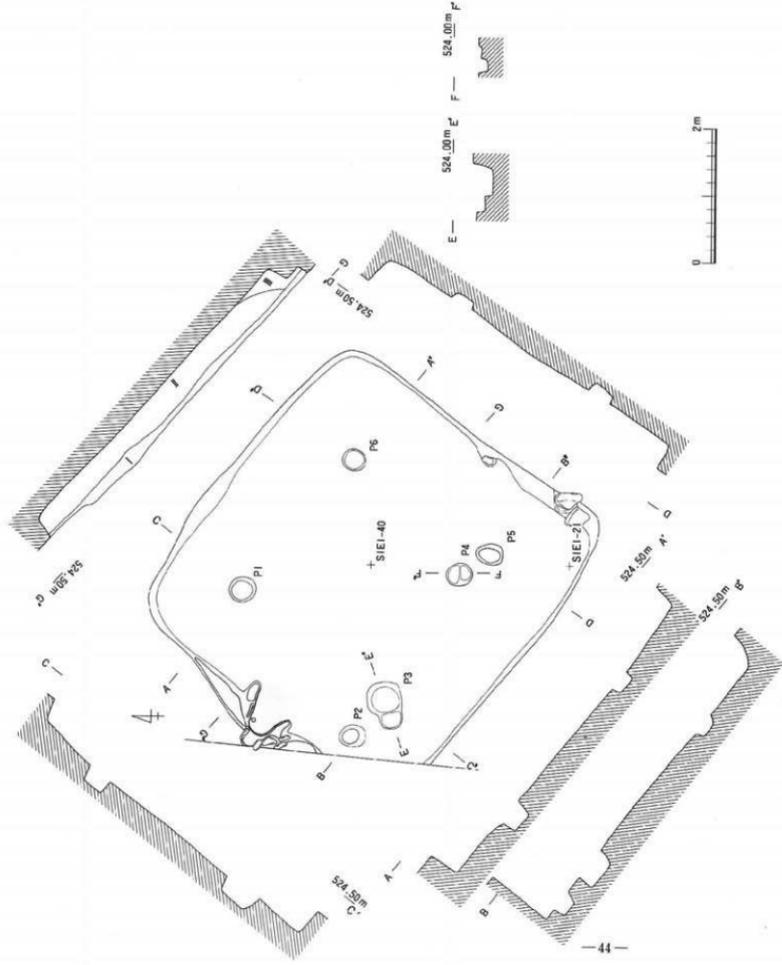
第9号住居跡はA区S1E1-21, 22, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 59, 60 にかけて検出された。住居址の南西隅が調査対象区から外れているが、平面形態は隅丸方形を呈するものと思われ、規模は、北西-南東 5.2m北東-南西 5.6mで検出床面積25.4㎡を測り、壁高は36-48cmを測る。主軸方位はN-50°-Wである。

覆土は3層からなり、I層は締まりの良い黒色粘質土、II層は礫を含む明茶褐色土、III層は黒褐色土である。

床は北東壁際と南西壁際の比高差が14cmあり、緩やかに南に傾斜している。床面は黄褐色の粘質土を叩き締めている。

柱穴は6個検出された。このうち上柱穴はP1(40cm×37cm深さ22cm)、P3(52cm×72cm深さ29cm)、P5(41cm×32cm深さ14cm)、P6(35cm×33cm深さ11cm)である。P2(39cm×32cm深さ18cm)、P4(40cm×34cm深さ14cm)は支柱穴であろう。

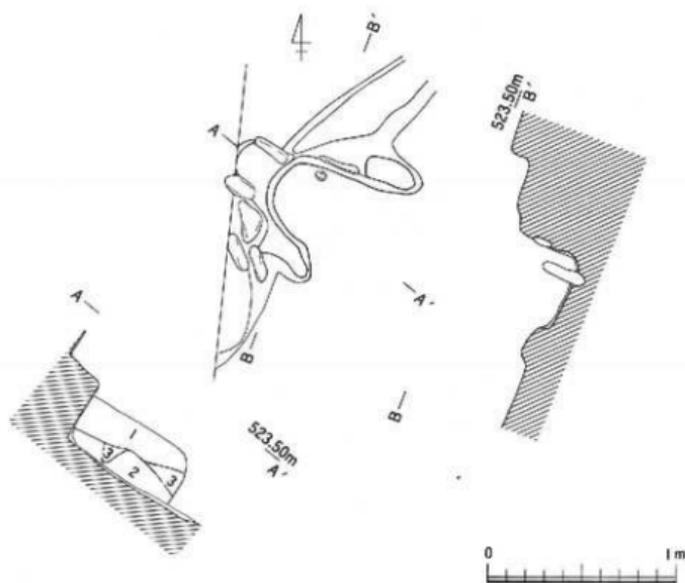
竈は北西壁中央に検出された。主軸方位はN-54°-Wを指す。左袖部の大部が破壊され、煙道部先端が調査できなかったものの、他の遺存状態は比較的良好であった。規模は全長 2.2m、最大幅 0.6m、焚口幅 0.7m(推定)、煙道長 0.2mを測る。支脚石は右袖の6cm南に、竈の袖から大きく外れた位置に、直立して検出されている。燃焼室から煙道部へは垂直に立上がり、煙道部はほぼ水平である。両袖は白色粘土で芯の石材を覆う形で構築されていた。また竈の左右の壁は壁を外側に張り出させる形でテラスを設けている。竈内の土層堆積は3層で、1層は締まりの良い黒色粘質土、2層は暗灰褐色の弱粘質土、3層は黒色粘質土、4層が灰泥じりの明灰褐色土であった。また火床部、両袖内側、煙道部壁には焼土が1-3cm堆積していた。



第23图 第9号住居址平面图

遺物 (第31~33図、第15~17表)

本住居址からの出土遺物量は多く、22点が図示できたものの、バラエティには乏しいものであった。2の蓋が床面直上から、19の甕が竈から出土したほかは、いずれも覆土からの出土である。1、2は須恵器蓋、3、5~7は須恵器坏、4、8、9、10は内面を黒色研磨した土師器坏である。11~13については底部のみであるため、器種がはっきりしないが、おそらく坏であろう。13~16は須恵器甕である。14は焼成が甘く軟らかい。18~22は土師器甕である。21、22は器質が酷似しており、接合部が無かったため別に図示したが、同一個体と思われる。



第30図 第9号住居址竈実測図

番号	器種 種類	位置	法 量	器 質	成 形 ・ 形 態	整 形 技 法	
						外	内
1	壺	須 点	口径 4.2 器高 4.2 口径部 1/3	胎: 黒色・白色の粗砂 粒含有 焼: 良 色: 外内N7/ 灰白色	付け掴みは扁平な擬宝 珠形を呈する。	天井部轆轤による 「荒削り」掴み。 底部轆轤による 「撫で」。	轆轤による「撫 で」。
備考 轆轤右回転。							
2	壺	須 点	口径 3.2 口径部 1/3	胎: 白色粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内5Y5/1 灰色	天井部の強りが強く、 底部に比喩を有する。	天井部轆轤による 「荒削り」 底部轆轤による 「撫で」	轆轤による「撫 で」。
備考							
3	環	須 点	口径13.1 器高 3.7 口径部 1/2	胎: 白色粗砂粒を多く 含有 焼: 良 色: 外内5Y5/1 灰色	粘土捏造き上げ。体部 に螺旋状の絞線を有す る。底部静止直切り。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」。
備考 内外面に火傷、底部に荒削りあり。							
4	土 師	須 点	口径12.1 口径部 1/2	胎: 0.2以下の赤色・ 白色粗砂粒含有 焼: 良 色: 外7.5YR7/4に よる褐色、口径部黒色 内黒色	平底の底部から内側し ながら口径部に至る。 轆轤成形。	体部轆轤による 「撫で」 底部静 止直切りの後「撫 で」	黒色「磨き」
備考 内面の磨減激しい。							
5	環	須 点	口径15.1 口径部 1/8	胎: 粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内N7/ 灰白色		轆轤による「撫 で」 口径部位置 の「撫で」	轆轤による「撫 で」 口径部位置 の「撫で」。
備考							
6	環	須 点	口径14.6 口径部 1/5	胎: 粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内N6/ 灰色	口径部短く外反する。	轆轤による「撫 で」 口径部位置 の「撫で」	轆轤による「撫 で」 口径部位置 の「撫で」。
備考							
7	環	須 点	口径12.9 口径部 1/12	胎: 赤褐色粗砂粒含有 焼: 不良 色: 外内5YR7/4 に よる褐色	粘土密積み上げ	轆轤による「撫 で」。	轆轤による「撫 で」
備考 不完全な還元焼成。							
8	土 師	須 点	口径15.0 口径部 1/8	胎: 0.1粗砂粒含有 焼: 良 色: 外7.5YR7/6褐色 内黒色	体部の内母が強く、口 縁部直立する。	「撫で」	黒色「磨き」
備考							
9	土 師	須 点	口径15.5 口径部 1/3 口径部 1/3 口径部 1/3	胎: 粗砂粒多く含有 焼: 良 色: 外5YR7/3に よる褐色 内黒色	丸みを帯びた平底の底 部から内側しながら立 上がり、僅かに内寄す る口径部に至る。	底部「荒削り」 体部-口径部位置 の「撫で」	「磨き」
備考							

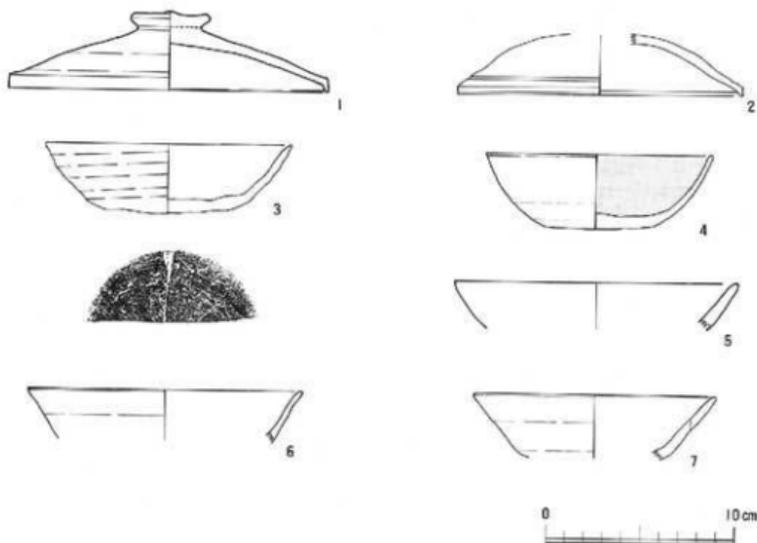
第15表 第9号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	位置	法	量	器質	成形・形態	形状		技法
							外	内	
10	杯	覆土	口径14.8 器高 5.5 底部充有 体部~口縁部 1/5	胎: 磁砂粒含有 施: 良 色: 外10YR7/4にふい 黄褐色 内黒色	丸蓋の底部から体部から口縁部まで内彎しながら立上がる。	口縁部横位の「撫で」 体部~底部「旋削り」	口縁部横位の「撫で」 体部横位の「旋削り」 黒色処理		
備考	(坏)	覆土	残高 2.5 底径 7.0 底部 1/3	胎: 黒色粗砂粒含有 施: 良 色: 外内N6/灰色	輪軸成形 静止策切り 平底の底部。	体部輪軸による「撫で」底部「旋削り」の後、「撫で」。	輪軸による「撫で」		
備考	(坏)	覆土	残高 1.5 底径 7.6 底部 1/4	胎: 粗砂粒含有 施: 不良 色: 外7.5YR8/4淡黄褐色 内2.5Y8/1 淡黄色	平蓋	底部「旋削り」。	輪軸による「撫で」。		
備考	不完全な蓋先部焼成								
13	(坏)	覆土	残高 0.8 底径 8.7 底部 1/2	胎: 白色磁砂粒含有 施: 良 色: 外内N7/灰色	回転「旋削り」の平底	回転「旋削り」の後、底部中央四部に粘土を盛り「旋削り」	輪軸による「撫で」		
備考	鉢	覆土	口径22.2 残高 7.4 口縁部~胴部上位 1/5	胎: 雲母、黒色砂粒含有 右 施: やや不良 色: 外2.5Y8/1 灰白色 内3Y8/1 灰白色	胴部上位に強い張り有り、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部刷毛状工具による横位の「撫で」	「撫で」		
備考	鉢	覆土	口径24.0 器高14.2 底径13.2 底部1/6 胴部1/4 口縁部1/12	胎: 粗砂粒含有 施: やや不良 色: 外N5/灰色 内N6/灰色	粘土帯積み上げ 肩部強くゆる 平底	輪軸による「撫で」の後、指頭による不定方向の「撫で」	輪軸による「撫で」		
備考	鉢	覆土	口径14.8 残高 4.7 口縁部~胴部 1/2	胎: 長石、黒色粗砂粒含有 施: 良 色: 外N6/灰色 内N7/灰白色	粘土帯積み上げ 胴部「コの字」状に外反する。	輪軸による「撫で」	輪軸による「撫で」 粘土帯接合部は指頭による「撫で」		
備考	肩部の一部に気泡が出ている。								
17	(蓋)	覆土	残高 4.2 底径12.8 底部~胴部 下位 1/5	胎: 磁砂粒含有 施: 良 色: 外N7/灰色 内N2.5Y7/3淡黄色	粘土帯積み上げ	「撫で」	「撫で」		
備考	内外面に粘土帯接合部が明確に残る。								
18	鉢	覆土	口径20.2 残高 5.2 口縁部~胴部 1/5	胎: 雲母・粗砂粒含有 施: 良 色: 外7.5YR6/6褐色 内7.5YR7/6褐色	胴部から口縁部に向かって大きく外反し、口縁部で強く内彎する。	胴部「旋削り」 口縁部下位刷毛状工具による「撫で」、口縁部横位の「撫で」	横位の「撫で」 口縁部横位の旋削り工具による「撫で」		
備考									

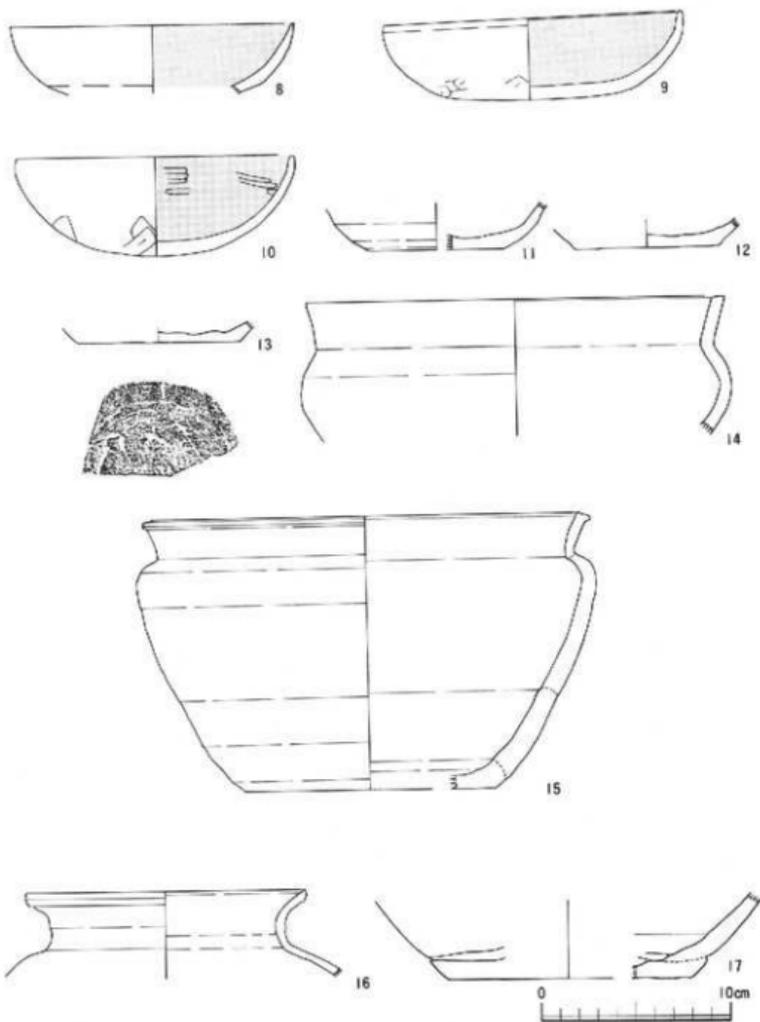
第16表 第9号住居址出土遺物一覧表(2)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	装飾技法	
						外	内
19	(甕) 土師	覆土	口径25.6 残高5.5 口縁部~胴部 1/4	胎:雲母・砂粒含有 施:良 色:外内7.5YR7/3 にふい橙色	頸部から口縁部に向か って緩やかに外反す る。	「撫で」	「撫で」
備考							
20	甕 土師	覆土	口径22.7 器高30.5 底径6.0 口縁部~底部 1/2	胎:雲母・粗砂粒含有 施:良(やや軟弱) 色:外内7.5YR7/4 にふい橙色	胴部上位に胴部の最大 径を有し、口縁部は大 きく外反する。粘土帯 積み上げ。	口縁部横位の「撫 で」胴部横位の泥 状工具による「撫 で」胴部上位「節 削り」	口縁部横位の「撫 で」胴部横位の「撫 で」節削り」胴部に 「碇目目」
備考							
21	甕 土師	覆土	口径15.6 残高10.8 口縁部1/16 胴部 1/5	胎:粗砂粒含有 施:良 色:外5YR8/3淡橙色 内5YR8/4淡橙色	粘土帯積み上げ。 胴部は球形を呈し、口 縁部で「く」字状に 外反する。	横位の丁家な「撫 で」	横位の丁家な「撫 で」
備考 22の上部か。							
22	甕 土師	覆土	残高9.6 底径11.0 底部 1/3 胴部 1/12	胎:0.3-0.4の雑含有 有 施:良 色:外5YR8/3淡橙色 内5YR8/4淡橙色	胴部球形を呈する。	胴部横位の「泥撫 で」及び横位の 「撫で」 底部「泥撫で」	胴部横位の「撫 で」 底部放射上の「泥 撫で」
備考 21の底部か。							

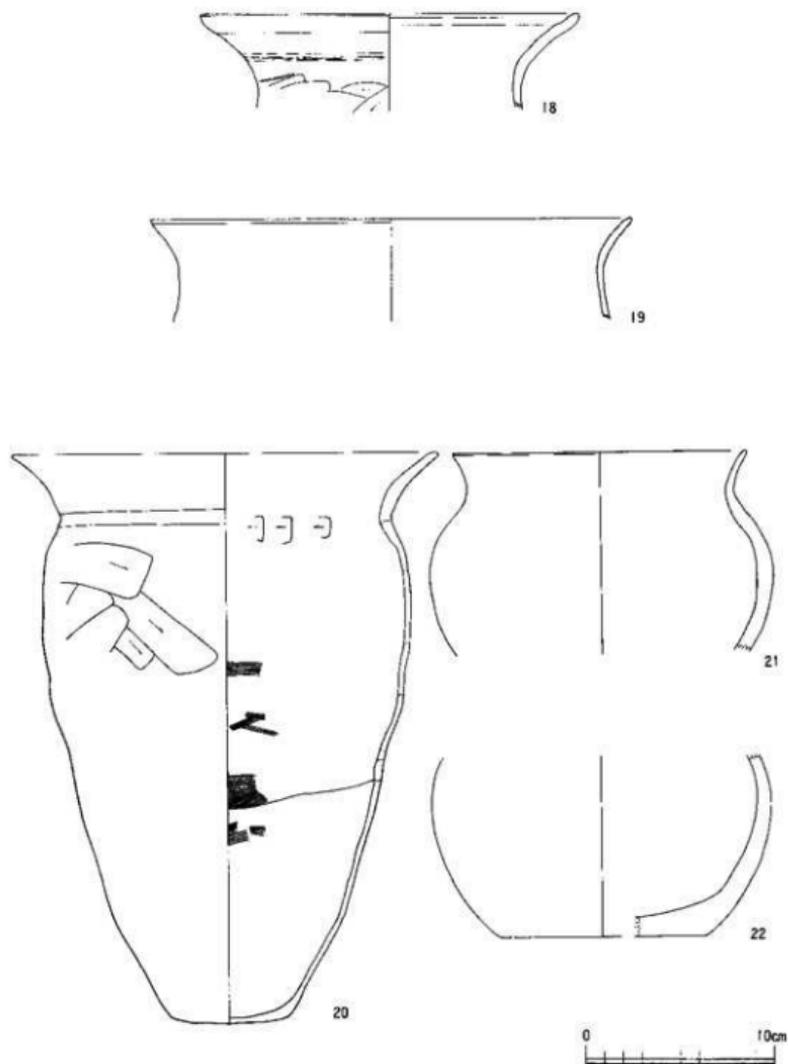
第17表 第9号住居址出土遺物一覧表(3)



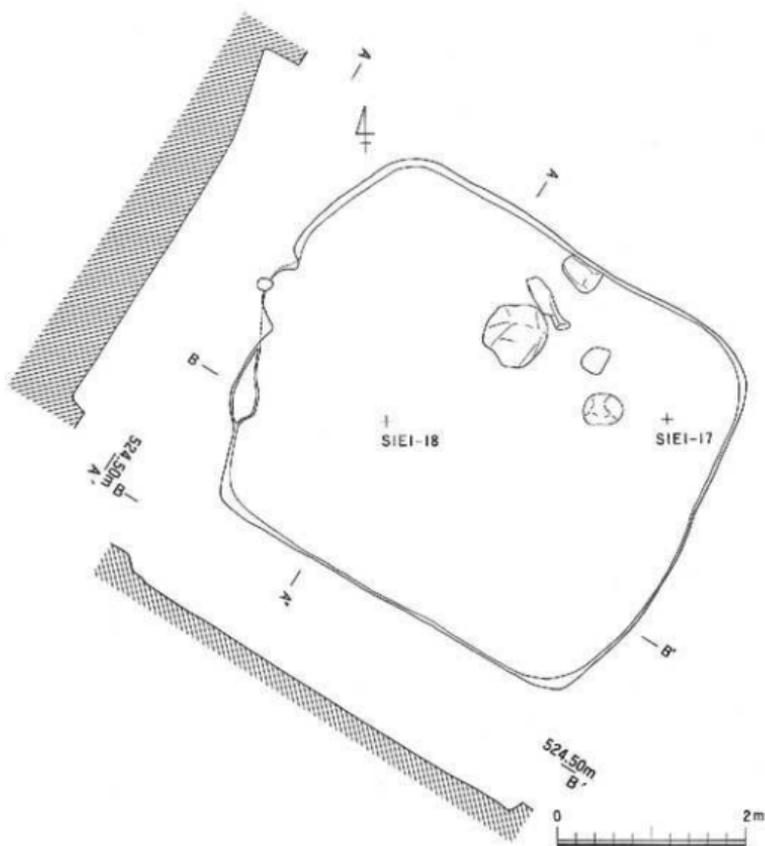
第31図 第9号住居址出土遺物実測図(1)



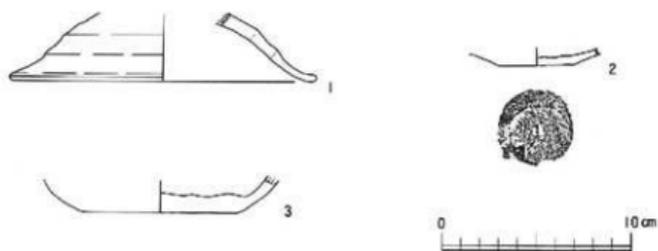
第32図 第9号住居址出土遺物実測図(2)



第33图 第9号住居址出土遺物実測図(3)



第34图 第10号住居址实测图



第35图 第10号住居址出土遗物实测图

## 10 第10号住居址

### 遺構 (第34図)

第10号住居址はA区S1E1-16,17,18,23,24,25 にかけて検出された。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は、南北 4.3m東西 4.9mで、床面積は21.4㎡である。壁高40-14cmを測り、遺構の遺存状況は悪い。主軸方位はN-33°-Eを指す。覆土は1層で石、礫を多量に含む砂質の黒褐色土である。

床面には第7号住居址同様、石が多く入り込んでおり、柱穴も確認されなかった。西壁に竈の痕跡が僅かに見られたが、これも破壊状態で、はっきりと確認できなかった。

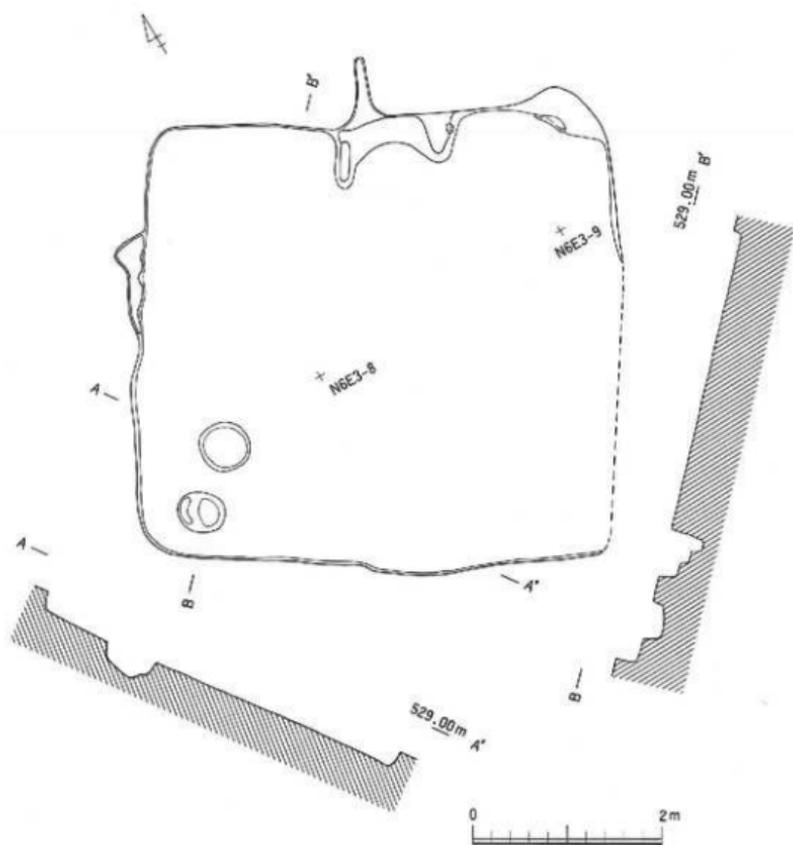
本住居址のプラン検出面周囲は石、礫を多量に含む砂質土であり、河床の様相を呈しており、本住居址が河川の氾濫原に構築され、その後も氾濫によって破壊されたものと推察される。

### 遺物 (第35図、第18表)

本住居址からの出土遺物は少なく、図示出来たのは3点だけである。1は土師器甕で、器高が高く、内面には吸炭処理をした形跡がある。2は須恵器の土師器坏で、器質は非常に堅緻である。3は須恵器坏底部である。

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	(甕) 土師	覆土	残高 3.6 底径16.0 大井部~胴部 1/2	胎: 0.8の砂含有 焼: 良 色: 外2.5Y8/3 淡黄色 内10R4/1 暗赤灰色	粘土帯積み上げ 胴部緩やかに大きく外反する。	轆轤による「甕で」の後、天井部縦位の「甕で」	大井部轆轤による「甕で」 胴部横位の「甕で」
備考							
2	(坏) 土師	覆土	残高 0.9 底径 3.9 底部のみ	胎: 0.1未満のお実粒含有 焼: 良 色: 外N7.5YR6/2 灰褐色	底部回転糸切り	轆轤による「甕で」の後、不定方向の「甕で」	轆轤による「甕で」。
備考							
3	(坏) 須恵	覆土	残高 2.0 底径 8.2 底部 1/2	胎: 0.5の白色礫含有 焼: 良 色: 外N4N8/灰白色	底部から体部に緩やかに立上がる。	底部轆轤による「甕切り」の後放射状の「甕で」体部轆轤による「甕で」	轆轤による「甕で」
備考							

第18表 第10号住居址出土遺物一覧表

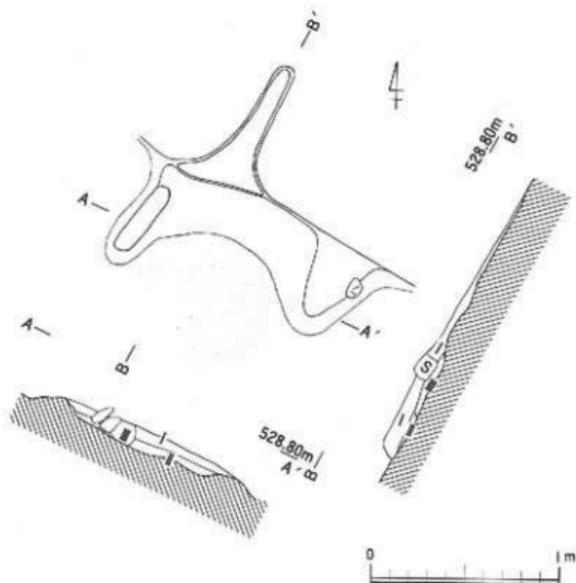


第36図 第11号住居址実測図

## 11 第11号住居址

### 遺構(第36・37図)

本住居址はC区の最北に位置しており、N7E3-11,12,13、N6E3-8,9,10のグリッドにわたって検出された。東壁の大部分が流失していて全体の規模ははっきりしないが、遺構はほぼ隅丸方形を呈する。主軸方位はN-31.5°-E、東西方向で約5.1m、遺構中央の南北方向で4.68m、壁高0.18mを測る。床面積は約23.9㎡である。北壁中央部に竈があり、柏石は失われているが、粘土郭の基部と石のはずれたあとの穴が残り、床面のレベルに焼土が広く遺存していた。床は貼り床である。3-5cmの厚さの粘土で固く叩き締められていた。床面はほぼ水平であった。



第37図 第11号住居址竈実測図

西壁中央部に階段状の段があり、入り口と思われる。柱穴は一か所だけ確認でき、 $28 \times 26 \times 13$  (cm) であった。西南隅に  $26 \times 20 \times 9$  (cm)、を測るピットがあったが、その用途は不明である。

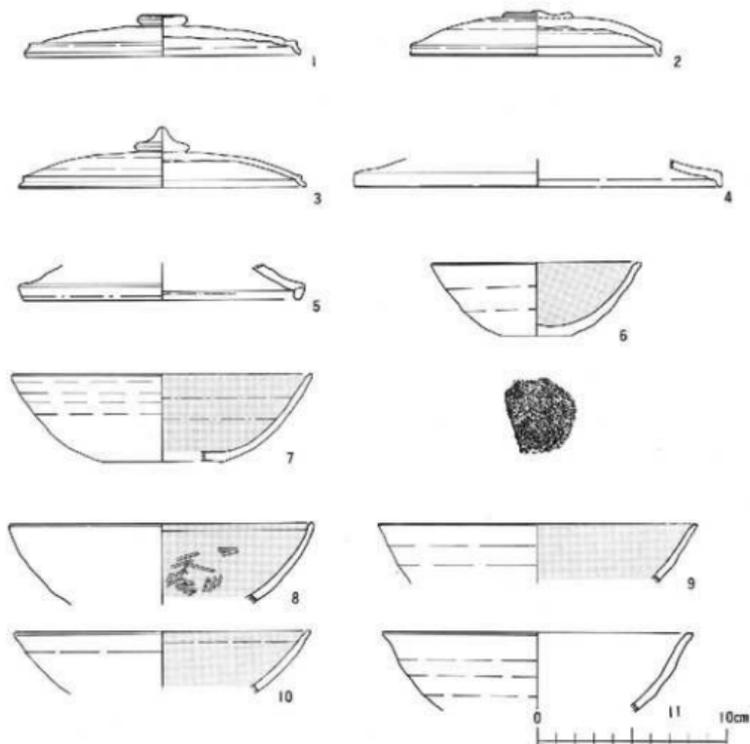
竈は、主軸方位が  $N-27.5^{\circ}-E$ 、最大幅  $0.98\text{m}$ 、全長  $0.54\text{m}$  を測る。右袖部の破壊が激しく、焚口幅の正確な計測はできなかったが、袖残存部の突端から突端までは  $0.90\text{m}$  であった。煙道長は  $0.71\text{m}$  を測り、煙道は北壁を掘り込んで緩やかに立ち上がり、壁外でいったん  $5\text{cm}$  の深さを示し、約  $2\text{cm}$  の深さで末端部に至る。

覆土は砂混じりの黒色土 1 層であり、竈部の土層は 3 層よりなる。I 層は覆土であり、II 層は焼土と灰混じりの黒色土層、III 層は焼土ブロックである。貯藏穴は発見できなかった。なお、本遺構の東北部分から東南部分にかけてこぶし大の礫が大量に混入しており、川砂も混じっていた。

#### 遺物 (第38～41図、第19～23表)

本遺構からの出土遺物は多く、35点を図示できたが、完形品はなかった。床面からの出土は 3、14、28 で、他は覆土からの出土である。竈出土は、1、18、30である。1～5は須恵器の蓋である。坏の出土は多く、土師器の坏10点 (6～10、12、13、21～23)、須恵器も11点 (11、14～20、24、26、27) を数える。高台付のものは少なく、26、27 だけである。25は皿である。内部黒色の坏は 8 点あるが研磨されているものは 8、21のみである。口縁部が外反するものが 7、9、10、11、

13, で直立するものは8の一つと少ない。須恵器で底部から急に立ちあがるのが14, 15である。口径と底径の比は1.84 : 1, 1.66 : 1と小さく土師器は底部より緩やかに立ち上がるものが多い。口径対底径の比が2.7~3.0 : 1と大きいのが6, 7, 16である。底部については、21が手持ち篋切り、26, 27が回転篋切り、他は回転糸切りである。28, 29は須恵器の壺である。30~33は土師器の甕である。30は外面で横ないし斜方向の篋削り調整が施されており、器内はうすい(3~5mm)。30, 33は胴部を欠いているが、同一器体ものと思われる。34は須恵器の高台付小型甕、31は器肉の薄い小型甕であるが、胴部以下を欠いている。35は須恵器の大型の壺である。



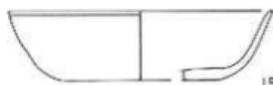
第38図 第11号住居址出土遺物実測図(1)



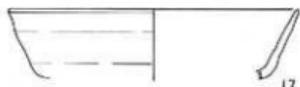
12



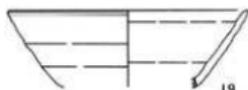
13



15



17



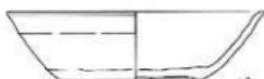
19



21



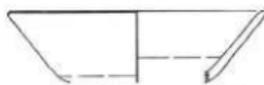
23



14



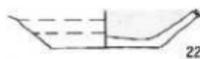
16



18



20



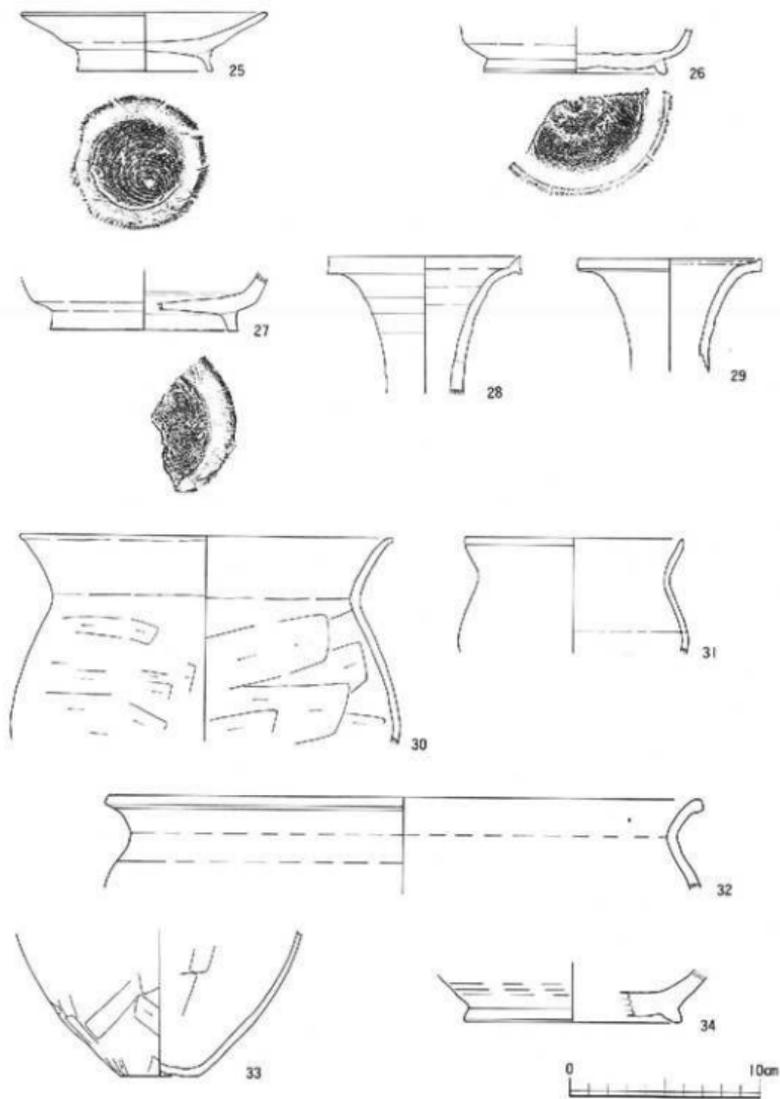
22



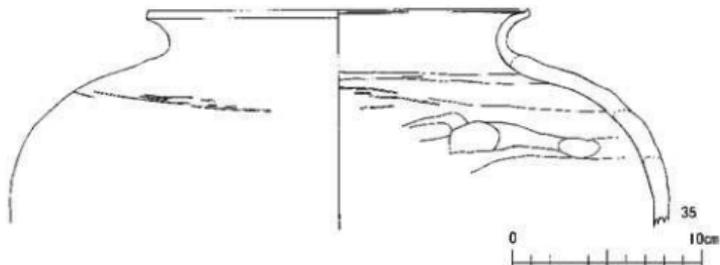
24



第39図 第11号住居址出土遺物実測図(2)



第40图 第11号住居址出土遗物实测图(3)



第41図 第11号住居址出土遺物実測図(4)

番号	器種	位置	法	尺	器	質	成形・形態	整 形 扶 法	
								外	内
1	蓋	須 志 敷	握み径 2.6 器高 2.2 裾径 14.6 握み部一握 部1/2	胎：黒色・白色の粗砂 粒含有 焼：良 色：外内5YR6/4 に白褐色	付け握みは中央部が窪んだ蓋状を呈する。裾部と天井部の接合部に明確な段を有する。		握み部「撫」で、天井部上位輪による「彫削り」下位輪による「撫」で。	輪による「撫」で。	
備考 輪縁右回転。不完全な覆光船焼成。									
2	蓋	須 志 覆土	握み径 3.7 器高 2.4 裾径 13.4 握み部完存 天井部一握 部 1/8	胎：白色、黒色粗砂粒含有 焼：良 色：外内4.5Y5/1灰色	握み部は扁平な半球形を呈する。		天井部輪による「彫削り」裾部輪による「撫」で。	輪による「撫」で。	
備考									
3	蓋	須 志 束	握み径 2.9 器高 3.2 裾径 15.3 握み部完存 天井部一握 部 1/3	胎：黒色粗砂粒を多く含有する。 焼：良 色：外N4/灰色 内N6/灰色	握み部は半球形を呈する。		天井部輪による「彫削り」裾部輪による「撫」で。	輪による「撫」で。	
備考 外面天井部に緑黄色の自然物が多量に付着している。									
4	蓋	須 志 覆土	残高 1.5 淵径19.6 裾部 1/12	胎：0.1以下の黒色粗砂粒、雲母含有 焼：やや不良 色：外7.5Y7/1灰白色 内N8/灰白色			輪による「撫」で。	輪による「撫」で。	
備考									
5	蓋	須 志 覆土	残高 1.9 裾径14.6 裾部 1/12	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内5R6/1			輪による「撫」で。	輪による「撫」で。	
備考 裾部の接合長が明確に見える。									
6	杯	上 部 覆土	口径11.2 器高 3.8 底径 3.9 口縁部1/12 光部 1/2	胎：粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外7.5YR7/6褐色 内黒色	依部外側に緩やかな段を2条有する。 粘上段を上げか。		輪による「撫」で。 底面回転状切り	輪による「撫」で。	
備考 輪縁右回転。									

第19表 第11号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種 種類	位置	法 量	器 質	成 形・形 態	鑿 形 技 法	
						外	内
7	環 土 師	覆土	口径15.9 器高 4.7 底径 3.0 I緑部~底 部 1/6	胎:石灰、粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR7/6 褐色 内黒色	体部は内凹しながら立 上がり、口縁部で短く 外反する。	轆轤による「撫 で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫 で」の後黒色処理
備考							
8	環 土 師	覆土	口径16.2 残高 4.3 口縁部~体 部 1/8	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外2.5YR7/4 淡赤 褐色(口縁部黒色) 内黒色	体部内凹しながら立上 がり、口縁部やや直立 する。	不定方向の「撫 で」	不定方向の「磨 き」
備考							
9	環 土 師	覆土	口径16.9 残高 3.2 口縁部1/12	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR6/4 にお い褐色 内黒色	外面に2条の線を有 し、口縁部やや外反す る。	轆轤による「撫 で」	斜位の「撫で」の 後黒色処理
備考							
10	環 土 師	覆土	口径15.8 残高 3.3 口縁部~体 部 1/12	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外10R3/4 暗赤色 内黒色	口縁部短く外反する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」の後黒色処理
備考							
11	環 土 師	覆土	口径16.4 残高 4.2 I緑部~体 部 1/6	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外内2.5YR4/6 赤褐色	肩部外面に線をもち、 I緑部外反する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」
備考							
12	環 七 師	覆土	口径16.4 残高 2.8 口縁部~体 部 1/12	胎: 0.1の赤褐色砂粒 含有 焼:やや不良 色:外7.5YR7/4 にお い褐色 内10YR 7/2 におい黄褐色		轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」
備考							
13	環 土 師	覆土	口径14.8 残高 3.8 口縁部~体 部 1/6	胎:雲母、石英の粗砂 粒含有 焼:良 色:外10R6/6 赤褐色 内黒色	体部は内凹しながら立 上がり、I緑部で鋭や かに外反する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」
備考							
14	環 須 志	床	口径13.6 器高 3.6 底径 7.4 I緑部~底 部 2/3	胎: 0.3~0.1の黒色 粗砂粒含有 焼:良 色:外内N7/ 灰白色	平底の底部から体部は ほぼ直立し、I緑部に 至る。 轆轤水洗き成形	轆轤による「撫 で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫 で」
備考 内外面に火焼ある。							
15	環 須 志	覆土	口径14.0 器高 3.7 底径 8.4 口縁部~底 部 1/4	胎:石英、粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外内N8/ 灰白色	轆轤水洗き成形	轆轤による「撫 で」一部手持ちの 「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫 で」一部手持ちの 「撫で」
備考 内外面に火焼ある。							

第20表 第11号住居址出土遺物一覧表(2)

番号	胎種 種類	位置	法 量	器 質	成 形 ・ 形 態	製 形 技 法	
						外	内
16	環 須 点	覆土	口径10.4 残高 4.1 底径 3.9 口縁部一休 部 1/10	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外内N6/灰色	底部と体部の接合部に 明瞭な段を有する。	轆轤による「漉 で」一部手持ちの 「漉で」 底部回転糸切り	轆轤による「漉 で」一部手持ちの 「漉で」
備考							
17	環 須 点	覆土	口径15.4 残高 3.7 口縁部一休 部 1/6	胎:白色粗砂粒含有 焼:良 色:外N1/灰色 内N5/灰色	体部は直立し口縁部に 至る。体部に緩やかな 段を有する。	轆轤による「漉 で」	轆轤による「漉 で」
備考							
18	環 須 点	覆	口径13.6 残高 3.8 口縁部一休 部 1/12	胎:白色粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外内N8/灰白色	体部は直立し口縁部に 至る。	轆轤による「漉 で」	轆轤による「漉 で」
備考							
19	牙 須 点	覆土	口径12.8 残高 4.1 口縁部一休 部 1/6	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外内口辺部2.5GY 7/1 明オリブ灰 色、体部N5/灰色	体部内増しながら口縁 部に至る。	轆轤による「漉 で」	轆轤による「漉 で」
備考							
20	環 須 点	覆土	口径13.4 残高 2.5 口縁部 1/6	胎:雲母、粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外内7.5Y8/1 灰白 色	内外面に強い稜がある。	轆轤による「漉 で」	轆轤による「漉 で」
備考							
21	環 土 師	覆土	残高 1.5 底径 5.9 底部 1/2	胎:白色粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR7/4 に よる い黄色 内黒色	平底の底部から緩やか に体部に立上がる。	「漉で」 底部手 持ちの「漉切り」	「磨き」 黒色処理
備考							
22	環 土 師	覆土	残高 1.8 底径 5.8 底部 1/4	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外10YR7/4に よる い黄色 内黒色	平底の底部から緩やか に内増する体部に立上 がる。	「漉で」 底部回転糸 切り	黒色処理
備考							
23	環 土 師	覆土	残高 2.3 底径 5.7 底部 1/3	胎:石英、粗砂粒含有 焼:良 色:外10R6/6 赤棕色 内10R5/6 赤色		轆轤による「漉 で」か 底部回転糸切り	轆轤による「漉 で」の「後」条の泥 状工具による「磨 き」
備考							
24	環 須 点	覆土	残高 2.6 底径 7.5 底部一休 部 1/6	胎:粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外内N8/灰白色		轆轤による「漉 で」 底部回転糸切り	轆轤による「漉 で」
備考							

第21表 第11号住居址出土遺物一覧表(3)

番号	器種	位置	法	量	器質	成形・形態	変形技法	
							外	内
25	水 (皿) 土師	覆土	器高 3.2 底径 7.2 口径13.1 口縁部 1/8 底部欠存	胎: 0.1~0.2 の赤褐色粗砂粒含有 施: 良 色: 外内5YR6/6 褐色	付け高台は局部でやや外反する。 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」 高台部部位の「撫で」	放射状に丁寧な「磨き」	
備考	(平)	覆土	残高 2.4 底径 9.8 底径 1/3	胎: 白色粗砂粒含有 施: 良 色: 外内10YR5/1 褐色	付け高台	轆轤による「撫で」 底部回転「磨切り」	轆轤による「撫で」	
27	(平) 灰土	覆土	残高 3.2 口径10.0 底部 1/4	胎: 粗砂粒含有 施: 良 色: 外内N7/ 灰白色	付け高台 底部中央の器厚が薄い。	轆轤による「撫で」 「磨切り」か	轆轤による「撫で」	
備考	覆	床	口径10.2 残高 7.4 底部 1/3	胎: 0.7の礫含有 施: 良 色: 外内7.5Y7/1 灰白色	粘土層積み上げ 頸部からラップ状に開き口縁部に至る。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考	内外面に淡緑色(7.5GY7/1)の自然釉が付着。							
29	壺 灰土	覆土	口径 9.7 残高 6.0 口縁部~頸部 1/3	胎: 石英、赤母、粗砂粒を多く含有 施: 良 色: 外N3/ 暗褐色 内N7/ 灰色	頸部からラップ状に開き口縁部に至る。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考	外面に自然釉が付着している。							
30	壺 土師	覆	口径19.8 残高11.0 口縁部1/8 肩部 1/4	胎: 粗砂粒含有 施: 良 色: 外5YR4/3 に近い赤褐色 内7.5YR4/3 褐色	口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部「撫で」 胴部「磨削り」	口縁部「撫で」 胴部「磨削り」	
備考	壺	覆土	口径11.6 残高 6.1 口縁部~胴部上位1/12	胎: 0.1~0.2 の石英粗砂粒含有 施: 良 色: 外2.5YR6/6 褐色 内5YR6/2 灰褐色	粘土層積み上げ	口縁部の「撫で」	轆轤による「撫で」	
32	壺 灰土	覆土	口径31.6 残高 4.7 口縁部1/6	胎: 粗砂粒含有 施: やや不良 色: 外内N8/ 灰色	口縁部「くの字」状に外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考	壺	覆土	残高 7.6 底径 4.2 底部1/2 胴部下位1/5	胎: 0.1の石英、粗砂粒含有 施: 良 色: 外2.5YR5/6 明赤褐色 内5YR6/6褐色		「磨削り」	磨削工具による丁寧な「撫で」	
備考	壺 灰土	覆土	残高 2.5 底径11.6 底部 1/6	胎: 黒色粗砂粒含有 施: 良 色: 外内N6/ 灰色	付け高台	轆轤による「磨削り」	轆轤による「撫で」	
備考								

第22表 第11号住居址出土遺物一覧表(4)

番号	器種	位置	法	量	器	質	成形・形態	整形技法	
								外	内
35	須恵	覆土	口径 20.2 残高 11.7	胎:粗砂粒含有 焼:良	胎:粗砂粒含有 焼:良	胎:粗砂粒含有 焼:良	胎:粗砂粒含有 焼:良	胎:粗砂粒含有 焼:良	胎:粗砂粒含有 焼:良
			口縁部~胴部 1/8	色:外7.5YR8/3 浅黄褐色 内N5/灰色			胎:粗砂粒含有 焼:良	胎:粗砂粒含有 焼:良	胎:粗砂粒含有 焼:良
備考									

第23表 第11号住居址出土遺物一覧表(5)

口径20.2cmを計り、最大径は胴部にあつて30.0cmを計る。外面には浅黄色の自然釉が一面にうき出ている。

### 13 第13号住居址

#### 遺構(第42・43図)

第13号住居址はA×S2E0-90,91,92グリッドにかけて検出された。住居址西側が調査区域外になったため、住居址全体のプランの把握はできなかった。平面形態は隅丸方形を呈すると思われる。南東壁2.7m、北東壁3.6mで、壁高12~24cm、検出床面積は10.13㎡を測る。主軸はN-42°-Wを指す。覆土は黒褐色の砂質土である。

床は北側がやや高く、地勢に沿った傾斜である。

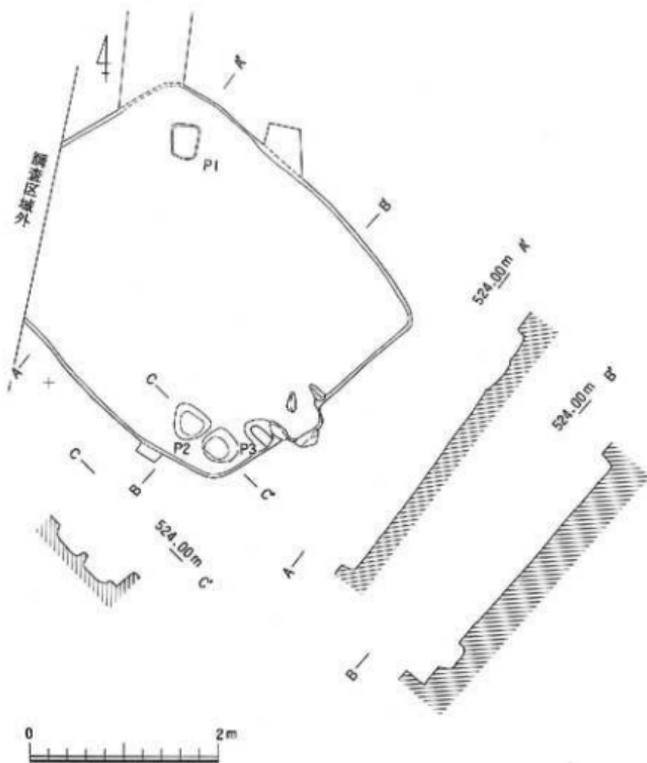
ピットは3個検出された。このうちP2(40cm×36cm深さ9cm)、P3(36cm×34cm深さ9cm)が柱穴である。P1(32cm×28cm深さ3cm)は方形を呈し、用途は不明である。

竈は南東壁中央南寄りに検出された。主軸方位は住居と同じN-42°-Wを指す。全長53cm、最大幅75cmを測る。煙道は壁を11cm外に掘り込み、安山岩を立てて構築している。火床部は床面と同一である。両袖部は安山岩の芯が露出した状態で検出された。支脚は火床部中央に倒置して検出されている。

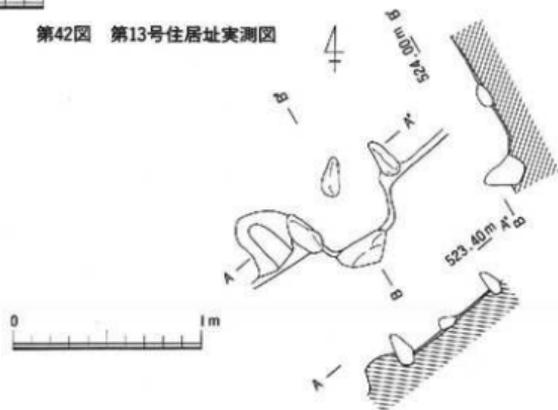
#### 遺物(第44~46図、第24~26表)

須恵器環が多く、計15種出土している。このうち床着遺物は3, 5, 13, 14の環、1の須恵器蓋、21~23の須恵器甕がある。また、12, 15の環は焼成中に酸素に触れたためか、不完全な還元焼成となっている。

竈内からは15の環と20の須恵器甕が出土している。



第42图 第13号住居址实测图



第43图 第13号住居址竈实测图

番号	種類	位置	法	数	質	成形・彫整	彫	
							外	内
1	須恵	床	灰み径 2.8 残高 3.2 口径 13.2 裾部一部欠損	胎: 0.1の白色粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内N7/ 灰白色	付け柄みは扁平な半球形を呈する。	天井部破端による「窪み」 裾部破端による「窪み」	破端による「窪み」 で	
備考 破壊行遺物。								
2	須恵	覆土	灰み径 2.6 残高 3.4 残厚 18.2 灰み部完全 天井部完全 裾部 2/3	胎: 0.1~0.2の粗砂粒含有 焼: やや不良 色: 外内7.5Y8/1 灰白色	付け柄みは扁平な半球形を呈する。	天井部破端による「窪み」 裾部破端による「窪み」	破端による「窪み」 で	
備考 破壊石固転。								
3	須恵	床	口径12.8 残高 3.5 底径 7.0 底面欠存、 口縁部1/2	胎: 白色粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内N7/ 灰白色	体部壁かに内凹しながら口縁部に至る。	破端による「窪み」 で 底面同転転切り	破端による「窪み」 で	
備考 内外面に火罨ある。底部外面に筋取りらしいものある。								
4	須恵	覆土	口径15.0 残高 3.8 底径 6.6 底面欠存、 口縁部1/5	胎: 白色粗砂粒含有 焼: やや不良 色: 外内N6/ 灰白色	体部壁かに内凹しながら口縁部に至る。	体部破端による「窪み」 で 口縁部手持りの後「窪み」 で	体部破端による「窪み」 で 口縁部手持りの「窪み」 で 口縁部手持りの後「窪み」 で	
備考								
5	須恵	床	口径14.0 残高 3.8 底径 6.0 底面~口縁部 1/4	胎: 0.1~0.3の粗砂粒含有 焼: やや不良 色: 外5Y7/ 灰白色 内10Y7/1 灰白色	平底の底部からはぼ直立し、口縁部で急に外反する。	破端による「窪み」 で 底面同転転切りの後「窪み」 で	破端による「窪み」 で	
備考								
6	須恵	覆土	口径 8.8 残高 3.5 底径 4.2 口縁部1/6 底面 1/4	胎: 細砂粒含有 焼: 良 色: 外内N7/ 灰白色	平底の底部からはぼ直立し、口縁部に至る。	破端による「窪み」 で 底面同転転切り	破端による「窪み」 で	
備考 内外面に火罨ある。								
7	土師	覆土	口径14.8 残高 3.8 口縁部~体部 1/7	胎: 石英、茶褐色粗砂粒含有 焼: 不良 色: 外内10YR8/1 灰白色	体部は緩く「くの字」状に内凹しながら直立し、口縁部で緩く外反する。	破端による「窪み」 で	破端による「窪み」 で	
備考								
8	須恵	覆土	口径13.2 残高 3.1 口縁部~体部 1/10	胎: 0.4の粗砂含有 焼: 良 色: 外内N7/ 灰白色	体部に僅かな傾斜を有し、口縁部緩やかに外反する。	破端による「窪み」 で	破端による「窪み」 で	
備考								
9	須恵	覆土	口径14.0 残高 3.6 口縁部3/7	胎: 白色粗砂粒含有 焼: 良 色: 外内N7/ 灰白色	体部壁かに内凹し、口縁部緩く傾かに外反する。	破端による「窪み」 で 口縁部手持りの「窪み」 で	破端による「窪み」 で 口縁部手持りの「窪み」 で	
備考								

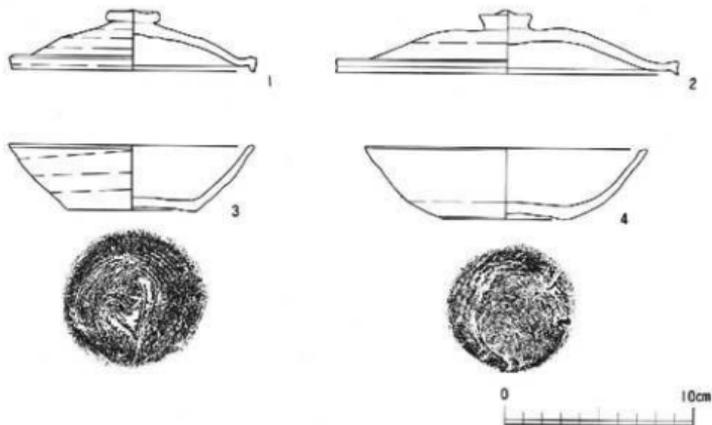
第24表 第13号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	位置	法	量	質	成形・形態	発形技法		
							外	内	
10	坏	覆土	口径14.4 残高 2.7	口縁部1/2	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色		轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考									
11	坏	覆土	残高 1.6 底径 6.6 底部 1/8		胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/1 褐灰色 内5YR5/1 に近い赤褐色		轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」	
備考									
12	坏	覆土	残高 1.2 底径 6.2 底部 1/6		胎：赤褐色砂粒含有 焼：やや不良 色：外5YR8/1 灰白色 内10YR8/3 浅黄褐色	平底	底部回転糸切り	轆轤による「撫で」	
備考	不完全な還元焼成。								
13	坏	覆土	残高 1.6 底径 6.9 底部欠存		胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色		手持ちの「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」	
備考	内外面に火傷ある。								
14	坏	覆土	残高 2.1 底径 7.6 底部欠存		胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外N7/ 灰白色 内N6/ 灰色		体部轆轤による「撫で」体形から底部の移行部「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」	
備考	外面に火傷ある。								
15	坏	覆土	残高 2.1 底径 9.4 底部 1/2		胎：茶褐色粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外10YR8/1 灰白色 内5YR7/3 に近い褐色	粘土層積み上げ 底面と体部の境に接合 痕が僅かに残る。	手持ちの「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」 一部手持ちの「撫で」	
備考	不完全な還元焼成。								
16	坏	覆土	残高 0.7 底径10.4 底部 1/8		胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色		「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」	
備考									
17	坏	覆土	残高 1.5 底径 9.4 底部 1/8		胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内7.5Y7/1 灰白色		「荒削り」 底部糸削り	「撫で」	
備考									
18	坏	覆土	残高 1.6 底径 8.4 底部 1/2		胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内5Y6/1 灰色		「荒撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」	
備考	内外面に火傷ある。								
19	甗	覆土	口径22.8 残高 5.9 口縁部一体 部上位1/8		胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外内5YR7/4 に近い褐色	口縁部「くの字」状に 外反する。	口縁部「撫で」 頸部「荒撫で」 胴部上位「荒削り」	「撫で」	
備考									

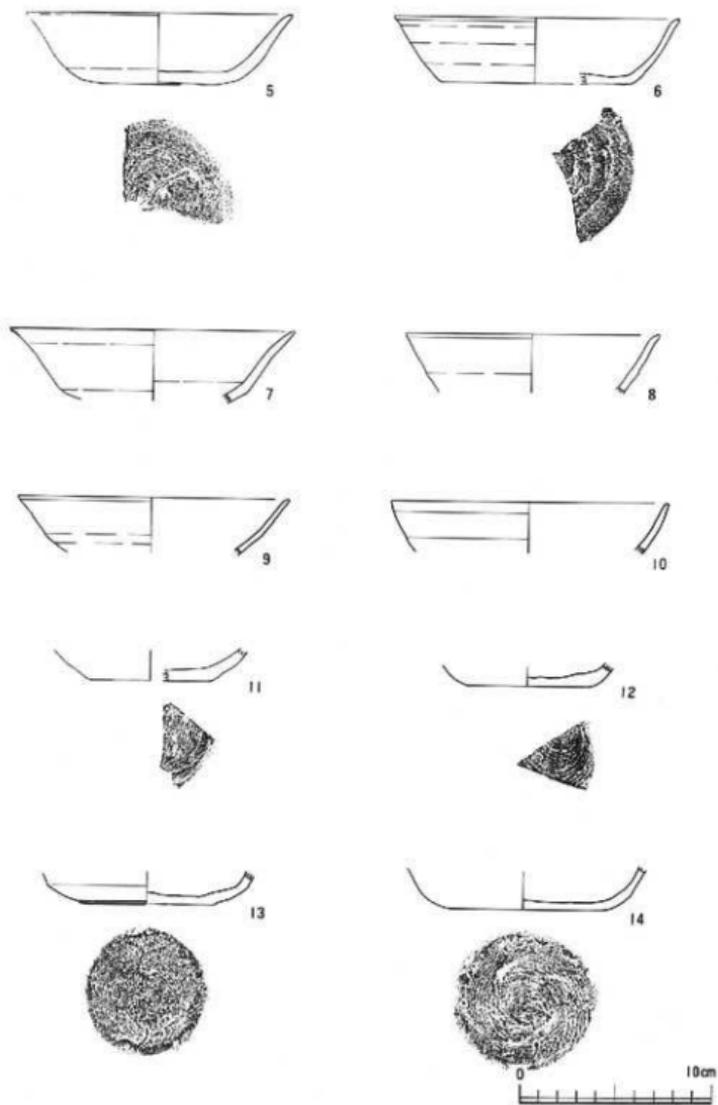
第25表 第13号住居址出土遺物一覧表(2)

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
20	甕 土面	蓮	口径24.6 残高 5.5 口縁部～胴部 1/16	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外2.5YR7/6 橙褐色 内5YR8/4 淡褐色	口縁部同く「コ」の字状に外反する。	口縁部「撫で」 胴部横位の「荒削り」	「撫で」
備考							
21	甕 須恵	床	残高 6.8 底径 8.2 底部～胴部 下位 1/8	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外N7/ 灰白色 内N6/ 灰白色		横位の「荒削り」	轆轤による「撫で」
備考							
22	甕 須恵	床	残高 5.9 底径18.2 底部～胴部 下位 1/6	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR5/2 灰赤色 内2.5YR5/1 赤灰色		「叩き」の後「荒削り」 一部「荒削り」	横位の「荒削り」
備考							
23	甕 須恵	床	残高 5.8 底径18.4 底部～胴部 下位 1/5	胎：赤色粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR4/1 褐灰色 内N7/ 灰白色		「叩き」 底部「荒削り」	「撫で」 横位の「荒削り」
備考							

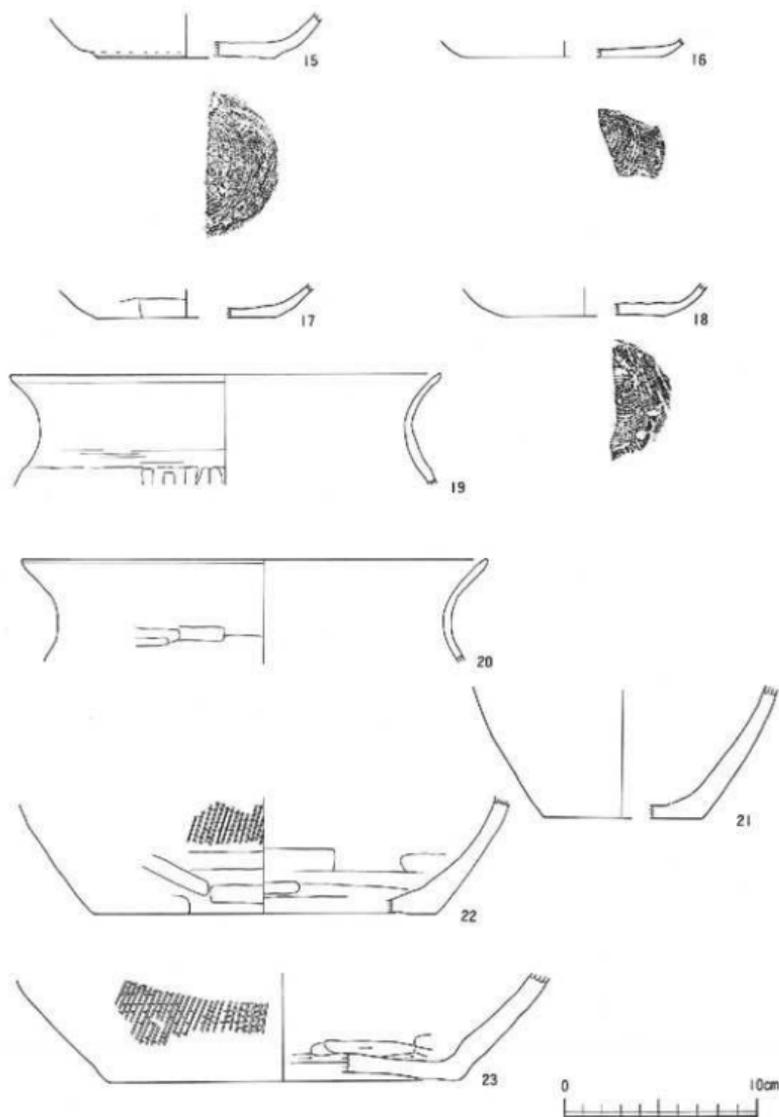
第26表 第13号住居址出土遺物一覧表(3)



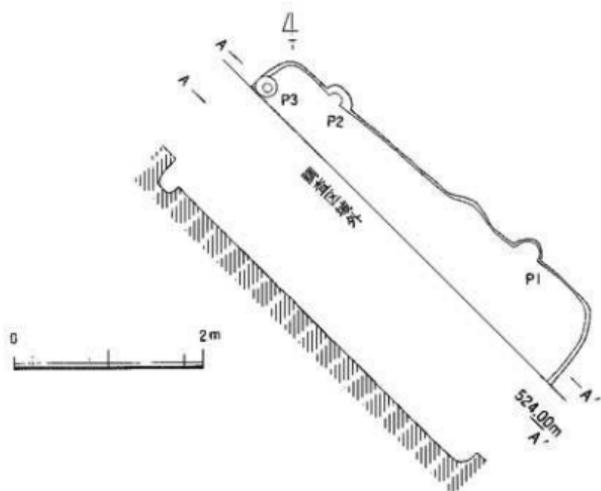
第44図 第13号住居址出土遺物実測図(1)



第45图 第13号住居址出土遺物実測图(2)



第46图 第13号住居址出土遺物実測図(3)



第47図 第14号住居址実測図

#### 14 第14号住居址

##### 遺構 (第47図)

第14号住居址はA区最南端、S 2 E 1-59,62 グリッドにかけて検出された。大部分が調査区域外になっていたため、住居址の北東壁のみの調査となった。平面形態は隅丸方形を呈すると思われる。北東壁の長さは4.2mを測り、壁高は20~22cm、検出床面積は7,209㎡を測る。主軸方位はN-47-Wと思われる。覆土は黒褐色の砂質土である。

ピットは3個検出された。P1、P2は壁を掘り込んでおり、深さは床面と同一である。P3(22cm×22cm深さ13cm)は北西壁際に作られている。

竈は検出されなかった。

##### 遺物

本住居址覆土からは須恵器片、瓦片が出上しているが図示するに至らなかった。

## 15 第15号住居址

### 遺構 (第49図)

第15号住居址はC区N5E3-24,36,37,38,44にかけて検出された。平面形態は隅丸方形を呈し、主軸はN-42°-Wを指す。規模は北東-南西3.1m、北西-南東3.9mで、床面積10,703㎡を測る。壁高25-30cmで、床面はほぼ水平である。

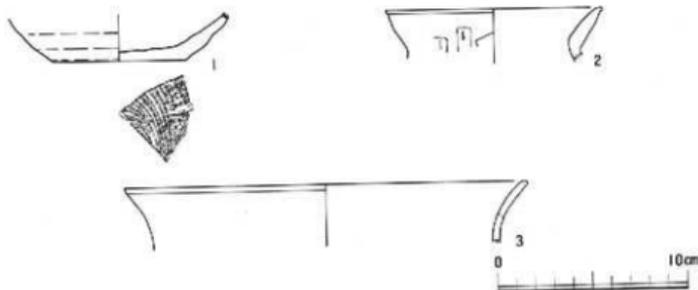
ピット、竈は検出されなかった。

### 遺物 (第48図、第27表)

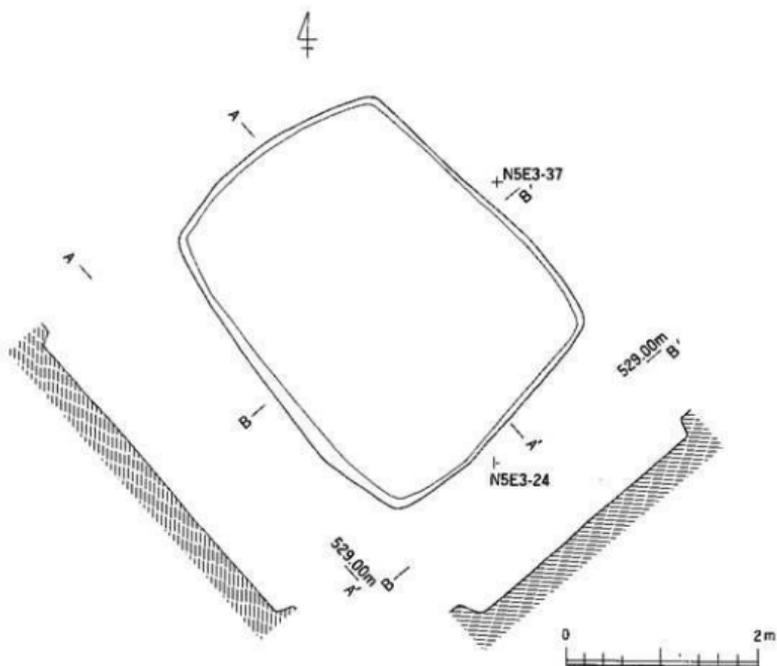
1. 須恵器環、2. 小型の土師器甕、3. 土師器甕が出土している。

番号	器種	位置	法	量	器質	成形・形態	整形		技法
							外	内	
1	環	覆土	残高 2.3 底径 7.0 底径 1/4		胎: 白色粗砂粒含有 施: 良 色: 外内N7/ 灰白色	平底の底部から体部内 側して立上がる。	轆轤による「撫 で」 底部回転表切り	轆轤による「撫 で」	
備考 内外面に火跡ある。									
2	(甕) 土師	覆土	口径11.5 残高 2.6 口径 1/6		胎: 粗砂粒含有 施: 良 色: 外内7.5YR7/3 にぶい橙色	口縁部「くの字」状に 外反する。	口縁部「撫で」 頸部「蔑削り」		「撫で」
備考									
3	甕 土師	覆土	口径21.4 器高 3.3 口径部1/4		胎: 雲母、白色粗砂粒 含有 施: 良 色: 外内5YR6/4 にぶい橙色	粘土帯積み上げ	口縁部刷毛状工具 による「撫で」		口縁部「撫で」
備考									

第27表 第15号住居址出土遺物一覧表



第48図 第15号住居址出土遺物実測図



第49図 第15号住居址実測図

## 16 第16号住居址

遺構 (第50・51図)

本住居址はN5E3-75-77,86,87のグリッドにまたがっており、第17号住居址を大きく切り、第14号土塼をも切って作られていた。一方南東の隅は第15号土塼に切られており、さらに西側は調査区域外にかかっているため全容を確認することはできなかった。しかし、平面形態はほぼ隅丸方形と考えられ、主軸方位はN-28°-Eであり遺構東端南東方向で3.9m(推定)であった。床は貼り床で2~4cmの厚さを測り、ほぼ水平であった。

壁については、氾濫を受けたためか、あるいは何か他の原因による作平を受けているのか北壁が第17号住居址の床面を切って作られている部分で高さ3~5cm、一方南壁では壁が明瞭に確認でき、高さ0.14mを計ることができたが、他の壁はほとんど確認できず、部分的にトレンチと

第15号土壇の間の15cmだけ確認でき、この部分の壁高は5cmであった。

覆土は1層からなり黄褐色の砂混じりの黒色土であった。柱穴は確認できなかった。

竈は遺構の北東隅の北壁に検出された。主軸方位はN-19°-Eであり、ほぼ完存していた。規模は全長0.82m、最大幅は焚口にあり、焚口幅0.39m、煙道は確認できなかった。支脚石は竈の軸線上に直立して検出された。燃焼室から煙道部へは垂直に立ち上がり、両側に石を立てて、その間の基部に平な石がおかれる構造と思われ、左側の石は遺存していたが、基部と右側には石の抜けた穴が明瞭に検出された。煙道への出口の構造は第17号住居址およびA区第9号住居址のものと同じ形態のものと思われる。両軸は粘土で石材を覆う形で構築されていた。他の遺構の竈に比して全長の割りに幅員が狭く、遺構の隅にあって床部へつきだしている構造になっていた。このことは他の竈と著しく異なる点であった。

#### 遺物 (第52～56図、第28～33表)

本遺構の遺物はいへん多く、42点を図示できた。まず大まかな特徴は、第一に竈内からの出土が多かったこと(31点)、第二に遺物に占める坏の割合が多いこと。第三に床面出土の遺物も多いこと。第四に坏については出土数が多いのに対して完形のもの一点もないこと、第五、器種のバラエティーがなく皿と坏と甕と鉄製品だけであったこと。第六、須恵器が極端に少なく図示できたのは坏1点と甕1点だけであったことなどである。破片から復元によってほぼ完形を得られたのは土師器甕1点であった。第27表のとおり、土師器の坏について若干まとめてみる。

表から分るとおり内面黒色処理してあるものが多い。口縁部は外反するものが多く、底面は回転糸切りが多い。また底径と口径の比が小さいものが多い。個別に見ると暗文のあるものがひとつ(33)、仕上げ粘土を用いてあり焼成が特に堅緻なものがひとつ(9)、とがある。1は皿であり、底部は完存し、体部、口縁部が全体の三分の一残存していた。底部は回転糸切りのあと丁寧に撫でてあり高台の取り付けが浅い。接合部の外面は篋状工具で撫でて沈椽状をなしている。

甕は土師器のもの5点(35、36、37、38、39)と須恵器のもの1点(40)であった。35は全体に少し歪んでいる。36は小型球形胴にちかく、頸部の「く」の字状外反がやや強い。37は口唇部で直立して面取りが施されている。39は頸部での外反が少ない。40は須恵器の甕の底部の一部である。41、42は鉄製品である。41は木質のものを鉄で巻いたようになっている。42は鎌と思われる。

### 17 第17号住居址

#### 遺構 (第50・51図)

本住居址はN5E3・86,87グリッドにまたがっており、第16号住居址によって大きく切られている。さらに北壁への延長は調査区域外にかかっており、遺構の北壁の一部と竈のみ確認で

きたにとどまった。

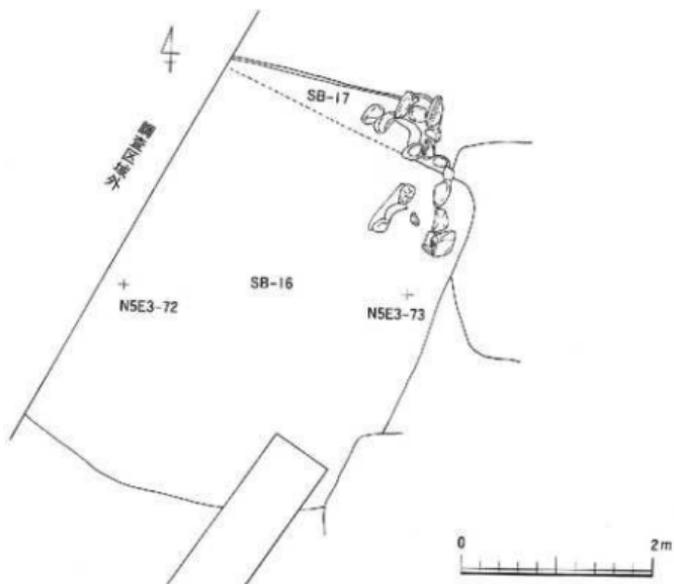
床は貼り床であり、黄褐色粘土を2～3cm貼ってあったが、確認できた範囲はあまりにも狭かであった。竈は焚口部、燃焼部ともに破壊されていたが、燃焼部と思われる部位に2～3cmの厚さで流土が遺存していた。また、壁面の一部を掘り込んで煙出しと思われる石組み構造が遺存していた。竈の主軸方位N-12°-E、焚口幅、最大幅ともに不明。煙出しの大きさは、間口0.14m、奥行さ0.20m（推定）を測る。

	内面黒色処理	黒色処理なし	口縁外反	口縁直立	回転彫り	口縁糸切り	高台付	口径:口径
2	○			○		○		2.3:1
3		○		○				3.1:1
4	○		○			○		2.3:1
5		○	○			○		2.5:1
6		○						
8		○	○					
9		○	○					
10		○		○				
14		○	○					
16	○		○		○			2.7:1
17	○			○		○		2.3:1
18	○			○				2:1
19	○			○	○			2.1:1
21	○		○					2.6:1
22	○			○				
26				○				
27	○		○					
28	○							
29		○	○					
30	○		○					
31			○					
32	○					○		
34	○						○	
合計	14	9	11	10	2	8	1	

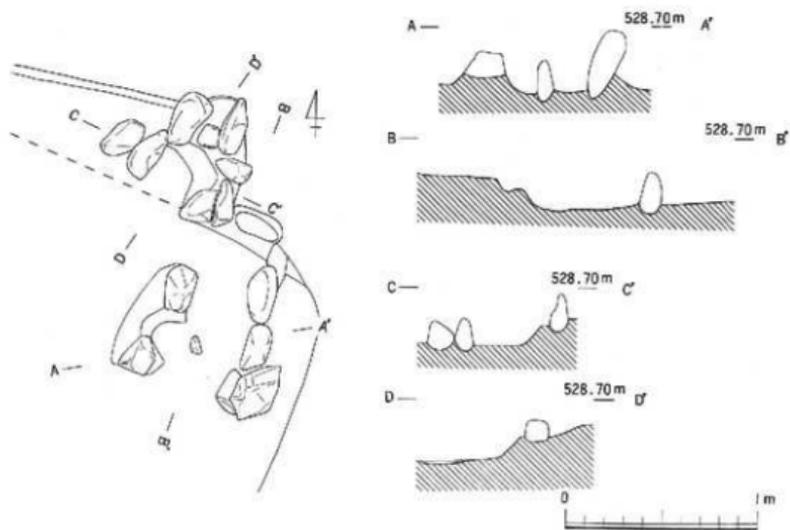
第28表 第16号住居址竈出土坯の度量比率

遺物（第57・58図、第34・35表）

遺物は比較的多く17点を図示できた。土師器坯13点（高台付は12、13）、土師器甕4点である。遺物はすべて甕出土である。坯は内面黒色処理を施してあるものが多く11点である。5は内弯気味に肥厚して、断面丸みを帯びた口縁になっている。8と9は同様な手法による成型のしかたと思われ、肥厚して外弯する口縁となっている。特に8は面とりをして撫でている。12の高台は断面台形を呈し、13の高台はやや内弯気味に付けられている。14、15は小型の甕である。14は頸部の「く」の字状の外反が強く、外面がハケ状工具で調整されている。頸部下部から胴部半部にかけて篋状工具の先端で左上方から右下方へ不規則な間隔で削りによる流れるような文様がみられる。



第50图 第16・17号住居址实测图



第51图 第16・17号住居址剖面实测图

器号	器種類	位置	法 量	器 質	成形・形態	整 形 技 法	
						外	内
1	土 師 甕	口径12.9 器高 2.7 底径 6.8 口縁部~高 台部 1/2	胎:粗砂粒含有 施:良 色:外内5YR6/6	付け高台	轆轤による刷毛状 工具による「撫 で」、高介接合部 「磨撫で、底部回 転糸切り	瓦状工具による放射 状の「撫で」	
備考							
2	土 師 甕	口径14.8 器高 3.9 底径 6.4 口縁部~底 部 1/3	胎:粗砂粒含有 施:良 色:外10YR5/2 灰黄 褐色 内10YR4/1 褐色	平底の底部から体部は 直立して立上がって、 器厚が口縁部に至る。	轆轤による「撫 で」 底部回転糸切り	瓦状工具による放射 状の「撫で」	
備考							
3	土 師 甕	口径16.8 器高 5.1 底径 5.4 口縁部~底 部 1/2	胎:雲母、粗砂粒を多 く含有 施:やや不良 色:外内5YR6/6 褐色	右巻の粘土起巻上げ 平底の底部から体部外 面に強い稜を有し、内 壁しながら口縁部に至 る。	轆轤による「撫 で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫 で」	
備考							
4	土 師 甕	口径13.0 器高 3.7 底径 5.6 口縁部~体 部 1/4	胎:粗砂粒、雲母含有 施:良 色:外7.5YR6/3 にぶい褐色 内2.5Y4/1 黄灰色	体部内湾しながら立上 がり、口縁部で強く外 反する。	轆轤による「撫 で」 底部回転糸切り	瓦状工具による放射 状の「磨き」	
備考							
5	土 師 甕	口径13.6 器高 3.6 底径 5.5 口縁部1/10 体部 3/4 底部充存	胎:雲母、粗砂粒含有 施:良 色:外7.5YR7/4 にぶい褐色 内7.5YR5/2 灰褐色	口縁部僅かに外反す る。	体部精練による 「磨撫で」 口縁部「撫で」 底部回転糸切り	体部「磨磨き」 口縁部「撫で」	
備考							
6	土 師 甕	口径13.0 器高 3.7 口縁部~体 部 1/4 底部5.6	胎:雲母、粗砂粒含有 施:良 色:外7.5YR6/3 にぶい褐色 内黒色	体部内湾しながら立上 がり、口縁部で強く僅 かに外反する。	轆轤による「撫 で」	「磨磨き」	
備考							
7	土 師 甕	口径16.0 器高 3.3 口縁部~体 部 1/6	胎:黒色雲母、粗砂粒 含有 施:良 色:外内2.5YR3/6 明赤褐色	体部は内湾し、口縁部 緩やかに外反する。	版状の「撫で」	「撫で」	
備考							
8	土 師 甕	口径12.5 器高 3.5 口縁部~体 部 1/6	胎:粗砂粒含有 施:良 色:外7.5YR7/6 褐色 内5YR6/8 褐色	体部は強めに内湾しな がら立上がり、口縁部 で強く張り上げ、外反 する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」の後★	
備考							
9	土 師 甕	口径15.6 器高 3.1 口縁部~体 部 1/10	胎:粗砂粒、雲母含有 施:やや不良 色:外7.5YR7/3 にぶい褐色 内5YR6/6 褐色	体部僅かに内湾しな がら立上がり、口縁部 弱く外反する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「磨 き」	
備考							
あるいは盤状の形態かと思われる。							

第29表 第16号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	位置	法	量	容	質	成形・形態	装飾	
								外	内
10	土器	甕	口径15.9 残高 3.7 口縁部-体 部 1/3	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外内5YR6/6 褐色	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外内5YR6/6 褐色	体部僅かに内凹しながら 立ち上がり、口縁部弱 く外反する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」	
備考	環	埋土	口径14.6 残高 4.0 口縁部-体 部 1/8	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外2.5YR6/6 棕色 内10R6/8 赤褐色	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外2.5YR6/6 棕色 内10R6/8 赤褐色	体部内凹しながら立ち 上がり、口縁部緩やかに 外反する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」	
備考	甕	甕	口径17.4 残高 3.2 口縁部-体 部 1/7	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外内7.5YR7/4 に濃い棕色	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外内7.5YR7/4 に濃い棕色	体部は直立に近く、口 縁部で短く強めに外反 する。	装飾工具による横 位の「撫で」	装飾工具による横 位の「撫で」	
備考	黒色研りか?								
13	土器	甕	口径14.0 残高 2.3 口縁部-体 部 1/12	胎:粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外7.5YR6/3 に濃い棕色 内7.5Y7/1 灰白色	胎:粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外7.5YR6/3 に濃い棕色 内7.5Y7/1 灰白色	体部に僅かな稜を有し 直立する。	横位の「撫で」	「撫で」	
備考	内面あるいは黒色処理したものか。								
14	土器	甕	口径15.4 残高 1.9 口縁部1/10	胎:磁母、粗砂粒含有 焼:良 色:外内5YR6/8 棕色	胎:磁母、粗砂粒含有 焼:良 色:外内5YR6/8 棕色	口縁部短く外反する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」	
備考									
15	土器	床	口径14.7 器高 4.0 底径 6.7 口縁部-底 部 2/3	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外10YR7/3 に濃い黄褐色 内黒色	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外10YR7/3 に濃い黄褐色 内黒色	平底の底部から緩やか に内凹しながら立ち上 がる。	轆轤による「撫 で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫 で」の後黒色処理	
備考									
16	土器	甕	口径12.3 器高 4.3 底径 4.6 口縁部-底 部 1/4	胎:磁母、粗砂粒含有 焼:良 色:外10YR7/2 に濃い黄褐色 内黒色	胎:磁母、粗砂粒含有 焼:良 色:外10YR7/2 に濃い黄褐色 内黒色	平底の底部から強く内 凹しながら立ち上がり、 口縁部で緩やかに外反 する。	口縁部-体部轆轤 による「撫で」体 部下部回転「糸切 り」 底部回転糸切り	轆轤による「撫 で」の後黒色処理	
備考									
17	土器	甕	口径14.5 器高 3.7 底径 6.4 口縁部-底 部 1/4	胎:磁母、粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR7/1 内黒色	胎:磁母、粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR7/1 内黒色	平底の底部から僅かに 内凹しながら立ち上 がる。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」の後黒色処理	
備考									
18	土器	甕	口径12.8 器高 4.1 底径 6.5 底部存在 体部 1/4	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外5YR6/8 棕色 内黒色	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外5YR6/8 棕色 内黒色	底部中央凸状に立ち 上がり、体部内凹ながら 立ち上がる。	轆轤による「撫 で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫 で」の後黒色処理	
備考	轆轤右回転。								

第30表 第16号住居址出土遺物一覧表(2)

番号	器種	位置	法	量	器質	成形・形態	整形技法	
							外	内
19	土師 甕	環	口径13.0 器高3.9 底径4.3 口縁部～底部 1/2	胎:赤色雜含有 焼:良 色:外7.5YR8/2 灰白色 内黒色	平底の底部から内附しながら立上がり、口縁部直立する。口縁部に重みある。	轆轤による「擦り」 底部磨切り	底部～体部中位放射状の、口縁部根位の「見磨き」	
備考 口縁部にケール付著。轆轤右回転。								
20	土師 甕	覆土	口径12.9 器高3.7 底径6.0 口縁部～底部 1/4	胎:石英、粗砂粒含有 焼:良 色:外2.5YR6/4 にぶい橙色 内黒色	体部内附しながら口縁部に至る。	轆轤による「撫で」 体部下位「擦り」 底部「磨切り」	轆轤による「撫で」の後黒色研磨	
備考								
21	土師 甕	環	口径13.6 器高4.0 底径6.7 口縁部～底部 1/6	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR7/3 にぶい橙色 内黒色	体部内附しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	体部轆轤による「撫で」 口縁部「撫で」 体部下位「見磨り」 底部不明	体部「見磨き」 口縁部「撫で」	
備考								
22	土師 甕	環	口径14.0 残高3.1 口縁部～体部 1/8	胎:雲母、石英粒含有 焼:良 色:外2.5YR6/6 褐色 内黒色	体部外面に浅い轆轤を有し、緩やかに内附する。	轆轤による「撫で」 口縁部根位の「撫で」	「見磨き」 口縁部根位の「撫で」	
備考								
23	土師 甕	覆土	口径13.7 器高4.1 底径5.3 口縁部～底部 1/8	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR6/4 にぶい橙色 内黒色	平底の底部から緩やかに体部に立上がる。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理	
備考 轆轤右回転。								
24	土師 甕	覆土	口径14.3 残高3.9 口縁部～体部 1/4	胎:雲母、粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外7.5YR7/6 褐色 内黒色	体部内附しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理	
備考								
25	土師 甕	覆土	口径16.2 残高3.6 口縁部～体部 1/8	胎:粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外10YR7/4 にぶい黄褐色 内黒色	体部緩やかに内附しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理	
備考								
26	土師 甕	環	口径13.4 残高3.4 口縁部～体部 1/10	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR4/3 褐色 内黒色	体部緩やかに内附する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理	
備考								
27	土師 甕	環	口径16.8 底径4.2 口縁部～体部 1/3	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外10YR7/3 にぶい黄褐色 内黒色	体部深い「く」状に内附する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考								

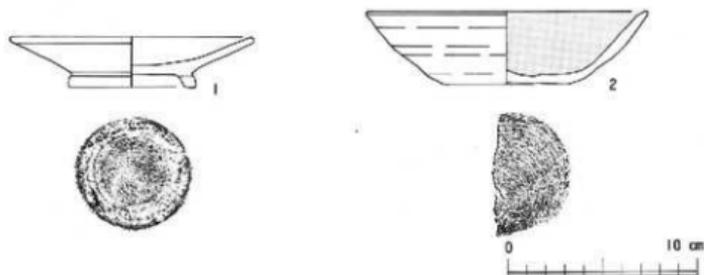
第31表 第16号住居址出土遺物一覧表(3)

番号	器種	位置	法	量	器質	成形・形態	整形技法	
							外	内
28	土師	高	口径15.8 残高3.2 口縁部一体部1/8	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR7/6 褐色 内黒色	体部は器厚が厚く、口縁はほぼ直立する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考								
29	土師	高	口径12.5 残高2.9 口縁部一体部1/8	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外5YR7/6 褐色 内7.5YR4/2 灰褐色	体部はごく僅かに内彎し、口縁部は外反する。 粘土帯巻き上げか。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理	
備考								
30	(坏)土師	高	口径14.0 残高2.1 口縁部1/12	胎:粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外10YR7/3 濃い黄褐色 内黒色	口縁部外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考								
31	土師	高	口径14.4 残高2.5 口縁部1/12	胎:細雲母含有 焼:良 色:外内N7/ 灰白色	口縁部短く外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考								
32	土師	高	残高2.8 口径7.6- 底部一体部1/4	胎:黒色細雲母含有 焼:良 色:外2.5YR6/8 褐色 内黒色	底部内面中央凸状を示す。	手持ちの「撫で」 底部回転糸切り	丁寧な「磨き」、 黒色処理	
備考 轆轤右回転。								
33	(坏)土師	覆土	残高1.8 口径5.4 底部欠存	胎:細雲母、粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR6/6 褐色 内黒色		「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理 底部中央から放射状に6本の「指磨き」	
備考 轆轤右回転。								
34	土師	高	残高1.8 底径7.7 底部1/3	胎:白色粗砂粒含有 焼:良 色:外5YR6/6 褐色 内黒色	付け高台	高口部轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	黒色処理	
備考 轆轤右回転。								
35	土師	高	口径22.9 器高30.3 底径3.3 口縁部欠存 胴部7/10	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR7/3 褐色 内2.5YR7/4 淡褐色	粘土帯積み上げ 胴部上位に最大径を有し、口縁部は緩く「くの字」状に外反する。	口縁部無位の「撫で」、胴部上位横位の「刷毛目」、胴部下位「磨削り」	口縁部横位の「撫で」、胴部斜位の「刷毛目」	
備考								
36	土師	高	口径15.4 残高12.7 口縁部1/10 胴部2/3	胎:黒雲母、石英、粗砂粒含有 焼:やや不良 色:外内2.5YR4/2 灰褐色	粘土帯積み上げ 胴部外面に被を有し、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部「撫で」、胴部「磨削り」の後、轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」	
備考 轆轤右回転。								
37	土師	高	口径20.4 器高10.4 口縁部-胴部上位1/8	胎:雲母、粗砂粒含有 焼:良 色:外内7.5YR6/4 褐色 内淡褐色	粘土帯積み上げ 口縁部緩く外反した後、口唇部で直立する。	轆轤による「磨削り」の後轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後、部分的に跪状工具による「撫で」 口縁部「撫で」	
備考								

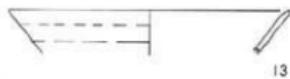
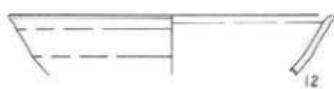
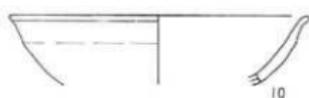
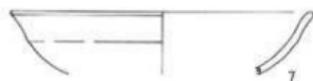
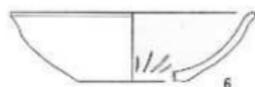
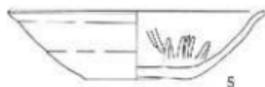
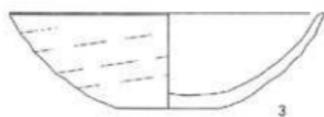
第32表 第16号住居址出土遺物一覧表(4)

番号	器種 種類	位置	法 量	器 質	成 形・形 態	整 形 技 法	
						外	内
38	甕 土 師	覆土	口径13.8 残高 5.3 口縁部~胴部上位1/8	胎：黒雲母、金雲母、粗砂粒含有 施：良 色：外内5YR6/4にぶい橙色	口縁部緩い「コの字」状に外反する。	口唇部「撫で」 口縁部「篋撫で」 頸部筋状工具による押圧	「胎で」
備考							
39	(甕) 土 師	甕	口径22.2 残高 3.7 口縁部1/5	胎：粗砂粒含有 施：良 色：外2.5YR4/2 灰赤色 内2.5YR5/2 灰赤色	口縁部の器厚は厚く、緩く外反する。	口唇部「撫で」 口縁部横位の「篋削り」の後上位は「撫で」	口唇部「撫で」 口縁部横位の「篋撫で」
備考							
40	甕 須 恵	甕	残高 7.4 底径12.5 底部~胴部下位 1/8	胎：白色粗砂粒含有 施：良 色：外N4/ 灰色 内N6/ 灰色	粘土帯積み上げ 平底の底部から胴部成立する。	「叩き」の後横位の「篋撫で」	「叩き」の後横位の「篋撫で」
備考							
41	?	床	最大長14.5 最大幅 0.9 最大厚 0.5 重量 34.0g		中空の内面に木製品が挿入されている。		
備考							
42	(鉢) 鉄製品	床	最大長 6.4 最大幅 3.7 最大厚 0.6 重量 31.0g				
備考							

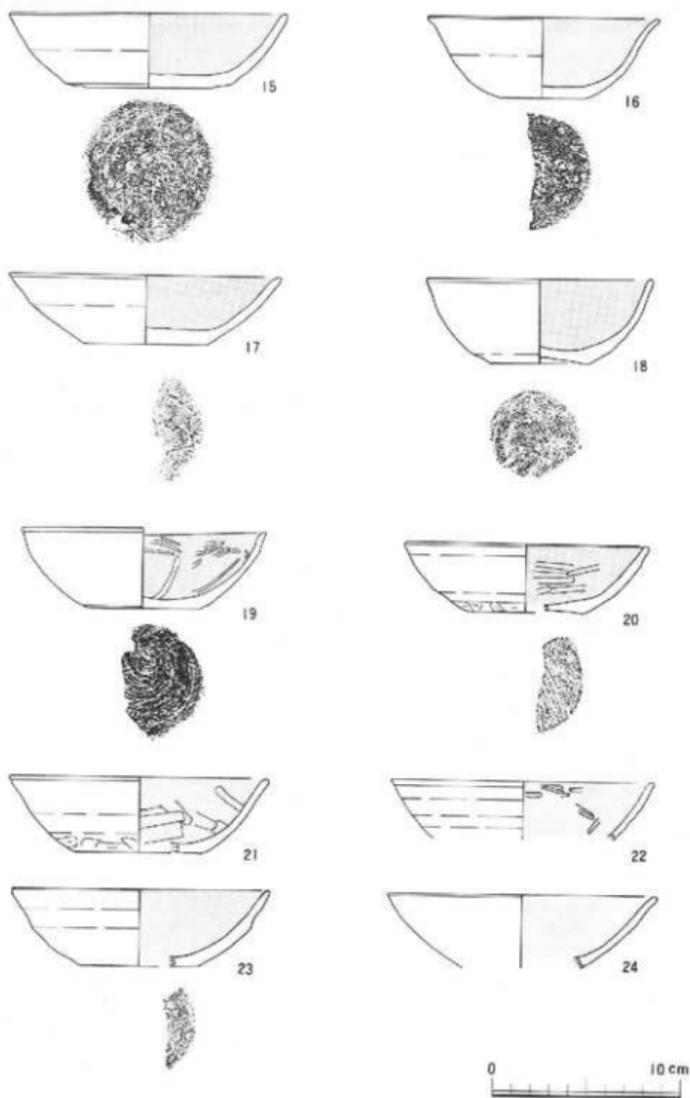
第33表 第16号住居址出土遺物一覧表(5)



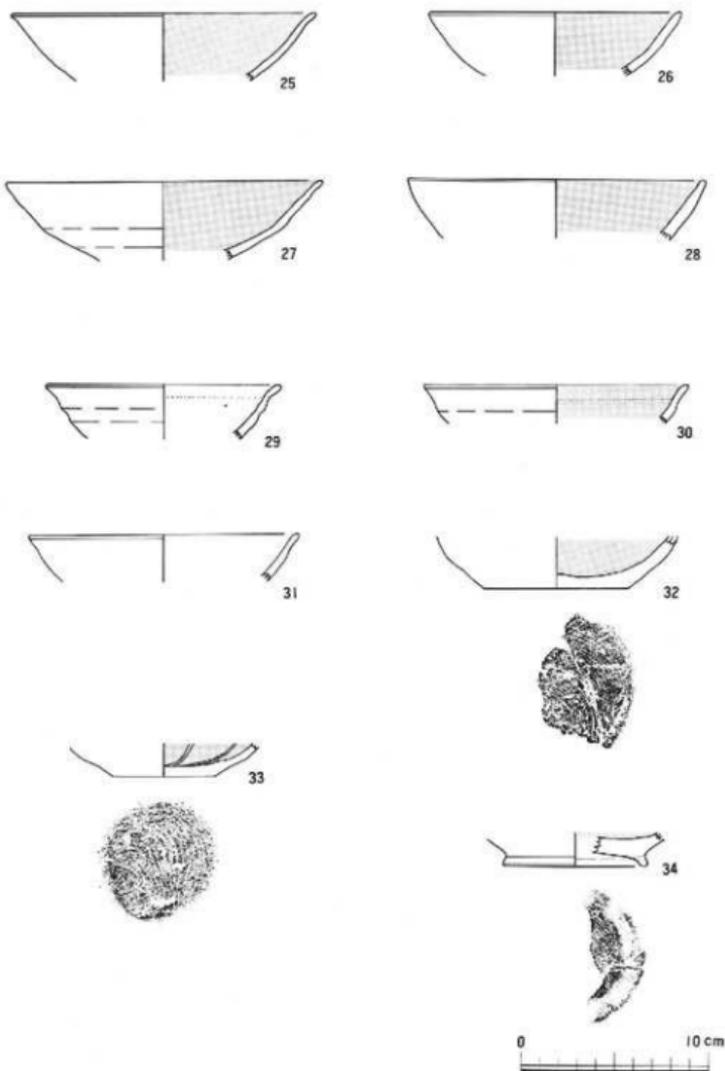
第52図 第16号住居址出土遺物実測図(1)



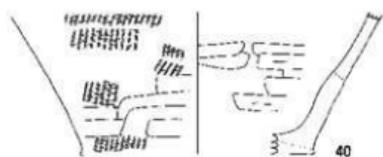
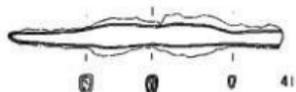
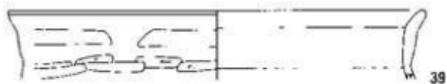
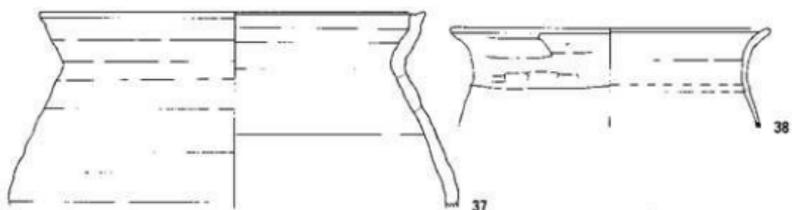
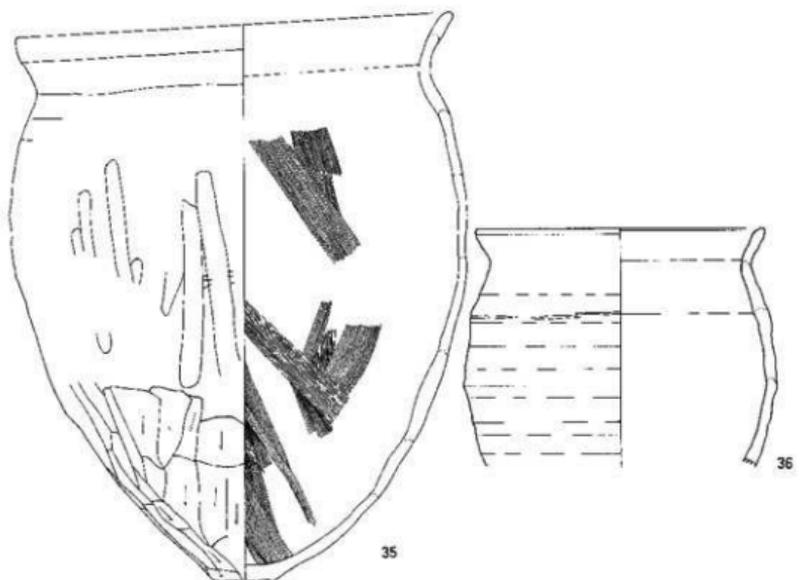
第53图 第16号住居址出土遗物实测图(2)



第54图 第16号住居址出土遺物実測図(3)



第55图 第16号住居址出土遺物実測図(4)



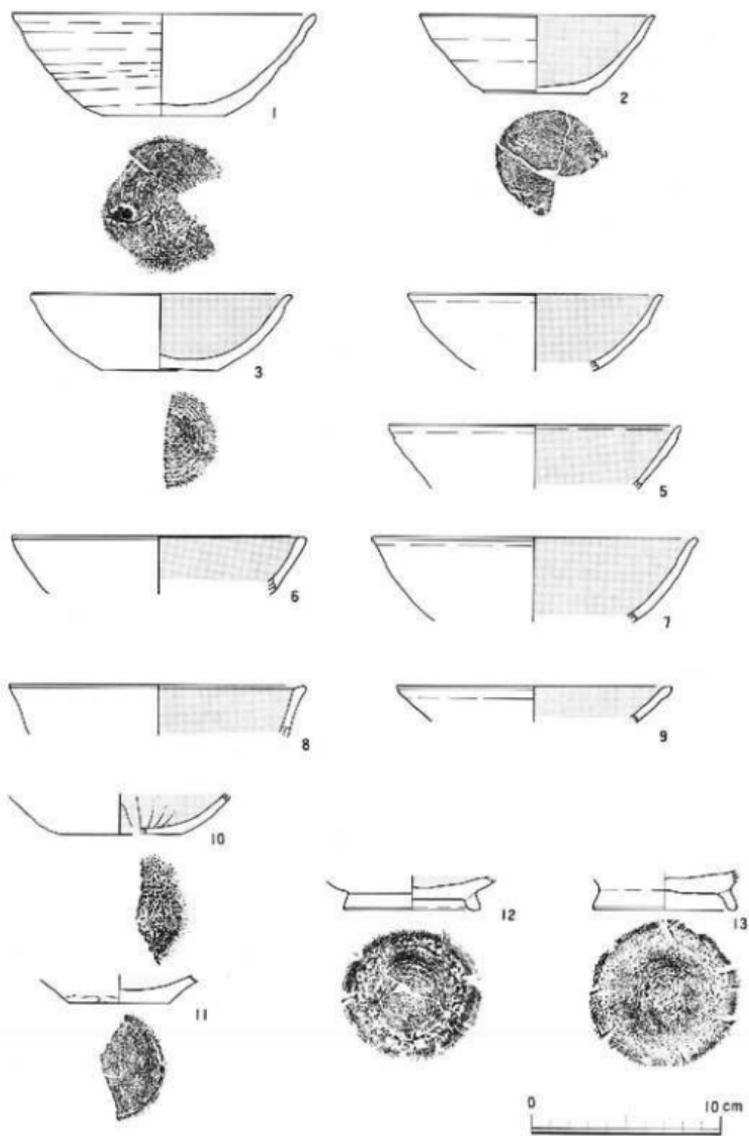
第56图 第16号住居址出土遺物実測図(5)

番号	器種	位置	法	量	構成	質	成形・形態	装飾	
								外	内
1	土師 甕	甕	口径16.2 器高5.1 底径6.5 口縁部-底部1/2		胎: 粗砂粒含有 施: 良 色: 外10R6/6 赤褐色 内褐色	底部から左回りに粘土紐を上げ、外面に絞を有し、体部内押しながら立上がり、口縁部で僅かに外反する。	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」、底部回転糸切り	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」	
備考	縦線左回転。								
2	土師 甕	甕	口径12.5 器高4.2 底径5.3 口縁部-底部1/2		胎: 粗砂粒含有 施: 良 色: 外7.5YR8/4 浅黄褐色 内黒色	平底の底部から体部内押しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」、底部回転糸切り	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」、黒色処理	
備考	縦線左回転。								
3	土師 甕	甕	口径13.8 器高4.1 底径6.1 底部1/2 体部1/8		胎: 粗、粗砂粒含有 施: 良 色: 外7.5YR7/6 褐色 内黒色	平底の底部から体部内押しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」、底部回転糸切り	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」	
備考	縦線右回転。								
4	土師 甕	甕	口径13.5 器高4.0 口縁部-体部1/5		胎: 粗砂粒、雲母含有 施: 良 色: 外7.5YR6/4 赤い褐色 内黒色	体部内押しながら立上がり、口縁部で深く外反する。	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」、黒色処理	
備考									
5	土師 甕	甕	口径15.5 器高3.4 口縁部-体部1/6		胎: 雲母、粗砂粒含有 施: 良 色: 外10YR2/1 黒色 内黒色	体部僅かに内押しながら立上がり、口縁部で短く僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」	「磨き」 黒色処理	
備考	体部外面摩耗が激しい。								
6	土師 甕	甕	口径15.5 残高3.1 口縁部1/8		胎: 粗砂粒含有 施: 良 色: 外10YR8/2 浅黄褐色 内黒色	縦やかに内押しする。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「磨き」	「撫で」、 黒色処理	
備考									
7	土師 甕	甕	口径17.3 残高4.5 口縁部-体部1/8		胎: 雲母、粗砂粒含有 施: 良 色: 外10YR7/3 赤い黄褐色、口縁部黒色 内黒色	体部は内押しながら立上がり、口縁部で深く外反する。	体部轆轤による「磨き」 「磨き」 口縁部横位の「撫で」	「磨き」 黒色処理	
備考									
8	土師 甕	甕	口径15.8 残高2.8 口縁部1/10		胎: 粗砂粒含有 施: 良 色: 外7.5YR7/6 褐色 口縁部黒色 内黒色	口縁部直立する。	「撫で」	「磨き」 黒色処理	
備考									
9	土師 甕	甕	口径11.6 残高1.9 口縁部1/8		胎: 0.1-0.2の石英 雲母含有 施: 良 色: 外7.5YR4/2 赤褐色 内黒色		轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」、黒色処理	
備考	(坪)								

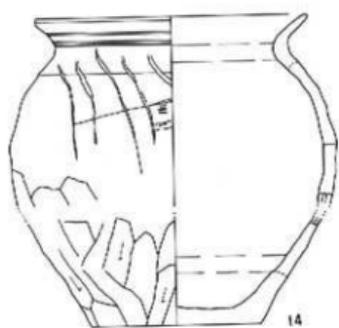
第34表 第17号住居址出土遺物一覽表(1)

番号	器種	位置	法	量	器質	成形・形態	整形技法	
							外	内
10	土師	環	造	残高 2.2 底径 6.6 底部～胴部 1/3	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/6 棕色 内黒色	体部内凹しながら立上がり、口縁部緩やかに外反する。	輪軸による「撫で」 底部回転糸切り	放射状の「磨削き」 黒色処理
備考 輪軸右回転。								
11	土師	環	造	残高 1.5 底径 5.3 底部 1/2	胎：粗砂粒、石英含有 焼：良 色：外7.5YR4/2 灰褐色 内黒色		体部下位「磨削り」 底部回転糸切り	黒色処理
備考								
12	土師	環	造	残高 1.8 底径 7.3 底部完存	胎：細粒を黒雲母、石英含有 焼：良 色：外5YR7/4 に近い 褐色 内黒色	付け高台	高台部横位の「撫で」 底部回転糸切り	放射状の「磨削き」 黒色処理
備考 内面黒色処理が相当量剥落している。								
13	土師	環	造	残高 2.1 底径 7.6 底部完存	胎：粗砂粒、雲母粒、石英粒多く含有 焼：不良 色：外内5YR7/4 に近い 褐色 内中央黒色	付け高台	高台部横位の「撫で」 底部回転糸切り	放射状の「磨削き」
備考								
14	土師	環	造	口径14.5 器高(16.4) 底径 9.0 口縁部～胴部 1/4 底部完存	胎：茶色粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/4 に近い 褐色 内7.5YR8/3 淡黄褐色	粘土帯積み上げ 胴部中位に最大径を有し、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」 胴部「刷毛口」 胴部中位～下位横位の「磨削り」	口縁部横位の「撫で」 胴部「磨削り」 胴部「撫で」
備考								
15	土師	環	造	口径12.4 器高(14.6) 底径 7.1 口縁部～胴部 中位1/2 胴部中位～底部 1/2	胎：細雲母、粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内5YR6/4 に近い 褐色	粘土帯積み上げ 胴部中位に最大径を有し、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」 胴部「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫で」 胴部上位に僅かに「刷毛口」 胴部「撫で」
備考 輪軸右回転。底部を内面から粘土で補強している。								
16	土師	環	造	口径17.0 残高 4.6 口縁部～胴部 1/10	胎：細雲母、石英粒含有 焼：良 色：外2.5YR7/4 淡黄褐色 内2.5YR6/4 に近い褐色	粘土帯積み上げ 胴部肥厚し、「コの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」 胴部～胴部「磨削り」	横位の「撫で」 胴部「撫で」
備考								
17	土師	環	造	口径23.2 残高16.0 口縁部～胴部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR8/3 淡褐色 内7.5YR7/4 に近い褐色	粘土帯積み上げ 胴部の張り弱く、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部輪軸による「磨削り」	口縁部横位の「撫で」 胴部輪軸による「磨削り」
備考								

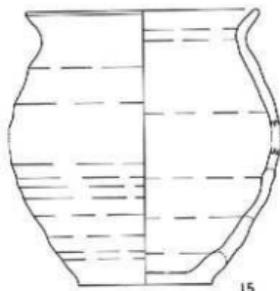
第35表 第17号住居址出土遺物一覧表(2)



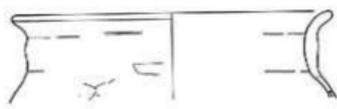
第57图 第17号住居址出土遗物实测图(1)



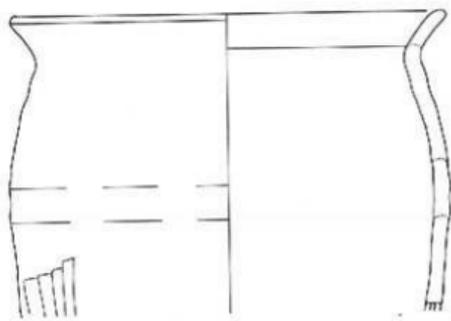
14



15



16



17



第58图 第17号住居址出土遺物実測図(2)

## 第2節 掘立柱建物址

### 1 第1号掘立柱建物址(第59図)

第1号掘立柱建物址は、A区中央部やや北側寄りに位置し、N 0 E 1-47, 48, 56, 57 グリッドにおいて検出された。柱穴はあわせて8個が検出された。各ピットの掘り方のプランは次のとおりである。P-27は長径が66cm、短径が62cmのほぼ円形で、深さは約48cmである。P-28は長径が62cm、短径が60cmのほぼ円形で、深さは約32cmである。P-29は長径が60cm、短径が42cmの楕円形で、深さは約29cmである。P-30は長径が70cm、短径が54cmの不整形円で、深さは約28cmである。

P-31は長径が56cm、短径が52cmのほぼ円形で、深さは約26cmである。P-32は長径が48cm、短径が46cmのほぼ円形で、深さは約46cmである。P-33は長径が60cm、短径が58cmのほぼ円形で、深さは約40cmである。P-81は長径が58cm、短径が52cmのほぼ円形で深さは約45cmである。

各柱穴の心心距離は、180cmから218cmを測った。東西列の心心距離の平均値は187.5cm、南北列の心心距離の平均値は204cmで、南北列の柱間がやや広くとられ、建物プランは矩形を呈している。本建物址の大きさは東西約375cm、南北約410cmで床面積は15.38㎡であり、2間四方の圓柱式の掘立柱建物址である。

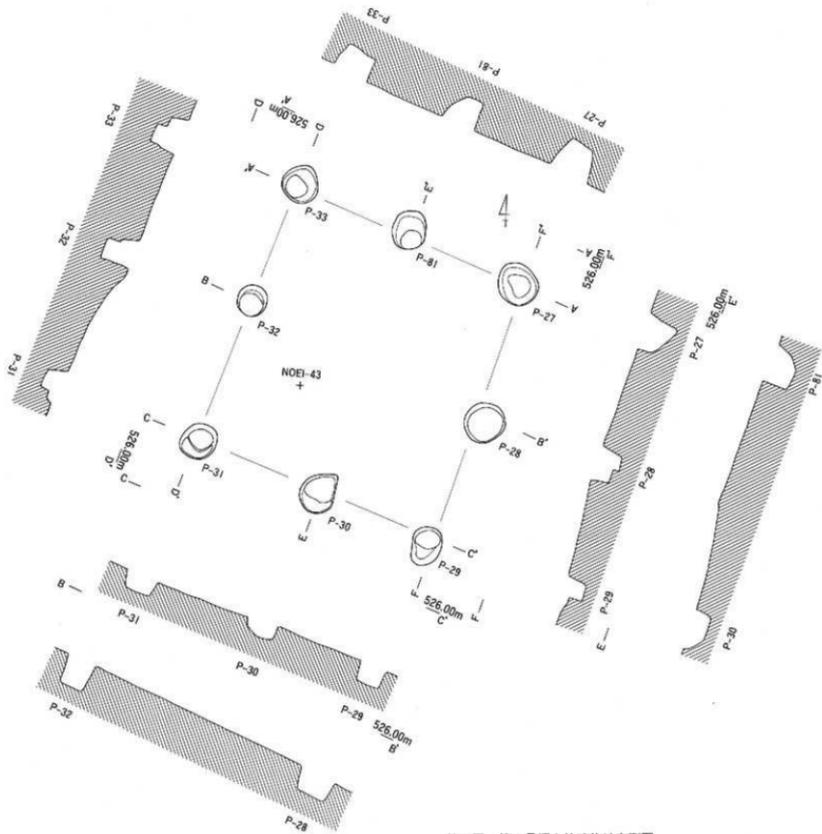
本建物址の南北軸方位はN-16°-Eを指し、建物全体がやや東に振れて建てられている。各ピットは砂礫を含んだ明褐色土層を掘り込んでおり、その埋土は黒色土層であった。本建物址からの遺物の出土は皆無であった。

### 2 第2号掘立柱建物址(第60図)

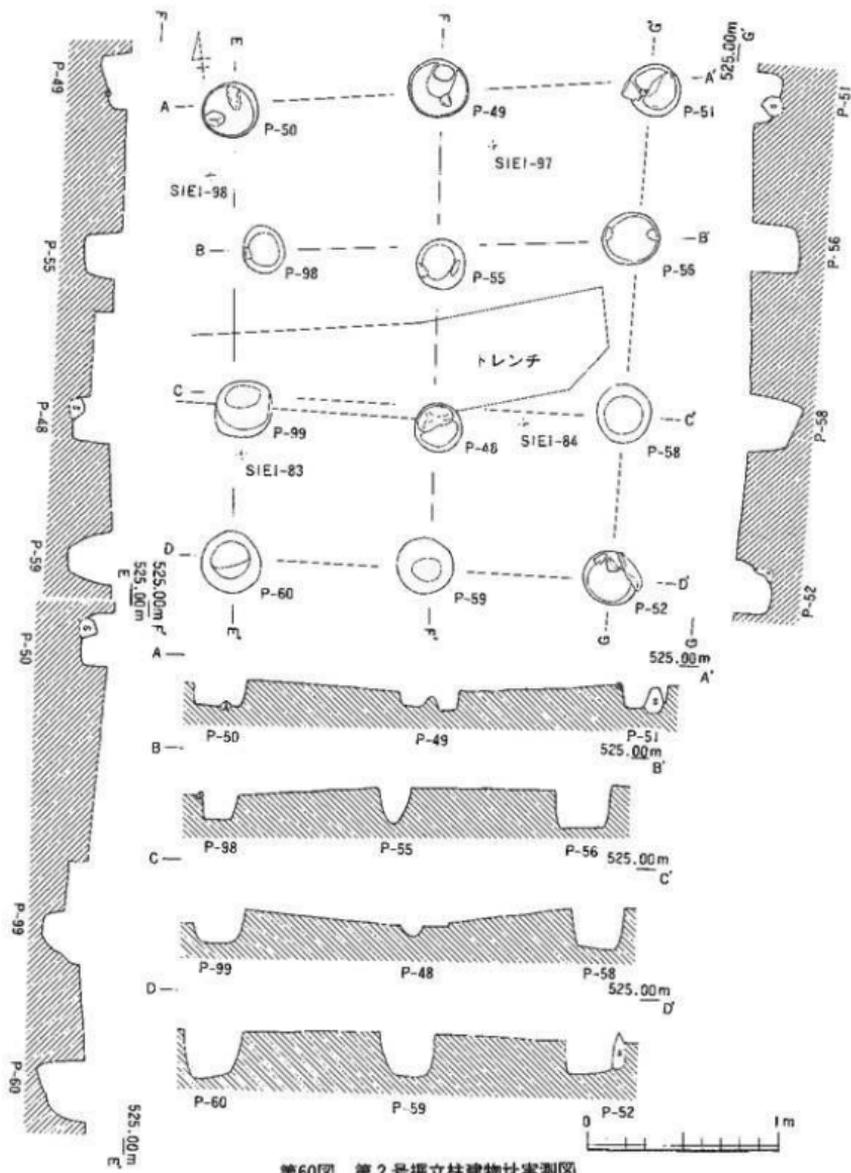
第2号掘立柱建物址は、A地区のほぼ中央部に位置し、S 1 E 1-86, 87, 88, 96, 97, 98 の各グリッドにわたって検出された。柱穴はあわせて12個が出土した。このうちP-48、P-99は幅約1m、深さ20cmの試掘トレンチにより北側部分が一部削り取られている。各ピットの掘り方のプランは次のとおりである。

P-48は径が52cmの円形で、深さは約41cmである。柱穴底部の北側半分に長さ38cmの河原石がはいっていた。P-49は長径が64cm、短径が62cmのほぼ円形で、深さは約17cmである。P-50は径が58cmの円形で、深さは約28cmである。柱穴底部に長さ23cmと25cmの河原石が2個はいっていた。P-51は長径が58cm、短径が56cmのほぼ円形で、深さは約24cmである。柱穴底部に長さ42cmの扁平な河原石がはいっていた。

P-52は長径が58cm、短径が57cmのほぼ円形で、深さは約38cmである。柱穴側壁の東側に長さ45cmの河原石がはいっていた。P-55は長径が54cm、短径が50cmのほぼ円形で、深さは約40cmで



第59图 第1号掘立柱建物址实测图



第60図 第2号掘立柱建物址実測図

ある。P-56は長径が60cm、短径が56cmのほぼ円形で、深さは約51cmである。P-58は長径が62cm、短径が58cmのほぼ円形で、深さは約56cmと深い。

P-59は径が60cmの円形で、深さは約46cmである。P-60は長径が68cm、短径が62cmのほぼ円形で、深さは約52cmである。ピットの北側半分が傾斜して深く掘り込まれていた。P-98は長径が52cm、短径が44cmの楕円形で、深さは約26cmである。P-99は長径が60cm、短径が59cmのほぼ円形で、深さは約40cmである。

各柱穴の心心距離は、150cmから227cmを測った。東西列の心心距離の平均値は206.4cm、南北列の心心距離の平均値は170.7cmで、東西列の柱間が広くとられている。本建物址の大きさは東西404cm～450cm、南北484cm～526cmで、歪んだ長方形のプランを呈しており、床面積は約21.6㎡である。

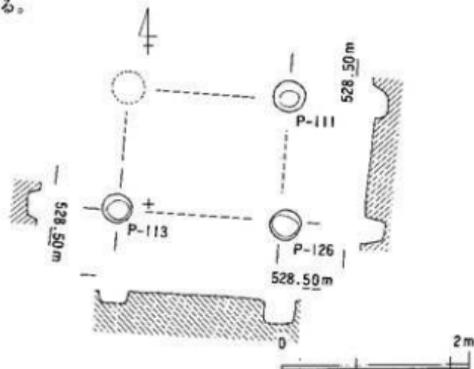
この掘立柱建物址は、2間×3間の総柱式の建物址で、南北軸方位はN-9°-Eを指している。各ピットは河原石と砂礫が厚く堆積したにふい褐色の上層に掘り込まれている。ピット内の河原石は、根固め石として、柱を支えるために使用されたと考えられる。各ピットの埋土は黒色土層であった。

本建物址のP-98の掘り方の埋土中からは平安期とみられる平行叩き目痕をもつ須恵器甕と須恵器杯の口縁部の破片が出土している。いずれも小破片であり、図示するまでには至らなかった。この掘立柱建物址の所産期は、出土遺物から平安時代か、それ以降と推定される。

### 3 第3号 掘立柱建物址

#### 遺構 (第61図)

本掘立柱建物址はN5E3-73,67,68にかけて検出された。確認できた柱穴は3ヵ所だけだったが、第61図のように3つの柱穴が直交していた。他の柱穴は確認できなかった。柱穴の規模は30×30×13 (cm)、34×32×14 (cm)であった。その間隔は東西1.72m、南北1.30mとやや狭い。他の柱穴は確認できなかったが、P-107も本建物址を構成する柱穴のひとつとも考えられる。



遺物

本建物址からの出土遺物は  
なかった。

第61図 第3号掘立柱建物址実測図

### 第3節 土 壙

#### 1 A区の土壙(第62図)

##### (1) 第2号土壙

第2号土壙はA区N1E1-5,6,15,16グリッドにかけて検出された。規模は1.03m×1.12m深さ37cmを測り、平面形態はほぼ円形を呈する。土層堆積は、I層が茶褐色砂質土、II層が暗茶褐色弱粘質土、III層が暗茶褐色土であった。

出土遺物は無かった。

##### (2) 第4号土壙

第4号土壙はA区N1E1-14,15グリッドにかけて検出された。規模は1.56m×1.13m深さ29cmを測り、平面形態は長楕円形を呈し、断面は船底状を呈する。土層堆積は石、礫を多量に含む茶褐色砂質土の一層であった。

出土遺物は無かった。

##### (3) 第6号土壙

第6号土壙はA区S2E1-99,100グリッドにかけて検出された。規模は1.25m×1.01m深さ29cmを測り、平面形態は長楕円形を呈する。土層堆積は黒褐色の砂質土の一層であった。

出土遺物は無かった。

##### (4) 第7号土壙

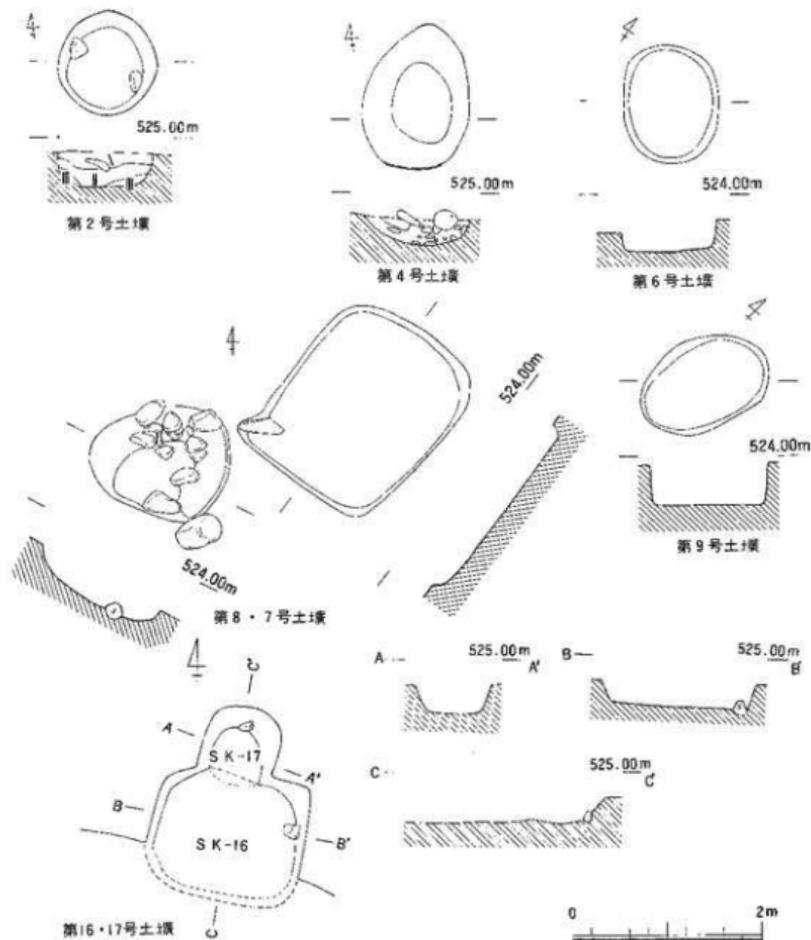
第7号土壙はA区S2E1-81,82,99,100グリッドにかけて検出された。規模は2.10m×1.70m深さ14cmを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。土層堆積は黒褐色の砂質土の一層であった。

出土遺物は土師器片2点、須恵器坏片1点を数えるが、図示するに至らなかった。

##### (5) 第8号土壙

第8号土壙はA区S2E1-81グリッドにおいて、第7号土壙西隣に検出された。規模は1.33m×1.23m深さ27cmを測り、平面形態は歪んだ楕円形を呈する。土層堆積は黒褐色の砂質土の一層であった。

出土遺物は土師器の稜片と思われる1点のみであった。



第62図 A区土坑実測図

(6) 第9号土坑

第9号土坑はA区S2E1-94,95 グリッドにかけて検出された。規模は1.42m×0.96m深さ42cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。上層堆積は塵の混じった黒褐色砂質土の1層であった。出土遺物は土師器の破片と思われる1点のみであった。

(7) 第16、17号土壌

第16、17号土壌はA区N0E1-18,19 グリッド、第8号住居址産を切る位置に検出された。両土壌の前後関係は判明しなかったが、第16号土壌は1.65m×(1.4m) 深さ27cmの長方形を、第17号土壌は0.80m四方、深さ32cmの正方形を、それぞれ呈すると思われる。土層堆積は第8号住居址覆土1層と同じ、暗茶褐色土の単層であった。

出土遺物は無かった。

2 C区の土壌(第63、64図)

(1) 第10号土壌

第10号土壌はC区N5E3-7,14グリッドにかけて検出された。規模は0.65m×0.59m、深さ7cmを測り、平面形態はほぼ円形を呈する。土層堆積は一層よりなり暗茶褐色砂質土であった。

出土遺物はなかった。

(2) 第11号土壌

第11号土壌はC区N6E3-6グリッドにまたがって検出された。規模は0.63m×0.61m、深さ8cmを測り、平面形態はほぼ円形を呈する。内部は4部分に分かれている。土層堆積は一層よりなり暗茶褐色砂質土であった。

出土遺物はなかった。

(3) 第12号土壌

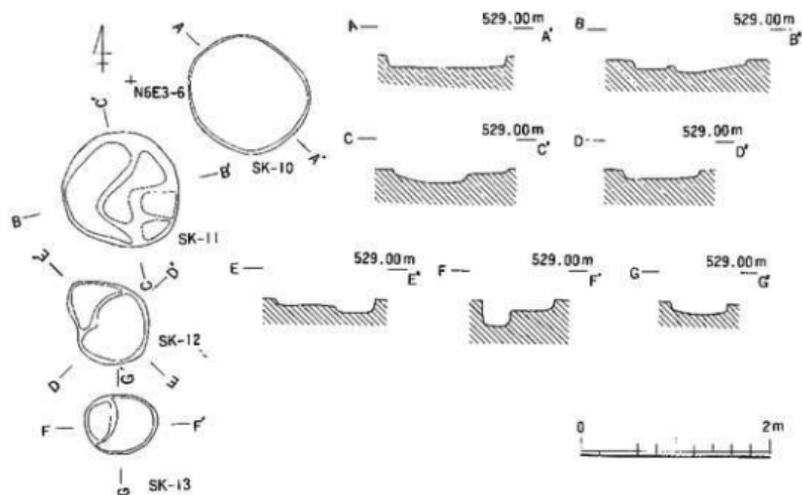
第12号土壌はC区N6E3-6,7グリッドにかけて検出された。規模は0.42m×0.52m、内部が2段になっており浅い部分が深さ5cmで深い部分が8cmを測る。ほぼ円形を呈する。それぞれの部分の底は平坦であった。土層堆積は一層で、暗褐色砂質土であった。

出土遺物は囊の胴部破片1点だけであり、図示するには至らなかった。

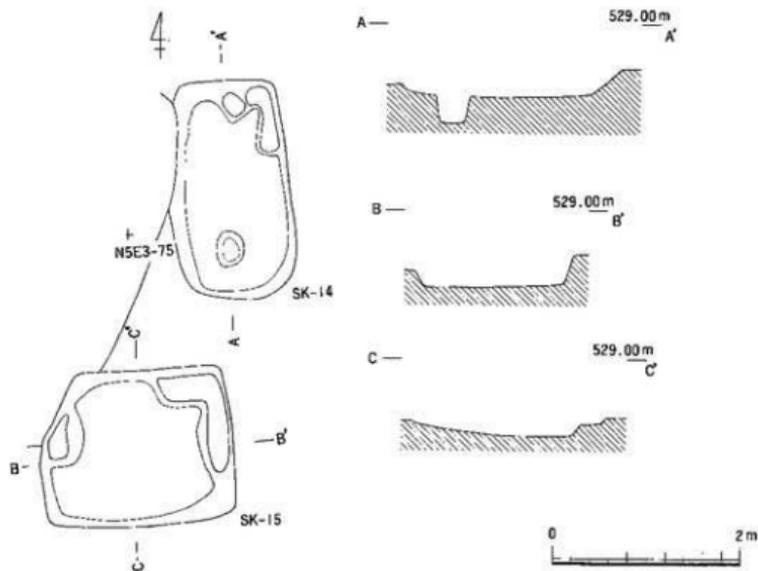
(4) 第13号土壌

第13号土壌はN5E3-95,96グリッドにかけて検出された。規模は0.38m×0.32m、内部は2段になっており深さは浅い部分で6cm、深い部分で14cmを測る。土層堆積は二層よりなり、I層は赤褐色砂質土、II層(深い部分)は黒色土であった。

出土遺物はなかった。



第63图 C区土壤实测图(1)



第64图 C区土壤实测图(2)

## (5) 第14号土壇

本土壇はN5E3-76, 87にまたがり、西壁を第16号住居址によって切られている。主軸方位はN-3°-Wであり、主軸上で1.02m、これと直交する方向で0.66mを測る。南壁で壁高6.9cm、北壁で壁高27cmを測る。南から北へ向けて深くなっており、西洋式バスのような形を呈する。中央北より粘土塊と若干の焼土があったが、竈址とは思えなかった。東北隅にテラス状の段があった。南よりに床面に37×29×23cmを測るピットがあるが、このピットの用途、性格は不明であった。

遺物は土師器片6点、須恵器片2点が出土したが、図示するには至らなかった。

## (6) 第15号土壇

## 遺構

本土壇はN5E3-74, 75, 66, 67にまたがり、第16号住居址の一部を切っている。主軸方位はN-1°-Eであり主軸上で0.83m、これと直交する方向で最大幅1.02mである。形状はほぼ隅丸方形を呈している。東壁と西壁の一部にテラス状の段があり、壁高は9.5cmから18.4cmを測る。北西から中央へ徐々に深くなっている。

## 遺物(第65・66図、第36～39表)

本土壇の遺物は、規模に比して多く、25点を数える。坏が多く20点である。内面黒色処理を施したものが17点である。高台付は19, 20の2点である。高台は断面三角形に近く、外へ張出すような付け方で低い。ほぼ完形のもの2点である。口縁が外反するものが多く、底部から緩やかに内径しながら立上っていく形のものが多い。13は特に開きが強い。1は土師器の蓋である。21, 23は球形胴の小型壺と思われる。口縁と頸部の一部だけの出土なので全体の器形は確認できなかった。24は甕の底部である。25は剣の一部と思われる鉄製品である。灰釉陶器、緑釉の破片もそれぞれ一点ずつ出土したが図示するには至らなかった。

番号	器種類	位置	法	量	器質	成形・形態	整形技法	
							外	内
1	土師 (蓋)	覆土	器高2.4 器径13.3 天井部一福 部1/4	胎: 0.1の赤褐色粗砂 砂含有 施: 良 色: 外5YR7/3 内5YR8/4 淡褐色		不定方向の「撫で」 天井部回転糸切り	不定方向の「撫で」	
備考	坏	覆土	口径13.2 器高4.4 底径5.7 口縁部一休 部2/3 底部突存	胎: 0.2-0.3の硬粗 砂含有 施: 良 色: 外10R6/6 赤褐色 内10R6/8 赤褐色	平底の底部から体部は 内彎して立上がり、口 縁部に至る。	輪轆による「撫で」 底部回転糸切り	輪轆による「撫で」	
備考	輪轆右回転。							

第36表 第15号土壇出土遺物一覧表(1)

番号	器種	種類	位置	法	量	器	質	成形・形態	整形		技法
									外	内	
備考											
3	土師	甗	覆土		口径12.9 残高 3.5 口縁部~体 部 1/8	胎: 0.1~0.3 の磁粒 砂を含む 胎: 良 色: 外5YR7/4 に近い 棕色 内10YR5/1 褐色色		体部内凹しながら立上 がる。 体部優越による「撫 で」 口縁部横位の「撫 で」		丁寧な「磨き」 黒色処理	
備考											
4	土師	甗	覆土		口径14.7 残高 4.1 残径 5.1 口縁部~底 部 2/3	胎: 石英、粗砂粒含有 胎: 良 色: 外5YR7/4 に近い棕色 内黒色		小さな底部から体部 内凹しながら立上 がり、口縁部で外反す る。 優越による「撫 で」 底部回転糸切り		丁寧な「磨き」 黒色処理	
備考											
5	土師	甗	覆土		口径18.1 器高 3.6 残径 5.6 口縁部~底 部 1/10	胎: 粗砂粒含有 胎: 良 色: 外7.5YR8/3 淡黄褐色、 口縁部黒色 内黒色		粘土粒巻上げ 小さな底部から暫時 体部に立上り、体部は 外面に盤を有し、ほぼ 直立して口縁部で外反 する。 体部優越による 「撫で」 口縁部横位の「撫 で」 底部回転糸切り		口縁部横位の「撫 で」 体部不明 黒色処理	
備考											
6	土師	甗	覆土		口径12.8 器高 4.3 残径 6.2 口縁部~底 部 1/8	胎: 粗砂粒含有 胎: 良 色: 外7.5YR8/3 淡黄褐色 内黒色		体部は僅かに内凹し、 口縁部短く外反する。 横位の「撫で」 「撫で」 黒色処理			
備考											
7	土師	甗	覆土		口径12.9 残高 3.5 口縁部~体 部 1/8	胎: 粗砂粒含有 胎: 良 色: 外5YR6/4 に近い 棕色 内黒色		体部内凹しながら立上 がり、口縁部で外反す る。 体部「撫で」 口縁部横位の「撫 で」 体部「撫で」 口縁部横位の「撫 で」 黒色処理			
備考											
8	土師	甗	覆土		口径12.8 残高 3.0 口縁部1/6	胎: 粗砂粒含有 胎: 良 色: 外7.5YR7/4 に近い 棕色 内黒色		体部僅かに内凹しな がら立上り、口縁部短 く外反する。 優越による「撫 で」 優越による「磨 き」			
備考											
9	土師	甗	覆土		口径15.2 残高 2.9 口縁部~体 部 1/5	胎: 石英、黒雲母、粗 砂粒含有 胎: 良 色: 外口縁部7.5YR7/4 に近い棕色 体部10R6/8赤褐色 内黒色		体部僅かに内凹しな がら立上り、口縁部短 く外反する。 体部「撫で」 口縁部横位の「撫 で」 「撫で」 黒色処理			
備考											
10	土師	甗	覆土		口径16.7 残高 2.6 口縁部1/12	胎: 粗砂粒含有 胎: 良 色: 外7.5YR8/4 淡黄 褐色 内黒色		口縁部僅かに外反す る。 「撫で」 「撫で」 黒色処理			
備考											
11	土師	甗	覆土		口径13.9 残高 3.2 口縁部~体 部 1/6	胎: 雲母、粗砂粒含有 胎: 良 色: 外5YR7/4 に近い 棕色 内黒色		口縁部僅かに外反す る。 口縁部横位の「撫 で」 体部優越による 「撫で」 口縁部横位の「撫 で」 体部「磨き」 黒色処理			
備考											
12	土師	甗	覆土		口径11.9 残高 2.5 口縁部~体 部 1/12	胎: 粗砂粒多く含有 胎: 良 色: 外5YR5/1 褐色 口縁部黒色 内黒色		口縁部緩やかに外反す る。 横位の「撫で」 「撫で」 黒色処理			
備考											

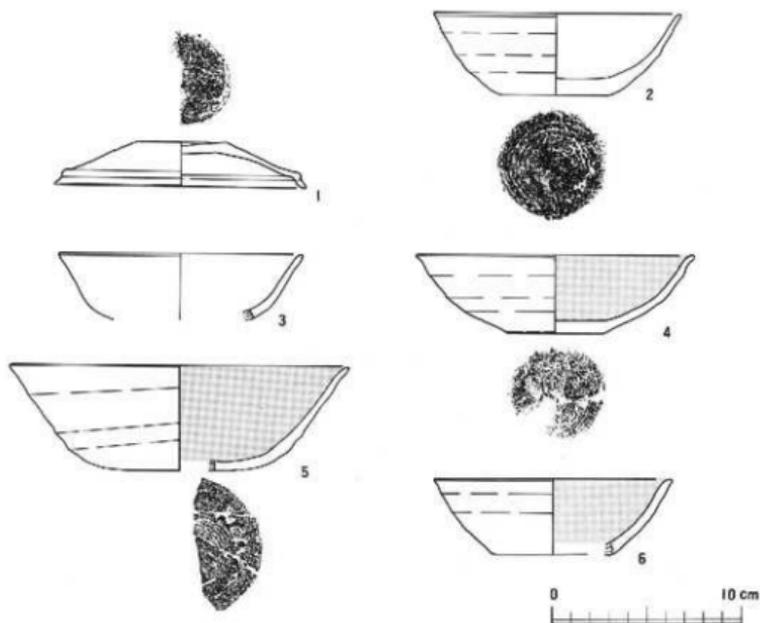
第37表 第15号土壌出土遺物一覽表(2)

番号	器種	位置	形状	量	器質	成形・形態	装飾技法	
							外	内
13	土器	甌	口径17.2 残高3.0 口縁部1/6	胎：雲母・鉄含有 施：良 色：外2.5YR6/6褐色 内黒色	口縁部厚やかに外反する。	襷輪による「撫で」	「荒磨き」	
備考	甌	甌土	残高1.5 底径5.2 底部9/10	胎：石英・雲母の粗砂 鉄含有 施：良 色：外6YR5/4 内赤い赤褐色 内黒色		襷輪による「撫で」 底部回転糸切り	襷輪による「撫で」の後黒色処理	
備考	甌	甌土	残高1.5 底径6.6 底部4/5	胎：粗砂粒多く含有 施：良 色：外7.5YR8/4 内黄褐色 内黒色		体部襷輪による「撫で」 底部回転糸切りの後彫状工具による「撫で」	襷輪による「撫で」の後黒色処理	
備考	甌	甌土	残高1.6 底径5.7 底部5/8	胎：細石英粒含有 施：良 色：外5YR6/6 褐色 内黒色		不定方向の「撫で」 底部回転糸切り	「荒磨き」 黒色処理	
備考	甌	甌土	残高0.9 底径4.8 底部欠存	胎：細砂母・石英含有 施：良 色：外2.5YR6/8褐色 内黒色		底部回転糸切り	「荒磨き」 黒色処理	
備考	甌	甌土	残高1.5 底径4.2 底部1/2	胎：粗砂粒含有 施：良 色：外5YR7/4 内赤い褐色 内黒色		「撫で」 底部回転糸切り	襷輪による「撫で」の後黒色処理	
備考	甌	甌土	残高1.7 底径7.0 底部3/4 高台部残存	胎：細砂粒含有 施：良 色：外2.5YR4/1 赤褐色 内黒色	付付高台	体部襷輪による「撫で」 底部回転糸切り	放射状の「荒磨き」 黒色処理	
備考	甌	甌土	残高1.7 底径7.1 底部1/4	胎：細砂母、細砂粒含有 施：良 色：外2.5YR6/6褐色 内黒色	付付高台	高台部「撫で」 底部回転糸切り	黒色処理	
備考	甌	甌土	口径12.0 残高3.6 口縁部1/4	胎：石英・雲母含有 施：やや不良 色：外5YR5/6 明赤褐色 内5YR3/6 暗赤褐色	襷輪「くの字」状を呈し、口縁部で内斜する。	口縁部横位の「撫で」	口縁部横位の「撫で」	
備考	甌	甌土	口径18.6 残高4.8 口縁部～胴部1/12	胎：0.1～0.2の粗砂粒含有 施：良い 色：外内5YR6/4 内赤褐色	胎上帯横み上げ 胴部の括れはごく小さい。	彫状工具による横位の「撫で」 胴部に「刺毛目」	横位の「撫で」	
備考								

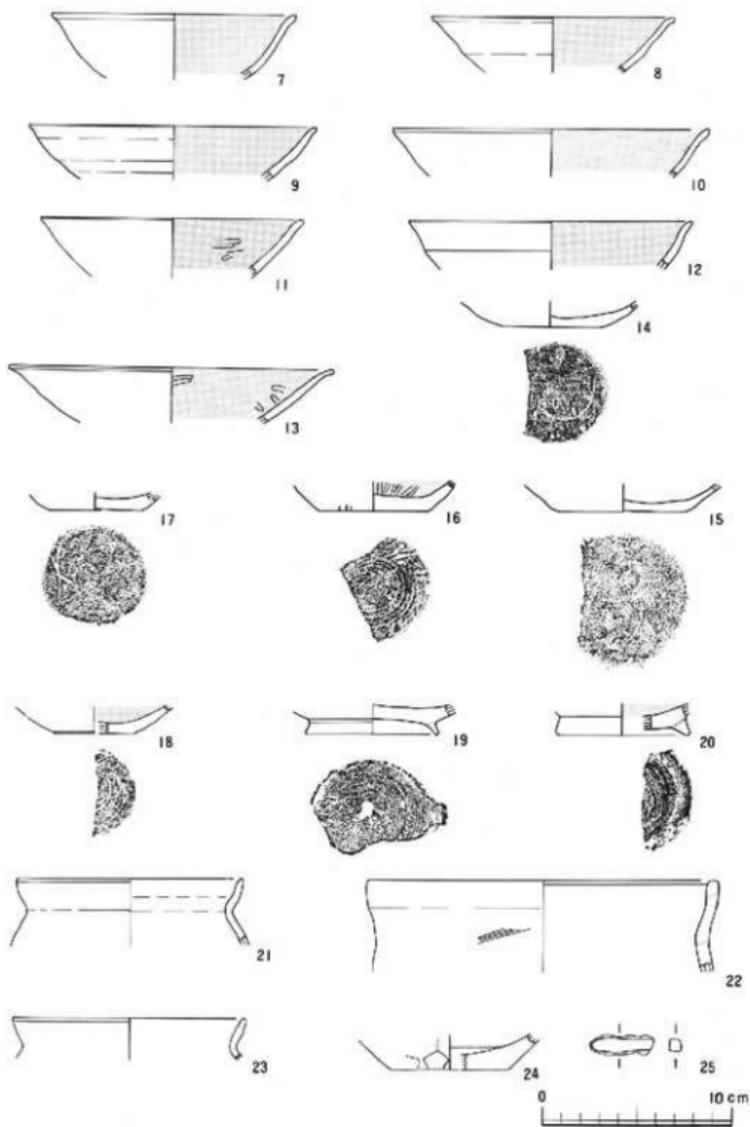
第38表 第15号土壌出土遺物一覧表(3)

番号	器種 種類	位置	法 量	器 質	成 形・形 態	整 形 技 法	
						外	内
23	甕 土 師	覆土	口径12.4 残高 2.2 口縁部1/8	胎:細砂粒含有 焼:良 色:外7.5YR6/1 褐 灰色 内7.5YR 4/1 褐灰色	口縁部縦い「くの字」 状に外反する。	口縁部横位の「撫 で」	口縁部横位の「撫 で」
備考							
24	(甕) 土 師	覆土	残高 1.9 底径 6.2 底部 1/6	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外5YR4/3 にぶ い赤褐色 内 5YR6/2 灰褐色		「荒削り」 底部范切り	「撫で」 底部范状工具によ る「撫で」
備考							
25	(釘) 鉄製品	覆土	最大長 3.3 最大幅 0.9 最大厚 0.7 重積 4.0g				
備考							

第39表 第15号土壌出土遺物一覧表(4)



第65図 第15号土壌出土遺物実測図(1)



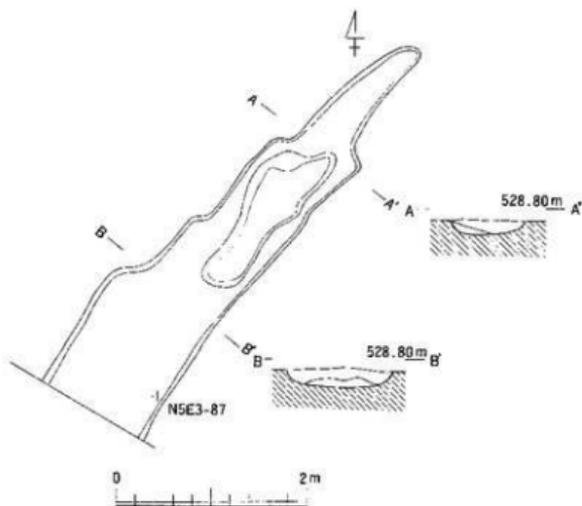
第66图 第15号土壤出土遗物实测图(2)

## 第4節 溝 址

### 1. 第1号溝址

第1号溝址はN 6 E 3-7, 87, 95, 96グリッドにかけて検出された。本溝址はN 6 E 3-7グリッドからはじまって、北東から南西方向へ走っていた。末端は確認調査用トレンチによって切られ、さらに第16号住居址によって切られていた。しかし、状況からして第2号溝址へつながっていたと思われる。長さは5.15mを測り、幅員は部分によって異なるが、最大で1.25mを測る。最深部は中央で0.28mを測り、末端部では0.18mであった。土層堆積は2層からなり、I層はA

第67図



第67図 第1号溝址実測図

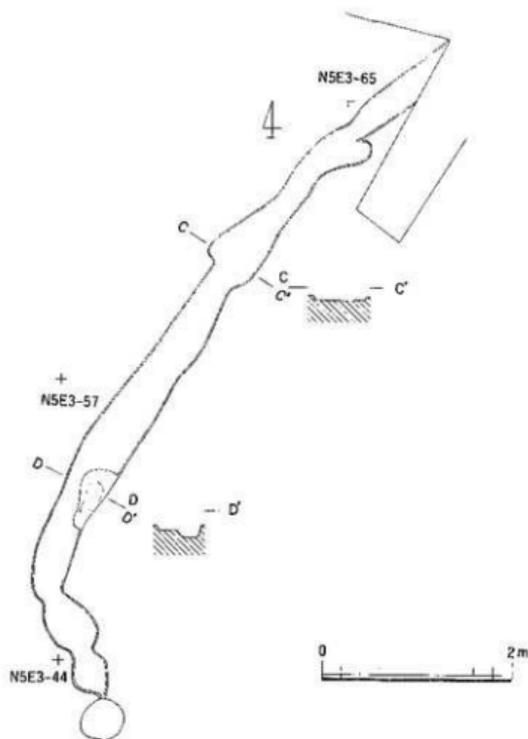
-A'、B-B'ともに茶褐色砂質土で、II層はA-A'では礫を含む黒褐色砂質土、B-B'は小礫を多く含む黒褐色砂質土であった。

#### 遺物

出土遺物はなかった。

### 2. 第2号溝址

第2号溝址はN 6 E 3-73, 65, 56, 57, 45グリッドにかけて検出された。N 5 E 3-73グリッド



第68図 第2号溝址実測図

からはじまり、N5E3-45グリッドまではほぼ南流していた。最大幅員は0.56mで、長さは7.40mであった。土層堆積はI層であり、小礫を多く含む黒褐色砂質土であった。深さはC-C'で6cm、D-D'には一部深い部分があり、最深部で深さ14cmを測る。末端部には広く(約1㎡)鉄滓が流れ広がっていた。特に末端は円形の浅い(最深5cm)プール状を呈していた。

#### 遺物

遺物は土師器細片が4点あったが、図示するには至らなかった。

### 第5節 ビット

掘立柱建物址を構成するビットを除くビットの規模、出土遺物については第40～44表及び第69

～78図に示すとおりである。

A区においてはP-66から土師器の坏及び羽釜が出土しており、第1号住居址出土のそれと酷似している点注目されよう。このピットの覆土には若干の焼土が確認されている。また、P-71からは土師器の内面を黒色処理した坏片とともに石斧が出土している。

C区においてピットは合計16ヶ所確認できた。このうちP-99,100,101は東西に一列を成しており、掘立柱建物の一部ではないかと思われるが、他の柱穴は確認できなかった。柱穴間隔は2.0mと2.1mであり、やや広い。P-106からは覆土に灰と鉄滓、羽口、土師器甕の胴部1点を出土した。小鍛冶の炉址を想定して調査したが、焼土は無く、形状、土層から見て、炉址とは判定できなかった。

番号	長軸	短軸	深さ	出土遺物等
21	42	38	26	
22	22	22	16	
23	34	32	10	土師器片
24	26	24	16	
15	54	52	28	須恵器坏片
19	48	46	28	
20	54	42	20	
18	68	50	32	
17	64	46	20	
11	50	40	14	土師器片
12	48	48	18	
10	44	44	12	
09	42	38	8	
02	60	58	30	
07	42	20	16	
08	24	18	10	
16	38	30	16	
05	52	44	12	
120	24	24	18	
121	26	26	26	
25	34	30	32	
26	32	30	34	
34	118	74	74	
122	42	32	34	
123	38	38	26	

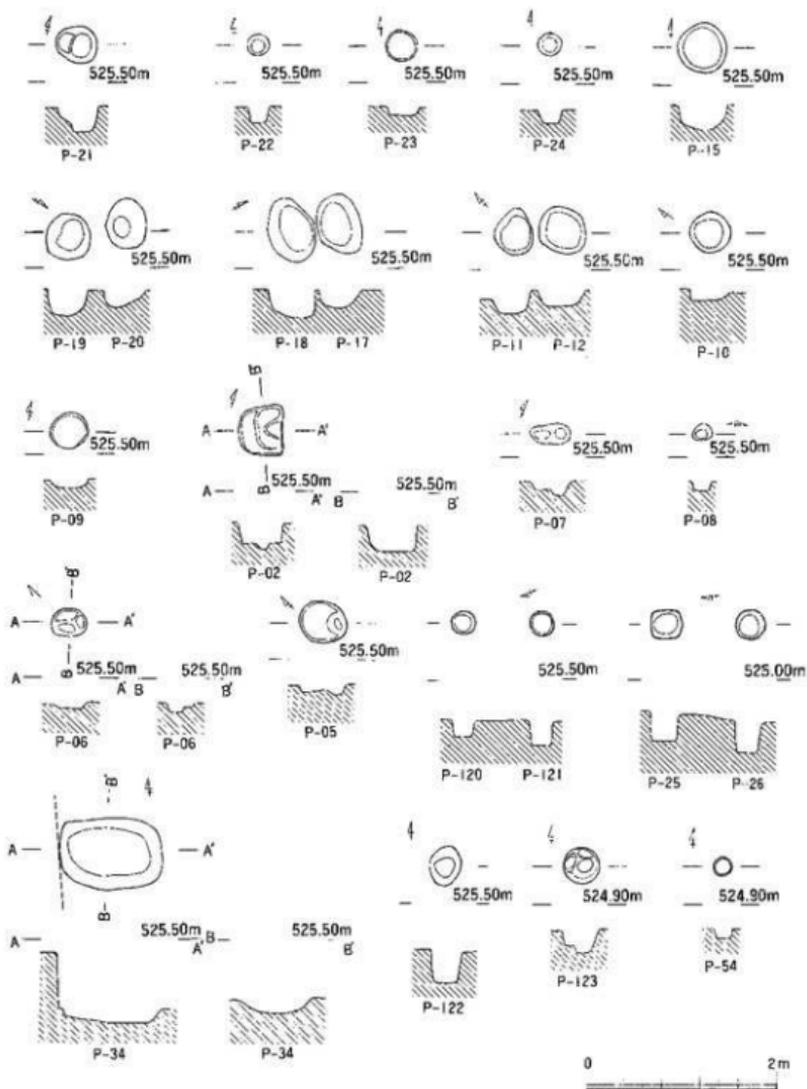
番号	長軸	短軸	深さ	出土遺物等
54	20	20	10	
119	20	18	14	
36	28	26	24	
35	46	44	32	
38	26	26	24	
39	26	24	28	
40	22	22	24	
37	60	58	40	
118	54	54	32	
44	22	20	20	
47	22	20	16	
41	26	24	18	
42	90	80	36	
57	46	40	14	
80	38	36	26	
79	50	46	24	
61	38	34	32	
63	62	58	26	
62	80	74	70	土師器片
54	46	30	16	
125	48	38	36	
65	62	62	68	土師器甕片、須恵器坏片
66	118	96	6	土師器甕片、灰釜片
68	60	58	32	土師器片、土師器坏片
67	64	62	24	土師器甕片

第40表 ピット一覧表(1)

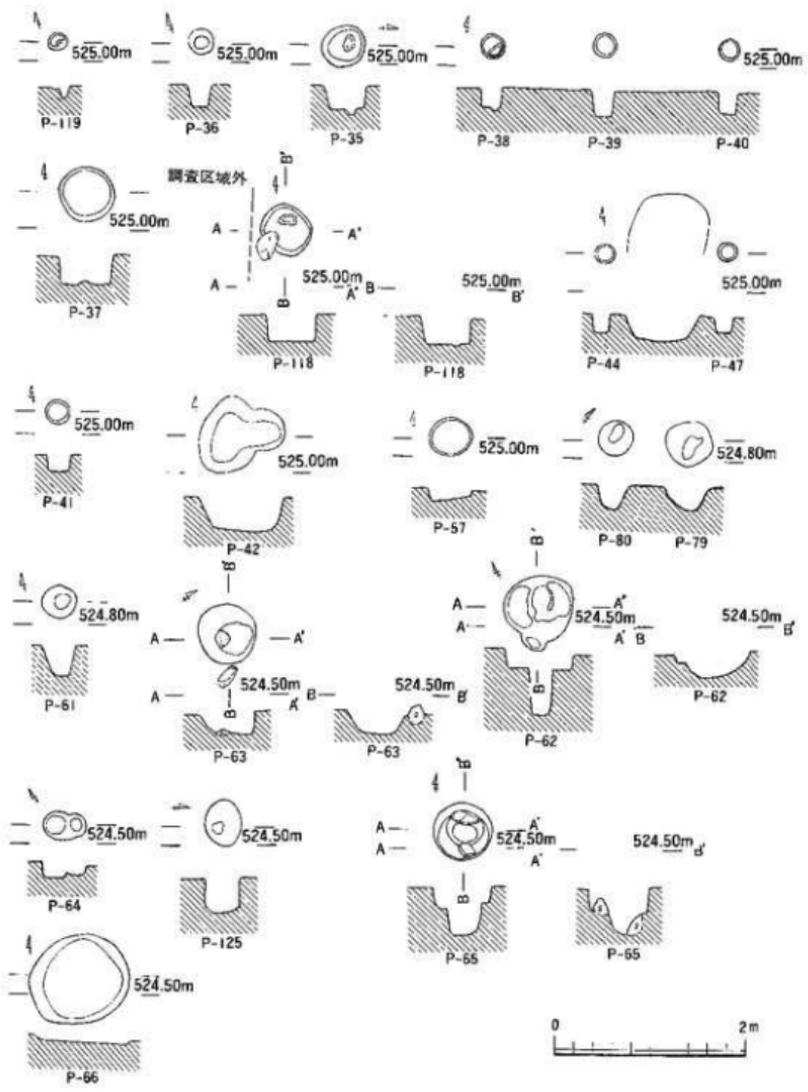
番号	長軸	短軸	深さ	出土遺物等
72	74	60	44	
94	104	52	34	
71	50	34	14	土師器内黒坪、壺片、石芥
69	48	44	36	土師器篋片須恵器坏片
82	44	40	14	土師器片
83	72	(54)	6	土師器(坏)片
86	98	80	42	
88	42	40	36	
74	38	36	32	
85	58	54	30	
73	60	58	38	
70	68	52	28	
87	40	36	20	
84	66	58	30	
77	90	86	30	
76	114	102	34	
01	70	70	46	
91	76	66	22	
89	26	26	36	
90	38	34	32	
124	44	44	32	鉄製品
92	46	32	12	
93	24	24	26	
97	30	30	34	
98	36	36	6	須恵器坏片・寛片

番号	長軸	短軸	深さ	出土遺物等
105	58	46	42	
104	54	46	32	
99	62	48	22	
100	64	62	28	
101	56	52	30	
102	62	50	18	
103	58	50	46	
106	36	34	24	土師器篋片、鉄滓、灰、羽口
107	46	42	22	土師器片、縄文鉢片
109	44	42	46	
108	56	54	42	
110	60	52	20	
112	86	68	48	
114	76	76	44	
116	62	54	24	
115	62	46	24	
117	36	36	22	

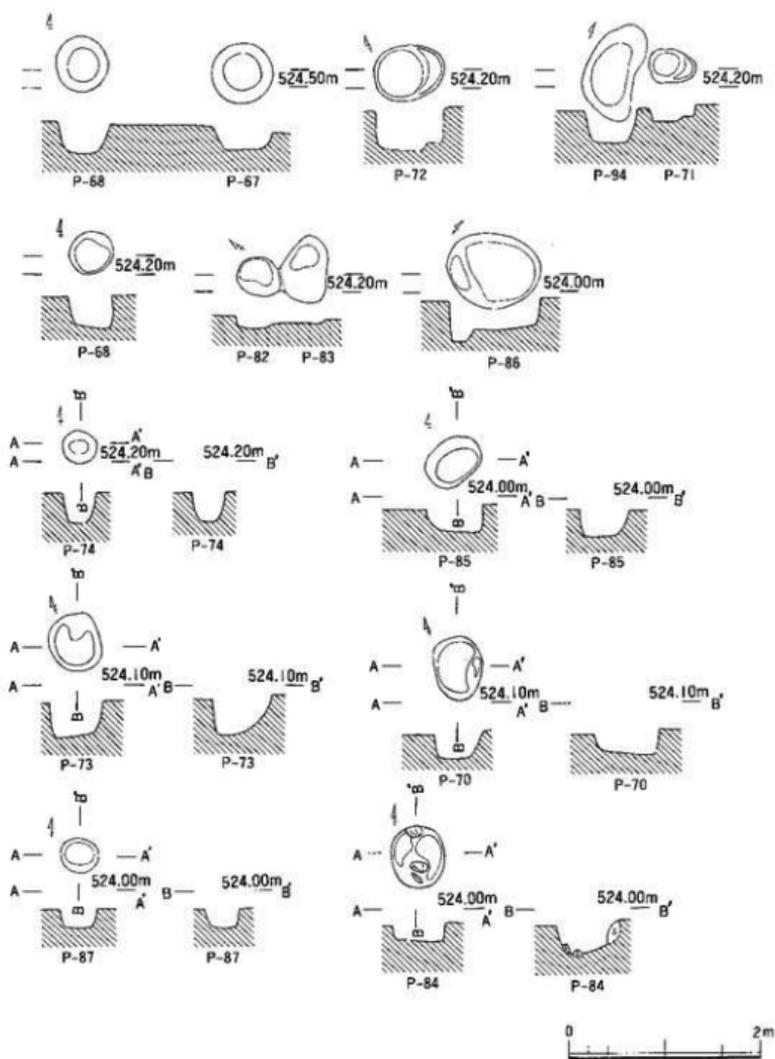
第41表 ビット一覧表(2)



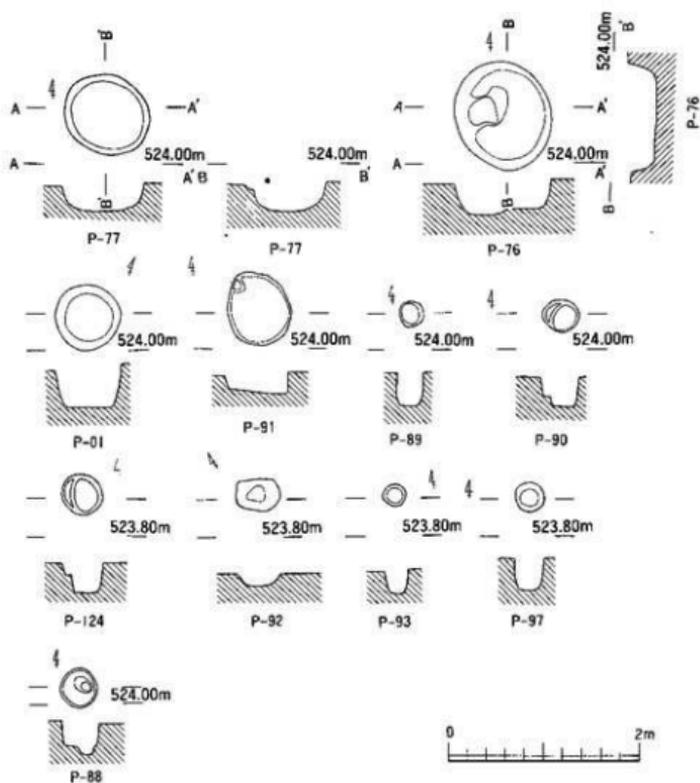
第69図 A区ビット実測図(1)



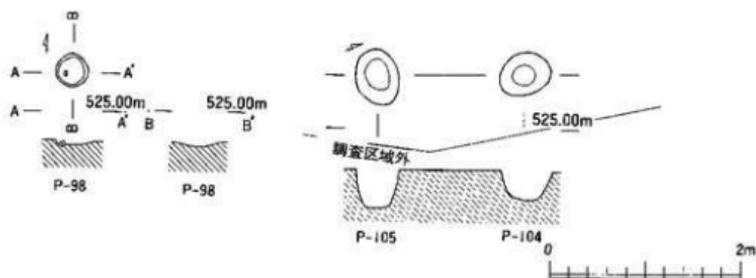
第70図 A区ピット実測図(2)



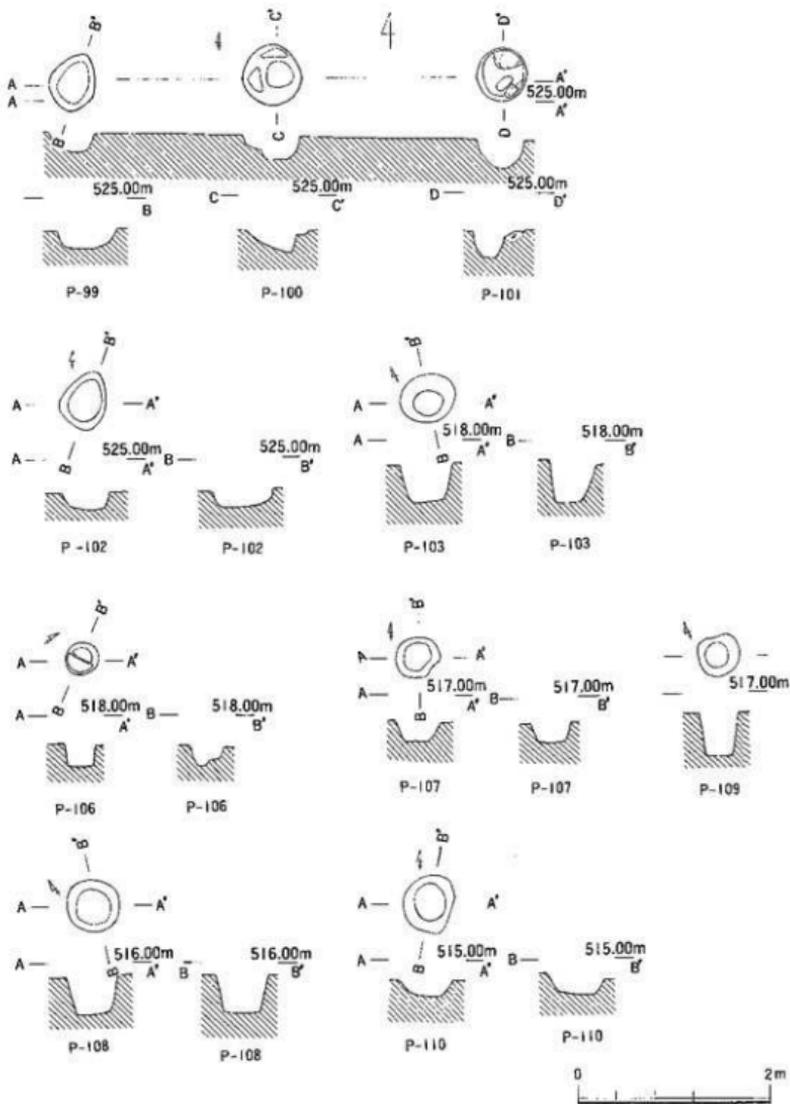
第71図 A区ビット実測図(3)



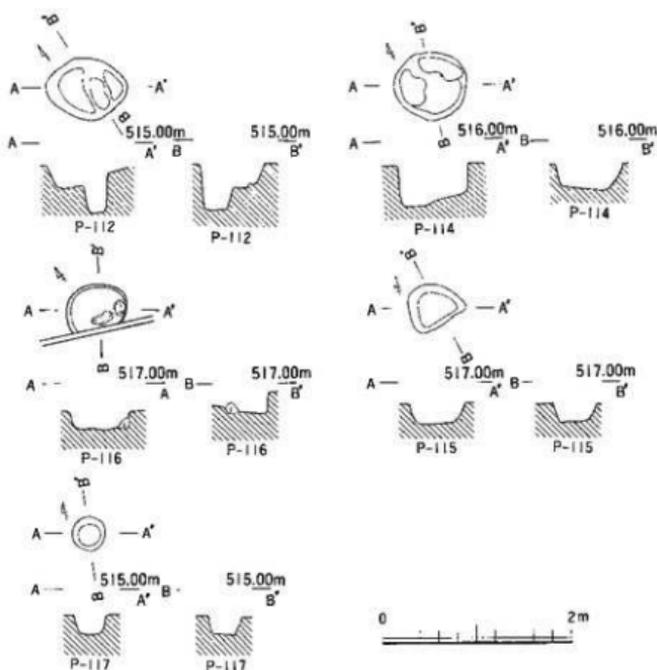
第72図 A区ピット実測図(4)



第73図 C区ピット実測図(1)



第74図 C区ビット実測図(2)



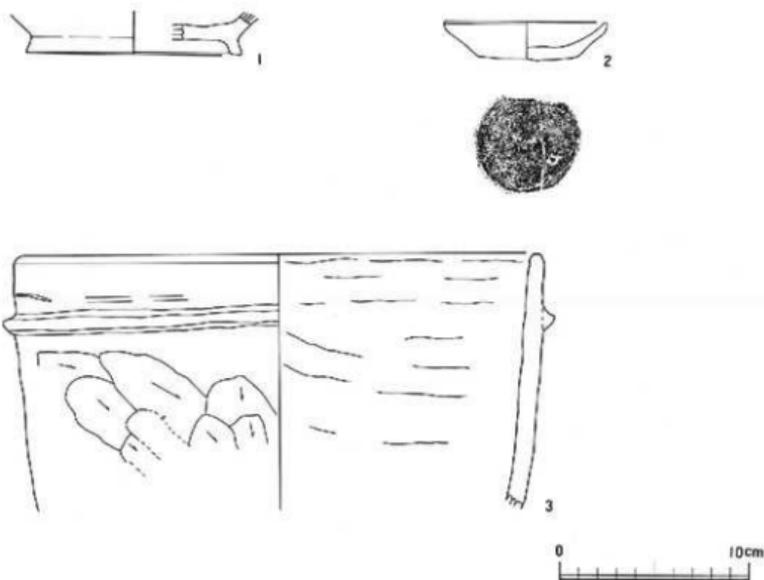
第75図 C区ピット実測図(3)

番号	器種類	位置	法	量	材質	成形・形態	整形技法	
							外	内
1	杯	P-65	残高2.3 底径11.4 底部1/4	胎：細砂粒多く含む 焼：良 色：外内N8/ 灰白色			体部輪轆による「撫で」、高合部横位の「撫で」、底部不明	輪轆による「撫で」
備考								
2	土師	P-66	口径8.6 器高2.0 底径5.3 底部完存、 体部1/8	胎：粗砂粒多く含む 焼：良 色：外2.5YR6/8棕色 内2.5YR6/6棕色			口縁部横位の「撫で」、体部輪轆による「撫で」、高合部横位の「撫で」、底部回転糸切りか。	口縁部横位の「撫で」、体部輪轆による「撫で」
備考								
3	土師	P-66	口径28.2 残高13.8 口縁部-胴部上径1/5	胎：黒雲母、石英、粗砂粒含む 焼：良 色：外10R4/1 暗赤灰色-10R6/8 赤褐色 内5YR4/1 褐灰色-10R6/8 赤褐色	胴部は貼り付け、胴部直立する。		口縁部横位の「撫で」、胴部斜位、横位の「荒削り」	口縁部横位の「撫で」、胴部横位の「荒削り」
備考								

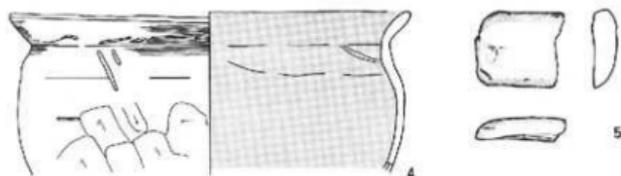
第42表 A区ピット出土遺物一覧表(1)

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
4	埴土 印	P-71	口径21.1 残高 8.6 口縁部~胴部上位1/5	胎: 0.1~0.3 の硬、粗砂粒含有 焼: 良 色: 外2.5YR7/6褐色 内黒色	最大径を口縁部に有し、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」、胴部「蹴削り」、頸部に筒状工具による「撫で」	口縁部横位の「撫で」、胴部筒状工具による「撫で」「磨き」
備考							
5	斧 石製品	P-71	最大長4.7 最大幅4.0 最大厚1.3 重量 31g		磨製		
備考 焼成を受けている。							
6	? 鉄製品	P-124	最大長5.0 最大径1.3 重量 9g		中空で、中に木材をいれている。		
備考							
7	(釘) 鉄製品	P-124	最大長5.2 最大径0.2 重量 5g				
備考							

第43表 A区ビット出土遺物一覧表(2)



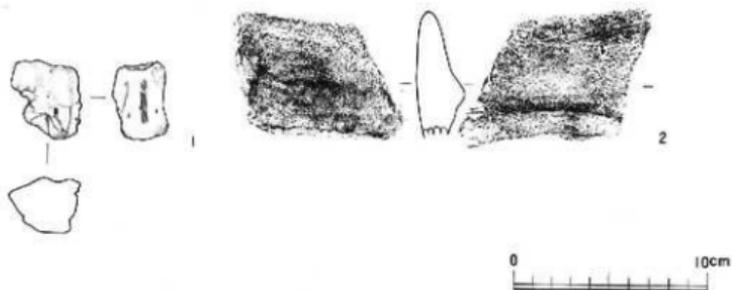
第76図 A区ビット出土遺物実測図(1)



第77図 A区ビット出土遺物実測図(2)

番号	器種類	位置	法	量	器質	成形・形態	整形技法	
							外	内
1	取口	P-						
備考								
2	瓦文	P-	残高 6.8 口縁部一部		胎：粗砂粒、白雲母、 黒雲母、石英含有 焼：良 色：外内10R4/4 赤褐色			
備考								

第44表 C区ビット出土遺物一覧表

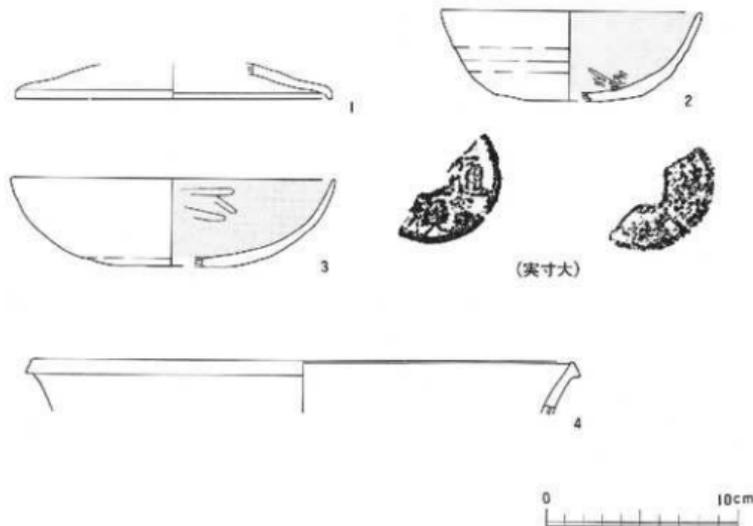


第78図 C区ビット出土遺物実測図

## 第6節 遺構外出土遺物

番号	群種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	土師	NIE1-51	口径16.8 残高2.5 底部~天井部 1/8	胎: 0.1の粗砂粒含有 成: やや不良 色: 外2.5YR8/1灰白色 内10YR7/3にぶい黄橙色		天井部轆轤による「撫で」 裾部轆轤位の「撫で」	天井部轆轤による「撫で」 裾部轆轤位の「撫で」
備考	坏	NIE1-58	口径13.8 器高4.8 底径7.8 底部~口縁部 1/4	胎: 0.1~0.2の粗砂粒含有 成: 良 色: 外5YR8/4淡橙色 内黒色	体部外面に線を有し、内壁する。	口縁部轆轤位の「撫で」、体部脚地による「撫で」、底部「磨き」	口縁部轆轤位の「撫で」、体部脚地による「磨き」 黒色処理
備考	坏	SIE1-5	口径17.2 器高4.7 底部~口縁部 1/12	胎: 0.1~0.2の粗砂粒含有 成: 良 色: 外口縁部7.5YR7/4にぶい橙色 体部5.5YR6/6橙色 内黒色	体部内壁し、口縁部に至る。	体部、底部とも不定方向の「撫で」	「磨き」 黒色処理
備考	甕	SIE1-22	口径28.6 残高2.8 口縁部1/12	胎: 粗砂粒含有 成: 良 色: 外5Y6/1 灰白色 内10Y7/1 灰白色		口縁部轆轤による「撫で」、口縁部下位轆轤による「磨削り」	轆轤による「撫で」

第45表 A区グリッド出土遺物一覧表



第79図 A区グリッド出土遺物実測図

番号	器種	位置	法量	器質	成形・形態	整形	
						外	内
1	坏	NGE 3-12	口径15.6 器高 3.7 口径 9.1 底部~口縁部1/10	胎: 0.2の茶褐色粗砂 粒含有 施: 良 色: 外N8/ 灰白色 内N7/ 灰白色	体部はほぼ直立して口縁部に至る。	口縁部横位の「撫で」 体部縦線による「撫で」 底部不明	口縁部横位の「撫で」 体部縦線による「撫で」

備考 内外面に火焼ふる。

第46表 C区グリッド出土遺物一覧表(1)

番号	器種	位置	法量	器質	成形・形態	整形	
						外	内
2	甕 土師	NGE 3-6	口径21.7 残高 9.0 口縁部~胴部上位1/6	胎: 0.1~0.3の粗砂粒、礫含有 施: 良 色: 外5YR4/4淡棕色 内2.5YR7/4淡赤褐色	粘土帯積み上げ 口縁部鋭い「くの字」状に外反する。	指頭による「撫で」 口縁部横位の「撫で」 胴部上位指頭による「撫で」	

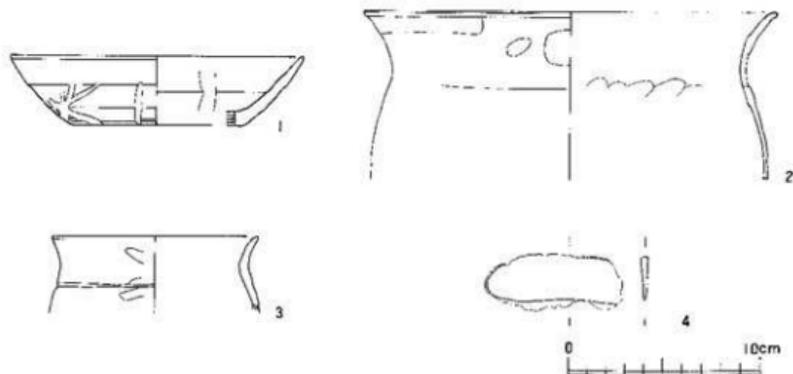
備考

第47表 C区グリッド出土遺物一覧表(2)

番号	器種	位置	法量	器質	成形・形態	整形	
						外	内
3	(磁) 土師	NSE 3-94	口径 8.8 残高 4.1 口縁部~胴部上位1/6	胎: 細砂粒多く含有 施: 良 色: 外7.5YR5/3に近い褐色 内7.5YR4/2灰褐色	口縁部縦やかに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部「磨削り」	横位の「撫で」
4	(鐵) 鉄製品	NSE 3-94	残長 7.2 最大幅 2.3 最大厚 0.4 重量 30g 先端部か?				

備考

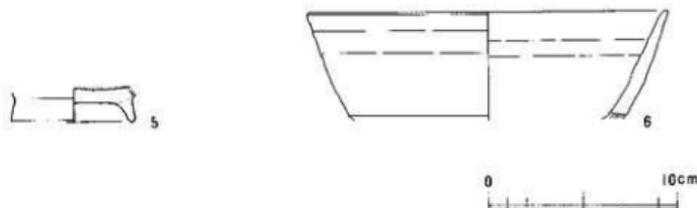
第48表 C区グリッド出土遺物一覧表(3)



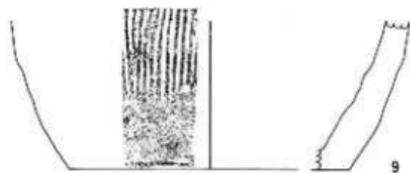
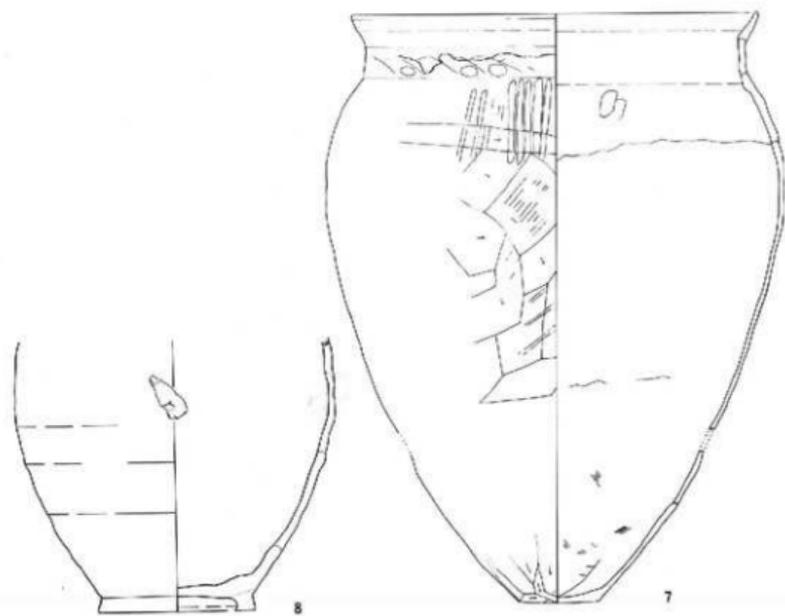
第80図 C区グリッド出土遺物実測図(1)

番号	器種型	位置	法 量	器 質	成形・形態	整 形 技 法	
						外	内
5	(坏) 土 師	N5E 3-88	残高 1.8 底径 6.5 高台部1/4 底部定存	胎：粗砂粒、蜜母粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/3にふい 藍色 内黒色	付け高白	高台部、底部とし 「撫で」	轆轤による「撫 で」 黒色処理
備考							
6	(椀) 須 恵	N5E 3-88	口径19.1 残高 5.8 口縁部-体 部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR8/3淡黄 色 内5YR7/1 灰白色	轆轤引き上げ 体部僅かに内押しなが ら立上がり、口縁部で ごく僅かに外反する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」
備考							
7	土 師	N5E 3 88	器高(31.4) 底径 4.2 口縁部 1/3 胴部 1/6 底部 3/4 口径 21.4	胎：白費母、細砂粒含 有 焼：良 色：外5YR5/8 明赤褐色 内5YR3/6 暗赤褐色	最大径(24.4)を胴部中 位に有し、口縁部は細 やかな「コの字」状を 早する。	圧痕。胴部につけ て縦方向の荒面によ る「削り」胴部 -底部不定方向の 「荒削り。連続的 斜方向の細い荒状 工具による「削り」	平底。底部内白荒 状工具による調整 の後、細かい刷毛 状工具による調 整。口辺-胴部横 位の「撫で」
備考							
8	甕 須 恵	N5E 3-88	残高15.5 底径 8.2 胴部 1/8 底部定存	胎：白色の糠・粗砂粒 含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	粘土帯積み上げ 付け高台	胴部轆轤による 「荒削り」の後轆 轤による「撫で」 底部回転糸切りの 後、手持ちの右回 りの「荒撫で」	轆轤による「撫 で」
備考 轆轤左回転。胴部に鉄製品付着している。							
9	甕 須 恵	N5E 3-88	口径15.7 器高(24.0) 底径14.9 口縁部-胴 部上位1/6 胴部下位- 底部1/10	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外N2/ 黒色 内N6/ 灰色	粘土帯積み上げ 頸部肥厚して、口縁部 に「くの字」状に外反 する。	口縁部横位の「撫 で」 胴部平行文の「甲 き」 胴部下位「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 胴部華?による押 圧
備考							

第49表 C区グリッド出土遺物一覧表(4)



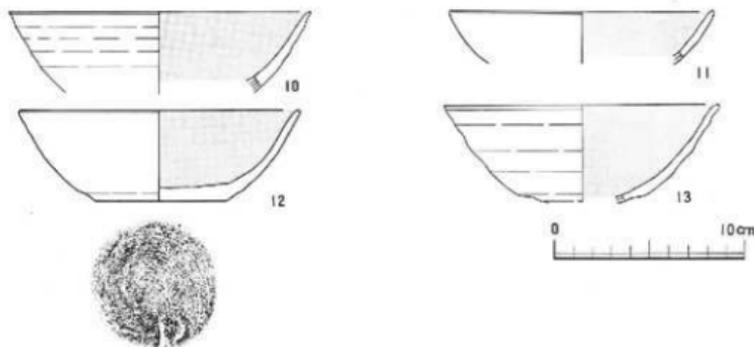
第81図 C区グリッド出土遺物実測図(2)



第82図 C区グリッド出土遺物実測図(3)

番号	器種	位置	法量	器質	成形・形態	整彩技法	
						外	内
10	坏 土 罽	N5E 3-87	口径15.9 残高 4.3 口縁部~体 部 1/8	胎:粗砂粒多く含有 施:良 色:外5YR6/6 橙色 内黒色	体部は内側しながら立 上がり、口縁部で短く 外反する。	口縁部横位の「撫 で」、体部輪縁による 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」、体部輪縁に よる「撫で」 黒色処理
備考							
11	坏 土 罽	N5E 3-87	口径14.0 残高 2.8 口縁部1/8	胎:雲母粒、粗砂粒含 有 施:良 色:外2.5YR7/4 淡 赤橙色 内黒色		口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 体部「荒磨き」
備考							
12	坏 土 罽	N5E 3-87	口径14.8 器高 4.8 底径 6.8 口縁部~体 部 1/4 底部充塞	胎:粗砂粒多く含有 施:良 色:外7.5YR8/3 淡赤橙色 内黒色	平底の底部から体部内 側しながら立上がり、 口縁部で僅かに外反す る。	口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」か 黒色処理
備考							
13	坏 土 罽	N5E 3-87	口径14.6 残高 5.2 口縁部~体 部 1/12	胎: 0.1~0.3 の礫・ 粗砂粒含有 施:良 色:外5YR6/6 橙色 内黒色	粘土紐巻上げか? 体部に稜を有し、内側 しながら立上がり、口 縁部で強く外反する。	口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」か	口縁部横位の「撫 で」 体部「荒磨き」 黒色処理
備考							
14	坏 土 罽	N5E 3-87	残高 2.1 底径 6.0 底部 1/3	胎: 0.1~0.2 の粗砂 粒含有 施:良 色:外5YR8/4淡橙色 内黒色		体部横位の「撫 で」 底部切離し法不明	「荒磨き」 黒色処理
備考							
15	坏 土 罽	N5E 3-87	長径 5.7 短径 5.3 残高 3.1 体部 1/3 底部 1/2	胎:粗砂粒含有 施:良 色:外内黒色	付け高台 粘土密積み上げ	口縁湾曲部「荒磨 き」 体部~高台部横位 の「撫で」 底部回転糸切り 黒色処理	口縁部~体部「撫 で」 底部「荒磨き」 黒色処理
備考							

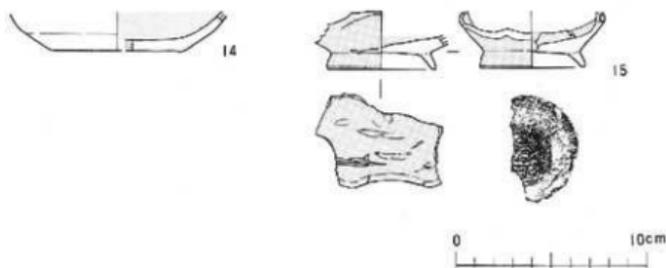
第50表 C区グリッド出土遺物一覧表(5)



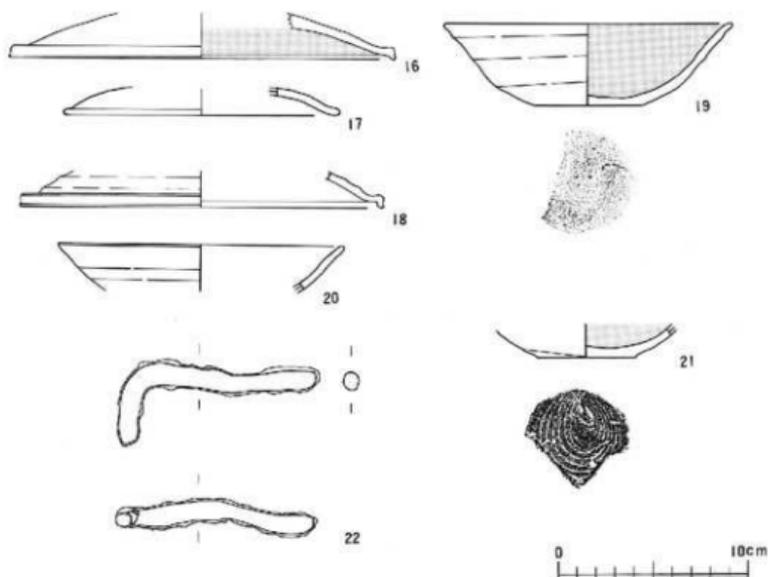
第83図 C区グリッド出土遺物実測図(4)

番号	器種	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
16	蓋 土 部	N5E 3-86	残高 2.4 口径20.3 天井部～唇部 1/8	胎：雲母・石英粒、粗 砂粒多く含有 色：黄 色；外7.5YR7/6棕色 内黒色		天井部轆轤による 「撫で」 裾部横位の「撫 で」	天井部轆轤による 「撫で」 裾部横位の「撫 で」 黒色処理
備考							
17	蓋 土 部	N5E 3-86	残高 1.4 口径14.6 裾部 1/8	胎：粗砂粒含有 色：良 色；外2.5YR7/4 淡 赤棕色 内10YR 7/3 近い黄棕色		天井部轆轤による 「范削り」 裾部轆轤による 「撫で」	天井部「范削き」 裾部横位の「撫 で」
備考							
18	蓋 須 志	N5E 3-86	残高 1.9 口径19.2 裾部1/12	胎：細砂粒含有 色：良 色；外N5/ 灰色 内N6/ 灰色	外面に強い稜を有する。	轆轤による「撫 で」	轆轤による「撫 で」
備考 外面に火澤あり。							
19	環 土 部	N5E 3-86	口径15.2 器高 5.4 底径 5.7 口縁部～体 部 1/3 底部 1/2	胎：雲母、粗砂粒含有 色：良 色；外5YR8/3淡褐色 ～10YR8/2 灰白色 内黒色	内壁しながら立上がり、口縁部で緩やかに外反する。	撫で、体部轆轤による「撫で」の後、不定方向の「撫で」 底部回転糸切り	撫で、体部轆轤による「撫で」の後、不定方向の「撫で」 黒色処理
備考 轆轤右回転。							
20	環 須 志	N5E 3-86	口径15.0 残高 2.5 口縁部1/10	胎：粗砂粒含有 色：良 色；外内7.5Y7/1 灰白色		口縁部横位の「撫 で」 体部轆轤による 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 体部轆轤による 「撫で」
備考 轆轤右回転。							
21	環 土 部	N5E 3-86	残高 1.8 口径 4.2 底部 4/5	胎：粗砂粒多く含有 色：良 色；外10YR8/2灰白色 内黒色	平底の底部から体部内 寄して立上がる。	体部轆轤による 「范削り」 底部回転糸切り	丁寧な放射状の 「范削き」 黒色処理
備考 轆轤右回転。							
22	? 鉄製品	N5E 3-86	最大長10.5 最大幅 1.2 最大厚 1.2 重量 30g				
備考							

第51表 C区グリッド出土遺物一覧表(6)



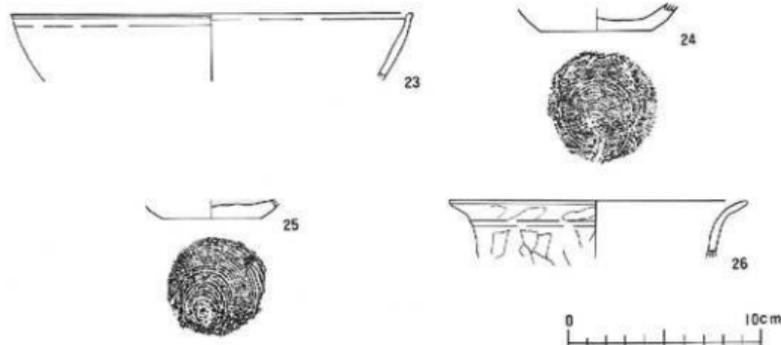
第84図 C区グリッド出土遺物実測図(5)



第85図 C区グリッド出土遺物実測図(6)

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	盛形		注法
						外	内	
23	灰陶器	N5E 3-76	口径21.2 残高 3.6 口縁部~腰部 1/12	胎:精選されている。 焼:良 色:外内2.5GY7/1 明オリーブ灰色	口唇部轆轤による引上げ	轆轤による「荒撫で」	轆轤による「荒撫で」	
備考	環	N5E 3-76	残高 1.2 底径 5.8 底部完存	胎:茶褐色粗砂粒多く含有 焼:良 色:外5YR5/1褐色 内5YR7/3 にぶい褐色	底部は平底で、内面中央が凸状に盛り上がる。	体部「撫で」 底部回転糸切り	荒状工具による放射状の「撫で」	
備考	轆轤右回転							
25	土師	N5E 3-76	残高 1.0 底径 5.1 底部完存	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外7.5YR6/3 にぶい褐色 内2.5YR3/1 黒褐色		底部回転糸切り	轆轤による「撫で」	
備考	轆轤右回転							
26	土師	N5E 3-76	口径15.7 残高 3.0 口縁部1/12	胎:細砂粒含有 焼:良 色:外内5YR6/4 にぶい褐色	口縁部はラック状に大きく外反する。	口縁部指頭による「押圧」 胴部上位「荒削り」	横位の「撫で」	
備考								

第52表 C区グリッド出土遺物一覧表(7)



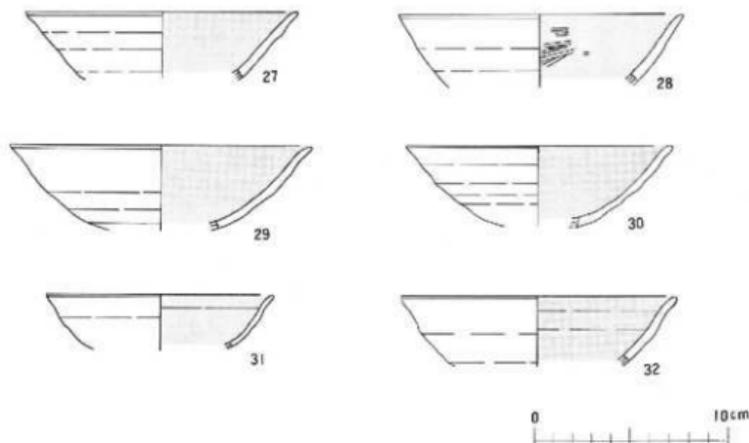
第86図 C区グリッド出土遺物実測図(7)

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
27	土師器	N5E 3-75	口径14.4 残高 3.6 口縁部-体部1/6	胎:粗砂粒多く含有 施:良 色:外10YR7/3 にお い黄褐色 内黒色	体部外面に緩やかな稜を有し、ほぼ直立する。	口縁部横位の「撫で」、体部縦軸による「荒撫で」	不定方向の「撫で」 黒色処理
備考							
28	土師器	N5E 3-75	口径15.0 残高 3.9 口縁部1/6	胎:石英粗砂粒含有 施:良 色:外7.5YR7/4 にお い褐色 内黒色		横位の「撫で」	横位、斜位の「荒磨き」 黒色処理
備考							
29	土師器	N5E 3-75	口径15.9 残高 4.5 口縁部-体部1/6	胎:粗砂粒多く含有 施:良 色:外10YR8/4 浅黄 褐色 内黒色	体部緩やかに内彎しながら立上がり、口縁部で外反する。	縦軸による「撫で」	縦軸による「撫で」 黒色処理
備考							
30	土師器	N5E 3-75	口径14.0 残高 4.2 口縁部-体部1/4	胎:粗砂粒多く含有 施:良 色:外7.5YR7/4 にお い褐色 内黒色	体部外面に緩い稜を有し、内彎しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」、体部縦軸による「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部縦軸による「撫で」 黒色処理
備考							
31	土師器	N5E 3-75	口径12.0 残高 3.4 口縁部1/8	胎:粗砂粒多く含有 施:良 色:外5YR6/4 にお い褐色 内黒色	口縁部外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部斜位の「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部斜位の「撫で」 黒色処理
備考							
32	土師器	N5E 3-75	口径14.5 残高 3.7 口縁部-体部1/8	胎:粗砂粒多く含有 施:良 色:外7.5YR7/6褐色 内黒色	粘土帯積み上げ 体部内彎しながら立上がり、口縁部で緩やかに外反する。	横位の「撫で」	横位の「撫で」 黒色処理
備考							

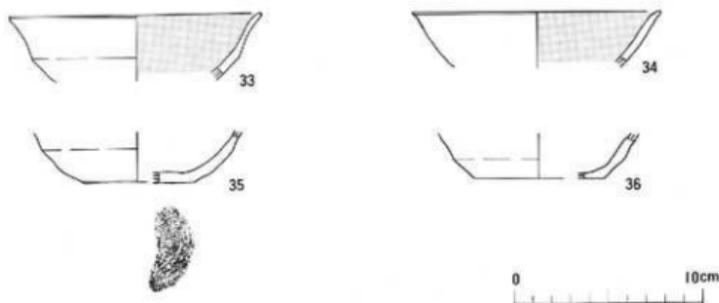
第53表 C区グリッド出土遺物一覧表(8)

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
33	坏 土師	N5E 3-75	口径13.4 残高 3.5 口縁部～体部1/3	胎：細砂粒多く含有 色：良 色：外10YR7/4 におい 黄褐色 内黒色	体部内等して立上がり、口縁部大きく外反する。	口縁部横位の「撫で」、体部輪軸による「撫で」	横位の「撫で」 黒色処理
備考							
34	坏 土師	N5E 3-75	口径13.2 残高 3.2 口縁部1/6	胎：石英粒、粗砂粒含有 色：良 色：外5YR7/4 におい 橙褐色 内黒色		口縁部横位の「撫で」 体部「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部「撫で」 黒色処理
備考							
35	坏 土師	N5E 3-75	残高 2.6 底径 6.0 底部～体部1/3	胎：粗砂粒多く含有 色：良 色：外5YR7/4 におい 橙褐色 内7.5 YR3/1 黒褐色		轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	置状工具による「磨き」か
備考 轆轤回転方向不明。							
36	(残) 土師	N5E 3-75	残高 2.4 底径 7.0 底部～胴部下位1/8	胎：粗砂粒多く含有 色：良 色：外5YR4/2灰褐色 内7.5YR7/3 におい 橙褐色	器厚の薄い底部から縁のある胴部下位へ至る。	胴部下位横位の「撫で」 底部不明	横位の「撫で」
備考							

第54表 C区グリッド出土遺物一覧表(9)



第87図 C区グリッド出土遺物実測図(8)



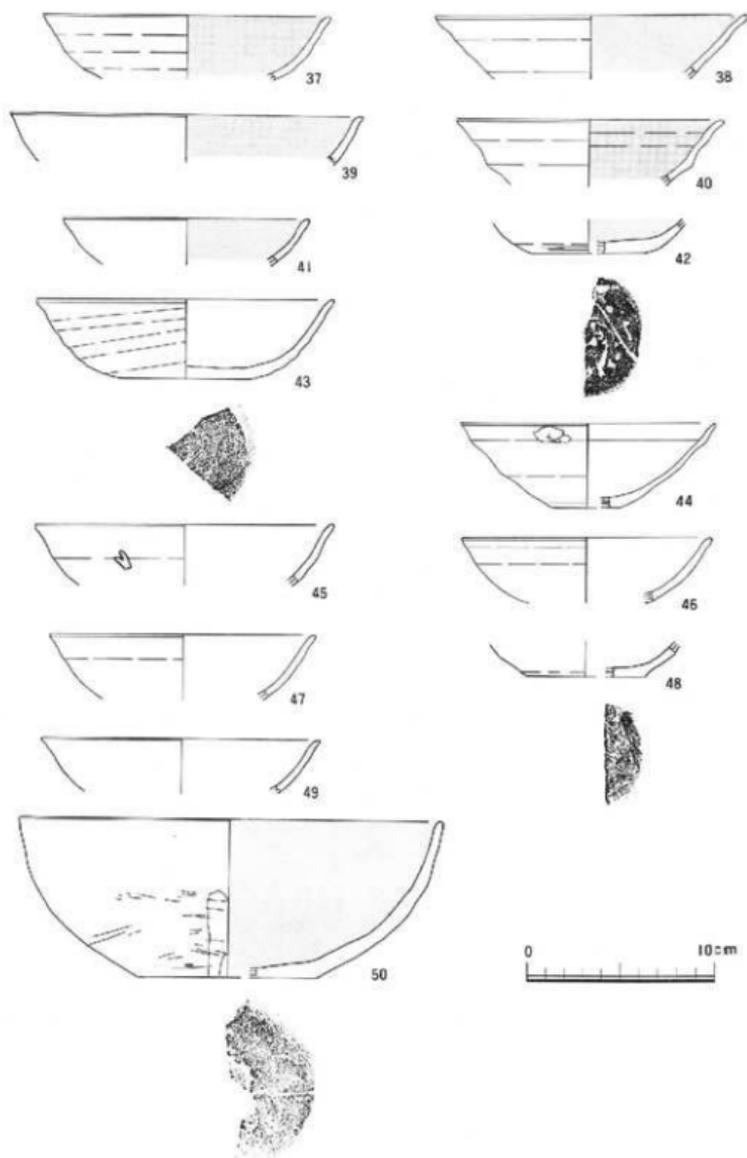
第88図 C区グリッド出土遺物実測図(9)

番号	器種型	位置	法	量	器	質	成形・形態	装		形		技		法		
								外	内	外	内	外	内			
37	土 師	N5E 3-74	口径15.0 残高 3.4 口縁部1/12		胎：細砂粒多く含有 施：良 色：外5YR5/6 明赤 褐色 内黒色	胎部は緩やかな稜を有し、強く内彎し、口縁部短く僅かに外反する。	口縁部傾位の「撫で」、体部傾位による「磨削り」	口縁部傾位の「撫で」、体部傾位の「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部傾位の「撫で」							
備考																
38	土 師	N5E 3-74	口径16.4 残高 3.4 口縁部1/8		胎：粗砂粒多く含有 施：良 色：外7.5YR8/3 浅 黄棕色 内黒色	胎部はほぼ直立し、口縁部で僅かに外反する。	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	
備考																
39	土 師	N5E 3-74	口径18.6 残高 2.6 口縁部1/16		胎：細砂粒多く含有 施：良 色：外5YR6/3 にお い棕色 内黒色	口縁部ごく僅かに外反する。	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部下位軸線による「撫で」	
備考																
40	土 師	N5E 3-74	口径14.1 残高 3.5 口縁部1/8		胎：粗砂粒多く含有 施：良 色：外7.5YR7/4 にお い棕色 内黒色	胎部外面に強い、内面に弱い稜を有し、口縁部僅かに外反する。	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	
備考																
41	土 師	N5E 3-74	口径13.0 残高 2.5 口縁部1/4		胎：粗砂粒多く含む 施：良 色：外7.5YR7/6 棕色 内黒色		口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」	
備考																
42	土 師	N5E 3-74	残高 1.9 口径 6.2 底部 1/2		胎：細雲母、粗砂粒多く含有 施：良 色：外5YR7/4 にお い棕色 内黒色	平底の底部から胎部へ内彎して立上がる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。	胎部下位「范削り」、底部回転范切りと思われる。
備考																
43	土 師	N5E 3-74	口径13.6 器高 4.2 口径 6.6 口縁部1/4 体部～底部 1/6		胎：粗砂粒、細砂粒含有 施：良 色：外7.5YR5/3 にお い棕色 内10 YR4/1 黄灰色	粘土紐左回転の巻上げ。 胎部に稜を有し、口縁部僅かに外反する。	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」、底部回転范切り	口縁部傾位の「撫で」、体部軸線による「撫で」、体部軸線による「撫で」								
備考																

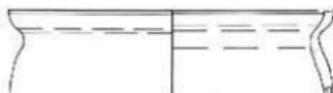
第55表 C区グリッド出土遺物一覧表(10)

番号	器種類	位置	法	量	器	質	成形・形態	整形技法	
								外	内
44	土師	環	N5E 3-74	口径13.6 器高4.2 底径3.4 口縁部一底 部1/8	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外内7.5YR6/6 褐色	小さな底部から体部 縦やかに内彎しなから 立上がり、口縁部に至 る。	粘土紐巻上げ、口 縁部横位の「撫 で」、体形輪縁に よる「撫で」、底 部不明	口縁部横位の「撫 で」、体部形状上 部による縦位の 「撫で」。	
備考	口縁部に粘土溝付者。底面回転軸心切りの後、再度粘土を盛っている。								
45	土師	環	N5E 3-74	口径15.8 器高3.2 口縁部1/8	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外7.5YR6/8褐色 内N2/ 黒色	体部は内彎し、口縁部 僅かに外反する。	口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」	
備考	体部外面に粘土が付着している。								
46	土師	環	N5E 3-74	口径13.3 残高3.5 口縁部一底 部1/7	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外7.5YR7/4 にお い褐色 内10YR 7/3 におい黄褐色	体部開き気味に内彎し ながら立上がり、口縁 部でごく僅かに外反す る。	口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 体部不定方向の 「撫で」	
備考									
47	土師	環	N5E 3-74	口径14.1 残高3.5 口縁部1/9	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外5YR5/2灰褐色 内5YR4/2 灰褐色	体部開き気味に内彎し ながら立上がり、口縁 部でごく僅かに外反す る。	口縁部横位の「撫 で」 体部形状工具による 横位の「撫で」、斜位の 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 体部形状工具による 横位の「撫で」	
備考									
48	土師	環	N5E 3-74	残高1.7 直径6.4 底部1/3	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外内7.5YR6/3 におい褐色		体形輪縁による 「撫で」 底面回転軸心切り	不定方向の「撫 で」	
備考									
49	土師	環	N5E 3-74	口径14.8 残高2.8 口縁部1/10	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外内10Y6/1 灰色	口縁部外反する。	口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 体部輪縁による 「撫で」	
備考	外面に穴穿ある。								
50	土師	鉢	N5E 3-74	口径22.4 器高8.5 底径8.4 底部1/3 体部1/4 口縁部1/16	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外10YR8/3 浅黄褐色 内N2/ 黒色	体部は内彎し、口縁部 は直立する。	口縁部横位の「撫 で」、体部上位形状 工具による横位の 「撫で」、体部 下位「覆削り」	口縁部一底部位 横位の「撫で」、 体部下位一底部位 形状工具による「撫 で」及び「磨き」	
備考	底面外面は切磨しの後、粘土を盛っており、整形技法は不明である。								
51	土師	土師	N5E 3-74	残高2.0 底径9.6 底部のみ	胎:粗砂粒含有 焼:良 色:外内7.5YR6/6褐色	内面に2度粘土を盛っ て切っている。	底面回転軸心切りの 後、一部「磨き」 で	底面回転軸心切りの 後、中央に再度粘土 を盛って、凸部 を回転軸心切りにか ける。	
備考	横縁有回転。								
52	土師	土師	N5E 3-74	口径17.0 残高4.5 口縁部一底 部1位1/10	胎:粗砂粒多く含有 焼:良 色:外5YR6/8 褐色 内7.5YR5/3 におい褐色	粘土厚詰め上げ 口縁部を面取りし、口 縁部の内彎が強い。 頸部は「く」の字1次を 呈する。	口縁部横位の「撫 で」 頸部一底部位輪縁 による「撫で」	口縁部横位の「撫 で」 頸部一底部位輪縁 による「撫で」	
備考									

第56表 C区グリッド出土遺物一覧表(11)



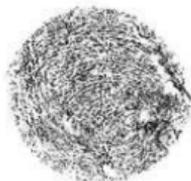
第89図 C区グリッド出土遺物実測図(10)



52



51



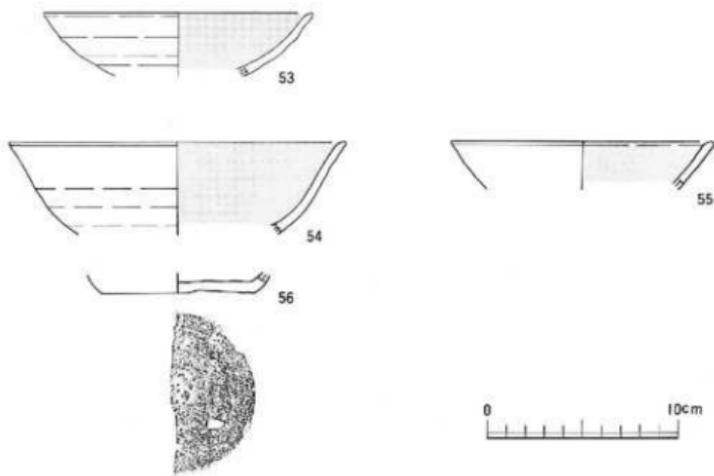
第90図 C区グリッド出土遺物実測図(1)

番号	器種	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
53	土師	NSE 3-66	口径14.2 残高3.4 口縁部~体部 1/10	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR8/3 浅 黄橙色 内黒色	体部は内押し、口縁部僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部横轆による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部「撫で」 黒色処理
備考							

第57表 C区グリッド出土遺物一覧表 (12)

番号	器種	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
54	土師	NSE 3-66	口径17.8 残高5.0 口縁部1/9 体部 1/6	胎：粗砂粒多く含有 成：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	体部はほぼ直立し、口縁部で僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」、体部横轆による「撫で」の後不定方向の「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部尻状工具による「撫で」 「磨き」黒色処理
備考							
55	土師	NSE 3-66	口径13.8 残高2.6 口縁部1/12	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/3 にぶい橙色 内黒色	体部から口縁部へ直立する。	不明	丁寧な「尻磨き」 黒色処理
備考							
56	須恵	NSE 3-66	残高0.7 底径8.2 底部 1/2	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色		底部回転削切り	横轆による「撫で」
備考 一部不完全な還元焼成。内外面に火押ある。							

第58表 C区グリッド出土遺物一覧表 (13)



第91図 C区グリッド出土遺物実測図(12)

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
57	土師	N5E 3-38	残高 3.4 底径 5.6 底部完存 体部一部	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4 に ぶい棕色 内黒色		体部「撫で」 底部回転糸切り	丁寧な「鈎磨き」 黒色処理
備考							

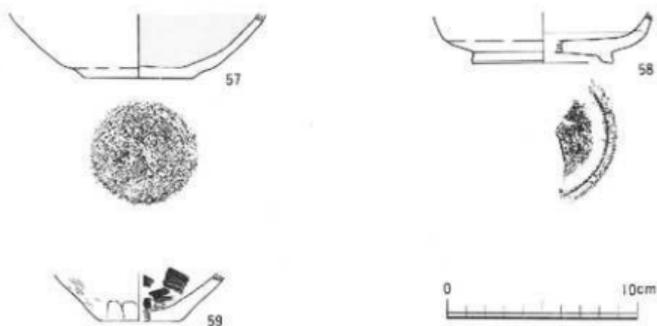
第59表 C区グリッド出土遺物一覧表 (14)

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
58	須恵	N3E 3-22	残高 2.5 底径 7.3 底部 1/3	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外N6/ 灰色 内N7/ 灰色	付け高台 粘土密積み上げ	体部嘴轆による 「撫で」、体部下 位嘴轆による「鈎 削り」、高台部嘴 位の「撫で」、底 部回転糸切り	轆による「撫 で」
備考 高台接合痕が明瞭である。底部鈎切りが中心に及んでいない。							

第60表 C区グリッド出土遺物一覧表 (15)

番号	器種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
59	(須)土師	N5E 3-1	残高 2.4 底径 4.4 底部～明部 下位 1/4	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/6褐色 内10R3/6 暗赤色		底部下位「鈎削 り」 底部鈎切り	篋状工具による 「撫で」
備考							

第61表 C区グリッド出土遺物一覧表 (16)



第92図 C区グリッド出土遺物実測図(13)

## 第4章 ま と め

林之郷遺跡は上田市の東方に位置し、神川の形成した扇状地の第2段丘面に所在する。前述したように本遺跡は遺跡群としてとらえられるもので、この扇状地の微高地を中心とした一帯にいくつもの遺跡が分布していることが、早くから知られていた。近年、この面も道路敷設や住宅団地・工場造成などによる土地開発が急速に進行してきたところである。昭和49年にはこの地を東西に横切る広域農道開削工事が行われ、これに伴う太田・茅御堂間遺跡の調査が実施されたのが、一帯の考古学的究明の最初であった。その後は同段丘では、下郷地域などで若干の調査が行われたものの、林之郷集落周辺では今回の調査まで、とくに考古学的な調査がなかった地域である。今回の発掘調査は、林之郷地域の県管は場整備事業及びみれあい農園整備事業に伴うもので、調査実施面積はA・B区あわせて約2200㎡以上にわたるものであった。このうち調査によって検出された遺構は住居址16軒・掘立柱建物址3・土壙・溝址・ピットなどであった。また、遺物はそれぞれ個々の遺構に伴う土師器・須恵器およびその他の遺物など比較的豊富であったといえる。それぞれについては前章で述べてあるので、ここでは簡単にまとめておきたい。

検出された住居址のプランは、隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈すものであり、そのうちカマドをもつ住居が大半であった。

第1号住居址のカマドは東壁南隅にあり、やや不自然な感じである。また確認された遺物も必ずしも床面からのものではなかった。カマド内から検出された土師器皿はいずれも底部回転米切りで、また土師質とみられる羽釜もカマド内より見つかっており、おおざっぱに平安時代後半の様相を呈しているとみられる。第2号住居址は比較的小規模プランであり、遺物は土師器杯・甕、須恵器杯・甕などが検出されている。土師器杯はロクロづくりでなく、内面黒色処理が施され、長胴甕は「く」の字状口縁を有す。また須恵器杯も底部ヘラキリ手法をとり、全体的には古墳時代後半の様相をもつ。また、第3号住居址内出土の遺物は土師器杯・甕・須恵器杯・蓋などであるが、すべて覆土中からの検出であり、必ずしも住居構築の年代決定とはならない。しかしこれらの資料の、とくに須恵器杯の底部ヘラキリおよび蓋の環状ツマミの形状などから、8世紀前半位とみることができようか。また、西北に隣接する第4号住居址内検出遺物も、ほとんどが覆土中からである。須恵器杯の底部調整はヘラキリで、第3号住居址とほぼ同様な時期とみられる。

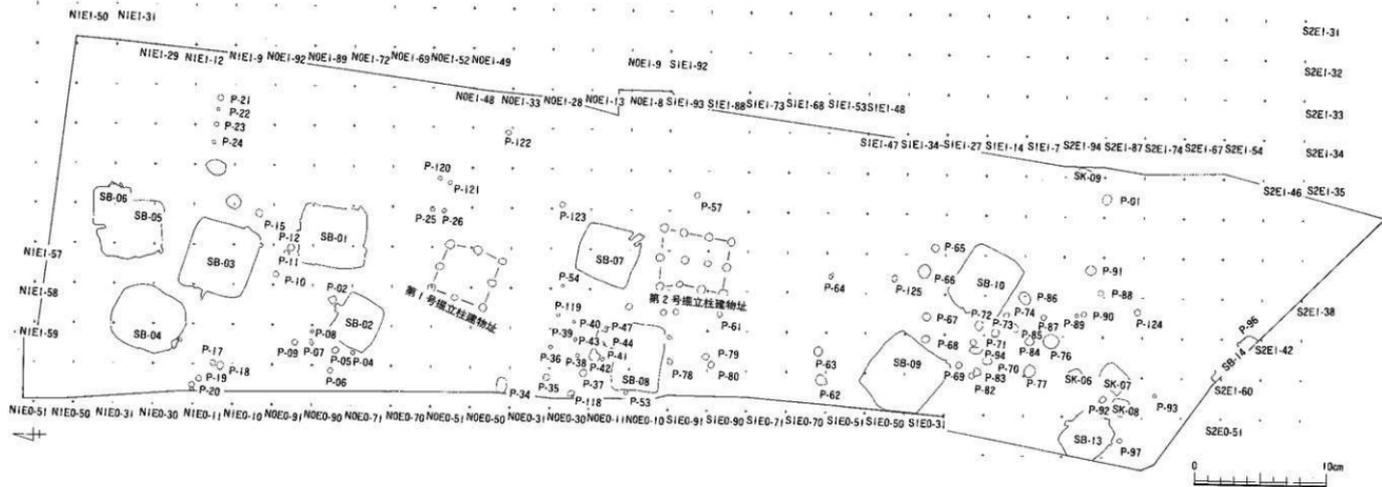
第5号・6号住居址は重なりあっており、6号が後に構築されたものである。第5号住居址の西壁中央に造られたカマド内からは、口唇部を面取りし胴部下半をヘラケズリした土師器長胴甕などが検出されているし、覆土中からは底部ヘラキリの須恵器杯が確認されている。また、小規模の6号住居址からも、須恵器杯・叩き日をもつ甕・蓋、土師器甕などが検出され、遺物からみたかぎりでは、両住居址ともあまり時間的へだたりがなものとみられ、古墳時代末から奈良時代前半位に比定できようか。また、A区のはは中央に確認された第7号住居址は、1号住居址と同じようにカマドが東南隅に造られている。このカマド内より土師器足高台付杯・甕あるいは

羽釜などが検出され、平安時代後半の様相を呈している。さらに第8号住居址内の遺物はいずれも覆土中のものであるが、須恵器環・蓋・甕、土師器環などが検出され、ロクロ成形による須恵器が多くみられた。この須恵器には高台付もみられ、蓋はかえしのない器形であった。

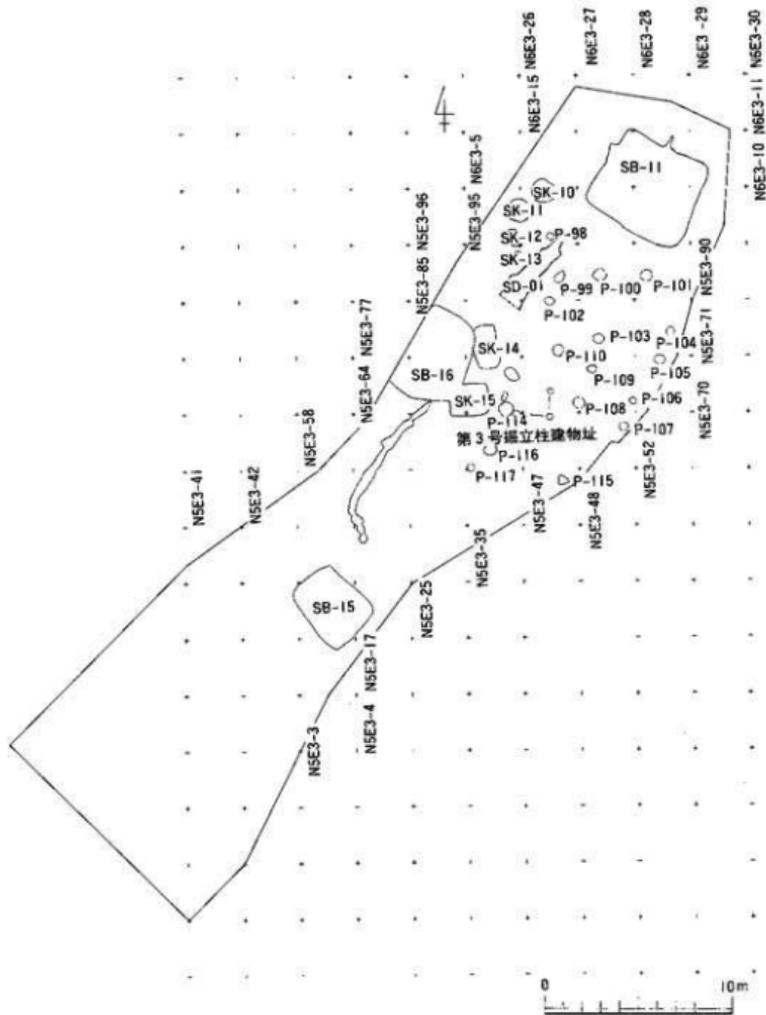
第9号住居址からは、かなりの遺物が検出された。土師器環・甕、須恵器環・蓋・甕などであるが、土師器・須恵器の環はいずれも底部へラキリによる切り離しである。また、土師器環には内面黒色処理を施したものが多くみられ、全体的に8世紀後半の様相を呈しているものと思われる。第10号住居址からの出土遺物はわずかで、またいずれも覆土中のものであり、本住居址の構築時期を推定することは無理であった。

C区の北端に確認された第11号住居址からも比較的多くの土師器・須恵器が検出され灰輪陶器も共存した。しかし、底面からの出土は少なく、覆土中よりの資料が多かった。土師器環は内面黒色処理を施し、底部へラキリによる切り離し手法と回転糸切りによるものが混在している。また、糸切り付高台付環も僅かみられる。須恵器環も回転糸切りによるもので、蓋のツマミの形状もいくつかみられた。また、A区の南側に確認された第13号住居址からも遺物の出土が多かった。とくに須恵器環が多く、底部回転糸切り・へラキリの切り離し手法が混在している。須恵器蓋のツマミは扁平な宝珠形を呈し、土師器甕の口縁部は「コ」の字状に外反するもので、8世紀の後半から9世紀前半位に位置づけられるものであろうか。第14号住居址はA区の南端に検出されたが、大半が調査区域外のため内部の精査は出来なかった。したがって、出土遺物も僅かでまた小片のため図示するに至らなかった。さらにC区に確認された第15号住居址は、カマドや柱穴等の遺構が不明のため、果たして住居址となりうるか疑問であるが、一応住居とした。底部回転糸切りの須恵器環や土師器甕など僅かに覆土中から検出されている。また、C区に検出された第16・17号住居址は重複しており、先に17号が構築され、後に16号が構築された。第16号住居址からも多くの土器が確認されている。土師器環の底部はへラキリ・回転糸切りが混在し、内面黒色処理したものもみられる。また高台付環や甕、須恵器環・叩き目のある甕も共存し、かなり混在しており構築時期は不明である。第17号住居址も16号に切られたり、また北壁とカマドの部分だけが検出されただけだが、意外と出土土器が多い。土師器環の底部は回転糸切りで、内面黒色処理したもの、あるいは高台付などがある。土師器甕は「く」の字状・「コ」の字状が共存するが、平安時代の前半位であろうか。以上、検出された16軒の住居址をみてきたが、その構築時期はおおざっぱにみて奈良時代後半から、平安時代後半にまでわたることが確認できた。

また、掘立柱建物址はA区で2・C区で1と、合計3棟確認できたがいずれも遺物とも関係が把握されにくいので、構築時期の推定が難しい。しかし、第2号掘立柱建物址の掘り方の埋土中から、平安期かそれ以降とみられる須恵器甕・環の小片が検出され、およその時期が推定されたことは幸いであった。なお、いくつかの土壌および溝址も検出され、出土遺物も多い遺構もあるが、その性格等については不明であり、今後の課題としたい。



第93图 A区遺構全体図



第94图 C区遺構全体图

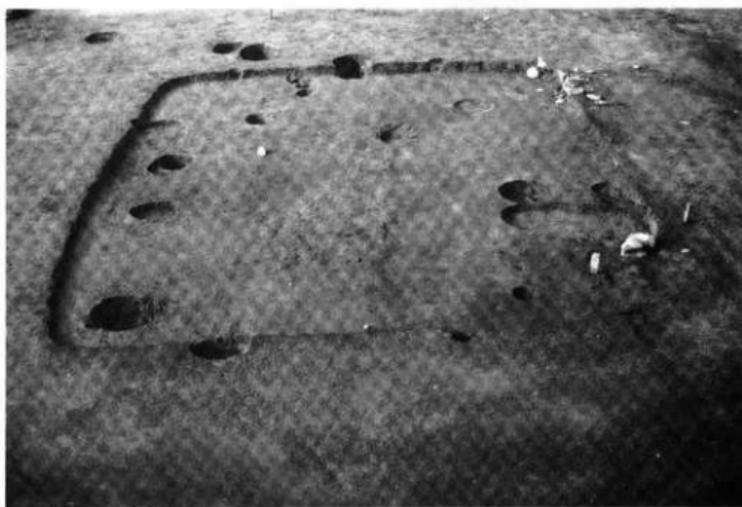
# 写 真 图 版



林之郷遺跡周辺航空写真（S44年）



A区航空写真(S)



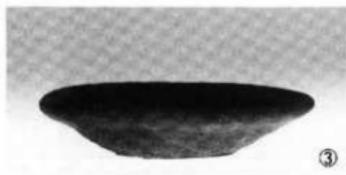
第1号住居址(S)



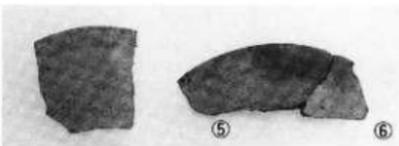
①



②



③

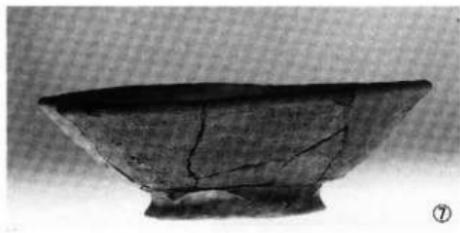


⑤

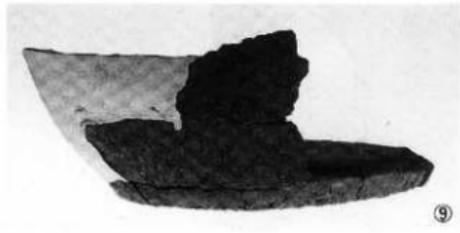
⑥



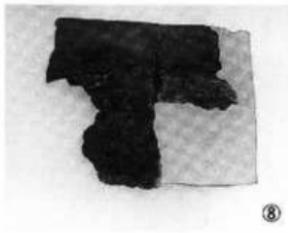
④



⑦



⑨

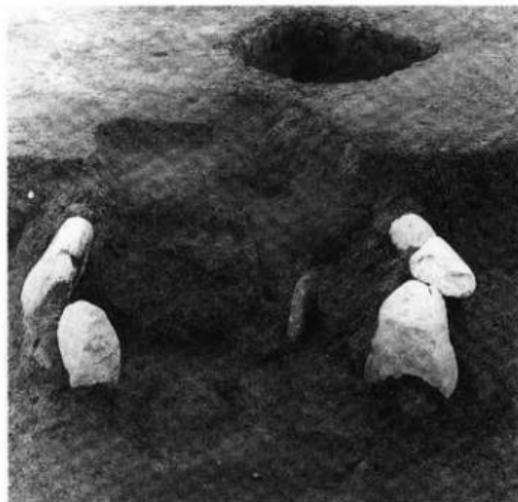


⑧

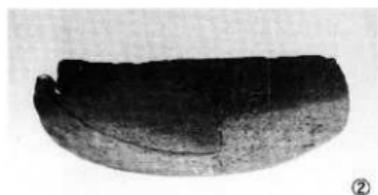
第1号住居址出土遺物



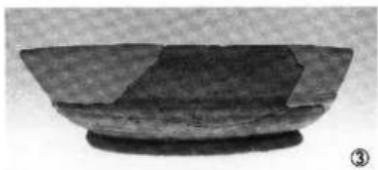
第2号住居跡 (SW)



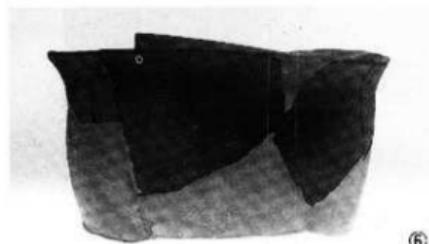
第2号住居址竈 (SW)



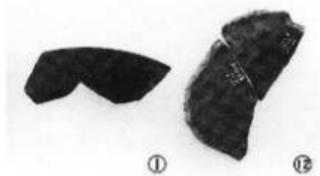
②



③

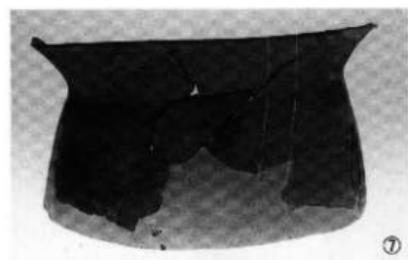


⑥

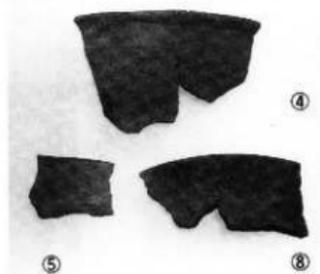


①

⑫



⑦



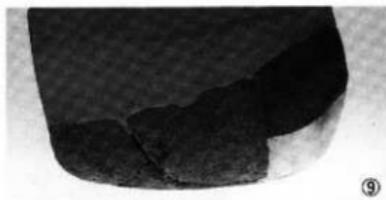
④

⑤

⑧



⑯



⑨



⑪

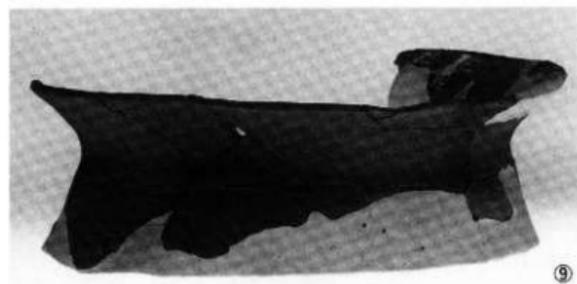
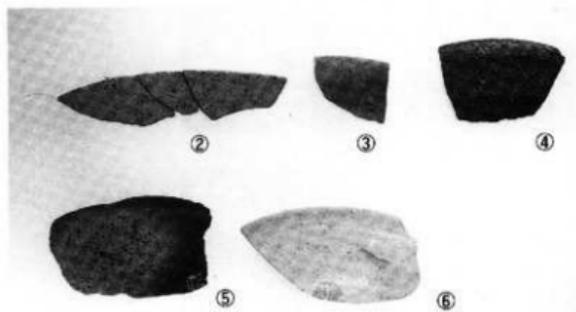
第 2 号住居址出土遺物



第3号住居址(E)



第3号住居址竈(E)



第3号住居址出土遺物



第4号住居址



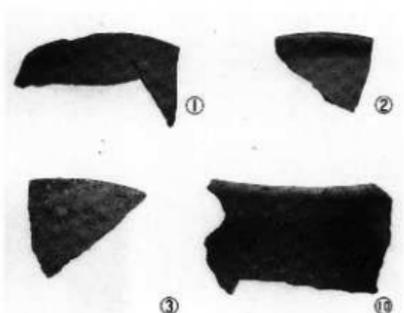
⑦



⑧



⑨



第4号住居址竈

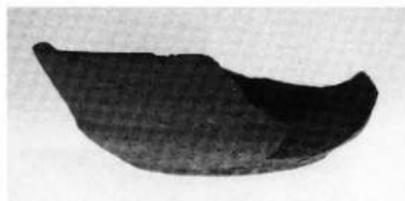


⑪



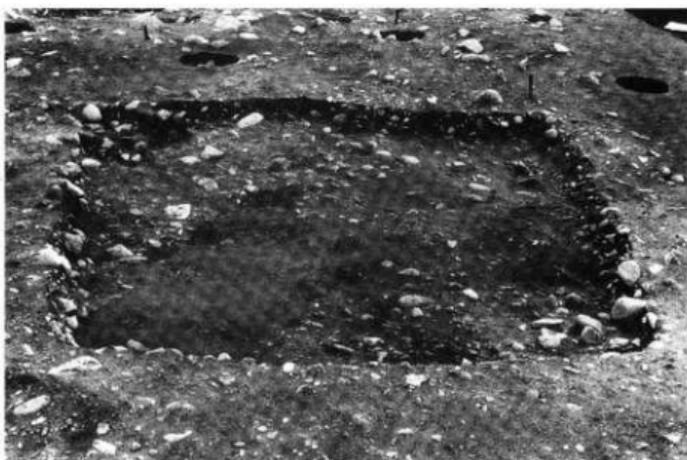


第5号住居址（手前は第6号住居址）（E）

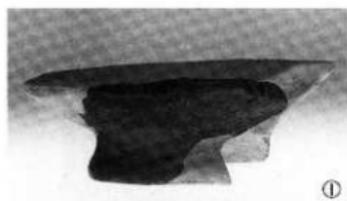




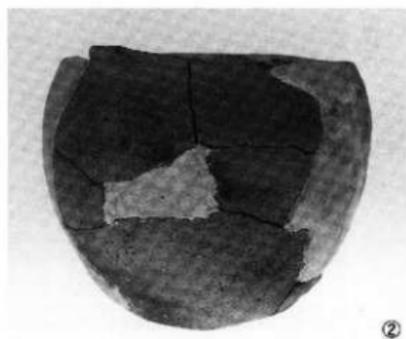
第5、6号住居址（手前は第5号住居址）（W）



第7号住居址（N）



①



②



③

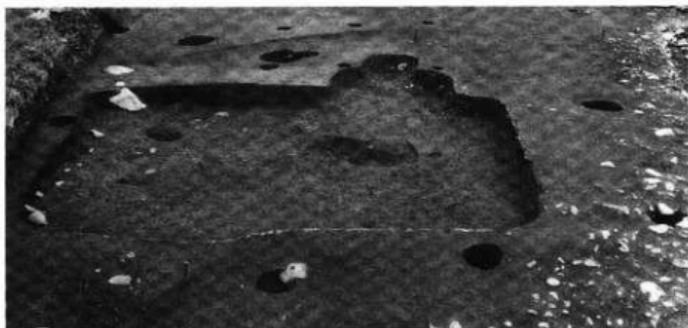


④

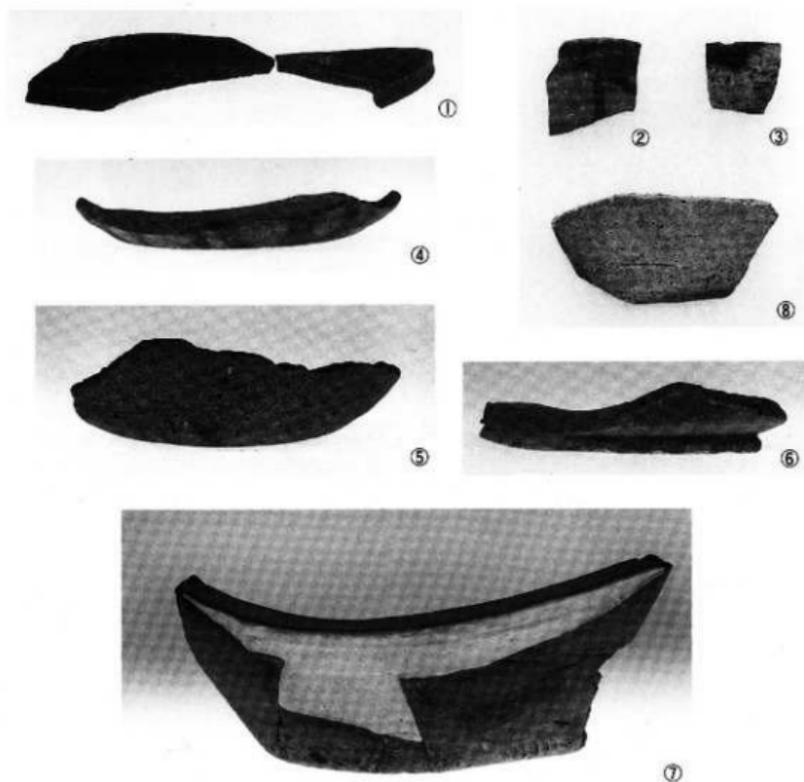
第7号住居址出土遗物



A区航空写真



第8号住居址(S)



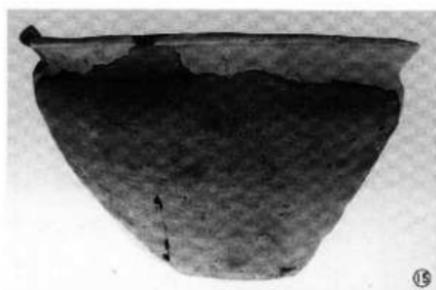
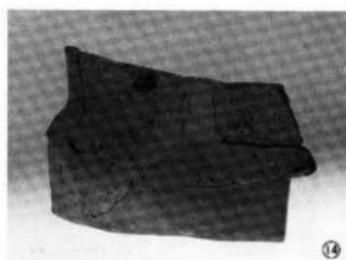
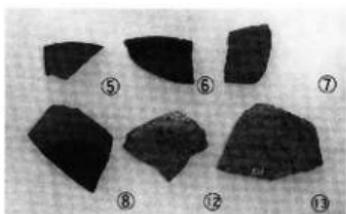
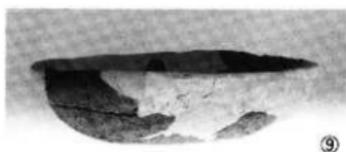
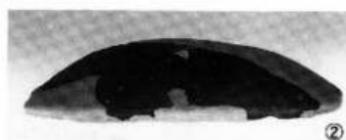
第8号住居址出土遗物



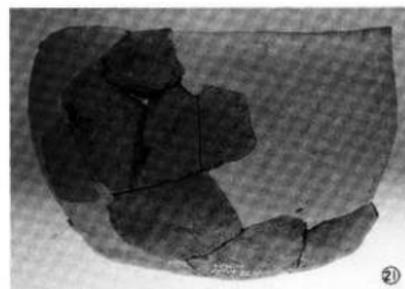
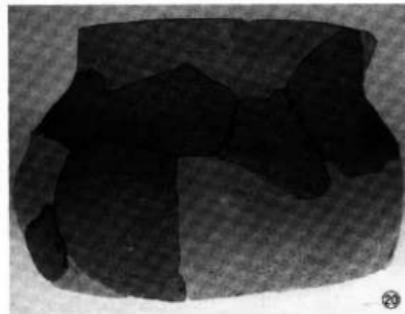
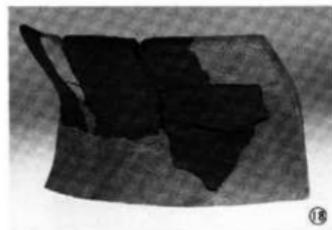
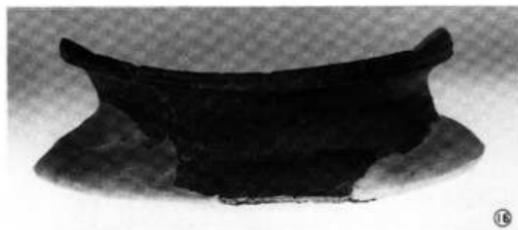
第9号住居址 (SE)



第9号住居址竈 (SE)



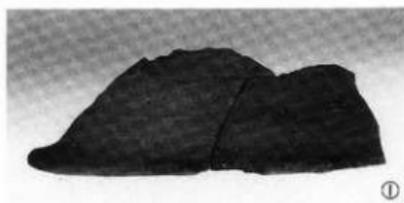
第9号住居址出土遺物(1)



第9号住居址出土遺物(2)



第10号住居址



①



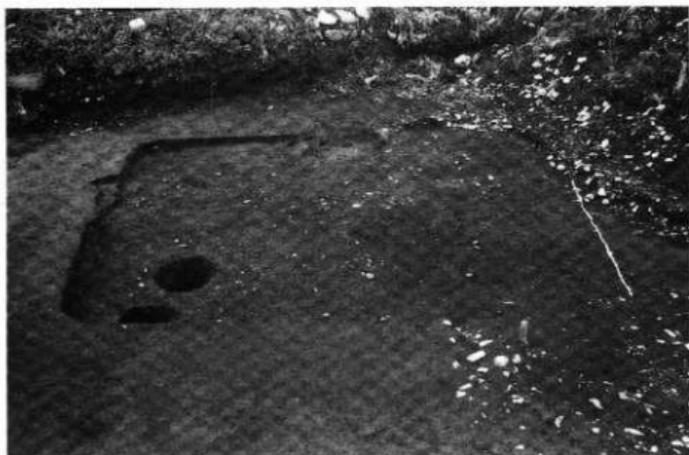
②



③



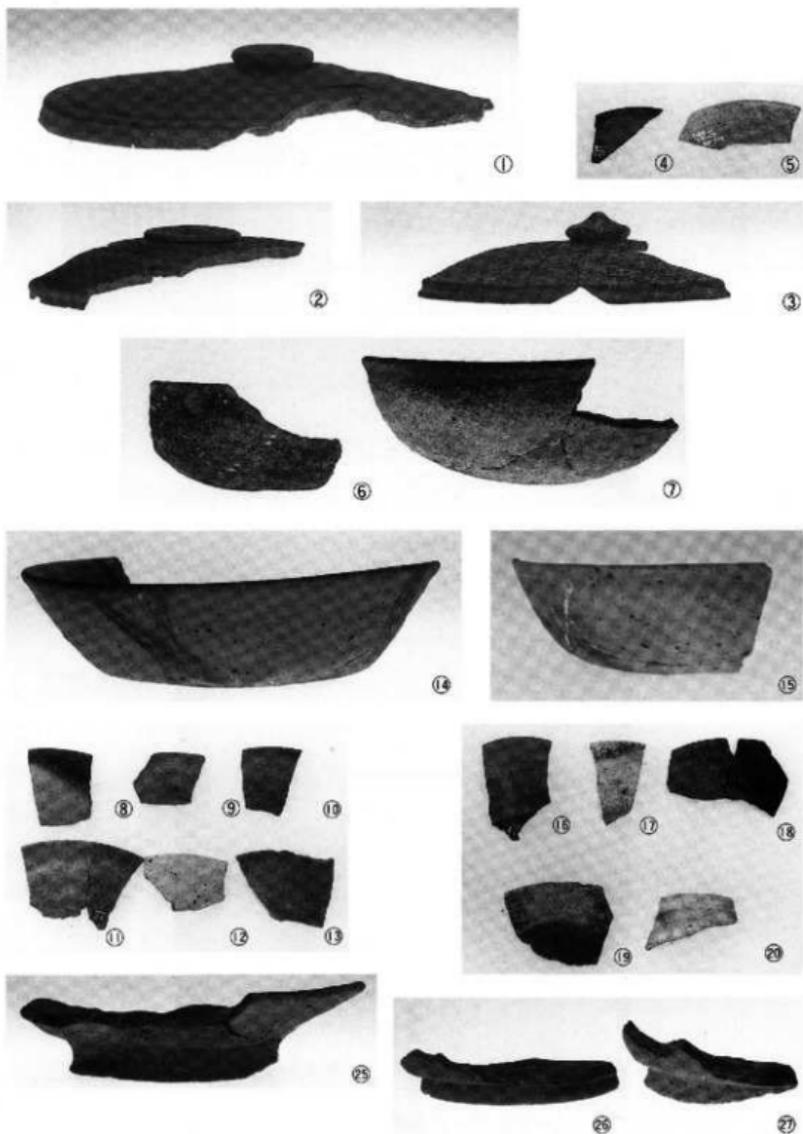
調査風景



第11号住居址 (S)



第11号住居址竈 (S)



第11号住居址出土遺物(1)



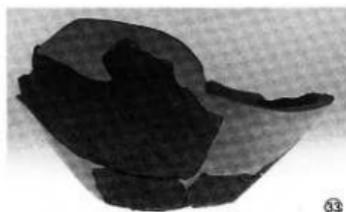
28



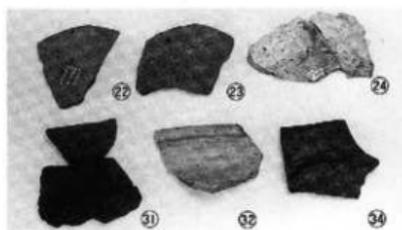
29



30



33



27

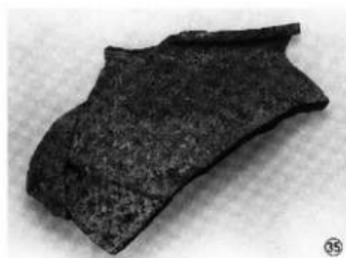
23

24

31

32

34



35



C区远景 (E)

第11号住居址出土遺物(2)